

人の功績を認め、忠實に之と協同して益、改革の實を擧げんとするものなきにあらず。

英人埃及占領の當初、政府の要路に立ち、同時に多大の耕地を私有したる土耳其埃及人の一團は、英人の干渉に依りて埃及人に對する掠奪を禁止せらるべきを直覺し、深く之を嫌惡せり。彼等は時にコンスタンティノープルに秋波を送り、土耳其帝の宗教的權力を借り來りて、英人を威嚇せんと試みたり。されど若しこの回教國の法皇が、彼等の秋波に動かされ、法衣を脱し劍を執りて政權を揮ふに至らば、彼等は却て失望の淵に沈まざるを得ざりしなり。尙彼等は愛國心の炎名の下に、歐人に對して其他の埃及住民を團結せしめんとする傾向を示したれども、これ實に不可能の事にして、彼等は到底純埃及人と事を共にすべき者にあらずり。要するに代表的土耳其埃及人の特色は、誰に對しても強き敵意を挟むことに、彼等は自己を制退する英人を憎み、制退し難きの故を以て純土耳其人を惡み、自己の奴隸と看做して埃及人を輕侮せり。

埃及の政治界に漂泊せる幾多の漠然たる理想は、大抵皆痴人夢を説くの類なる

が、殊に土耳其埃及人の理想は、其最も甚しきものと做すべし。即ち彼等は曾て占有し且つ濫用せし名譽ある地位を恢復せんとする者なるが、其事たる竟に實現の期なかるべし。

以上土耳其埃及人の缺點を述べしが、彼等にも是等の短所を償ふべき幾分の長所なきにあらず。即ち彼等が人の上に立つべき人種なりとの思想は、今も猶幾分彼等の心中を支配し、爲めに其性格には埃及人に比して一層男子らしき美點あり。而して此性格は彼等の血管に土耳其人種の血液の流るゝこと多きに從ひて、愈々顯著なるを見るべし。彼等は粗雑ながらも體面に關する一定の標準を有し、歐人と多少趣を異にすれども、能く人に對して胸襟を開くことあり。埃及の各地に於て、幾分の精力を要する行政的事業が、歐人の力を借らずして成功せるものあらば、事に腐りし者は、チャーケレンアンにあらずんば、多くは土耳其埃及人中の比較的埃及化せざる者なるを見るべし。斯く彼等が今猶多少治者の資格を具有するが爲めに、其性格に幾多の缺點あり、且つ其種族が概して英人を嫌惡するに拘らず、英人は個人として純埃及人、シリア人、アロマニア人よりも、寧ろ土耳其埃及人



と観むこと多し。メーバー・パレンは曾て英人を評して西方の土耳其人と謂ひしが、兩者共に自ら大帝國の臣民を以て處り、他を支配し得る性質を具する點に於て、幾分相似たるものあるべし。

埃及の回教徒中の第二類、即ち普通の埃及人は之を僧侶、紳士、農夫の三に分つを得、今先づ僧侶の階級に就きて説かん。

埃及に於ける回教の本山たるエル・アザー寺院には、政府の公認せる顯著なる宗教的團體ありて、其會員をアリムと稱し、ケア、イブより給與する褒衣を着くる特權を有す。其人員には定限ありて、候補者は此寺院に附屬せる大學に學び、聖經傳説並に回教法典の三者に就き試験を受くる必要あり、而して此試験を通過せざるものは、假令博學にして聖經の全部を誦誦し得るも、主要なる寺院に於て回教の教義を説き又は其法典を説明する資格を有せず。

アリムの占むる最も重要なる位置は、シラント・マフア、エル・アザー大學總長、シラント・ケニアの三にして、最後のものはコンスタンティノープルに於て其稱號を受く。

シラント・マフアは一國最高の法典家にして、回教法典に關する疑問に對し、最後の批判を下すを以て其任務となす、而して宗教に關係ある事項に就きては、政治界の主權者も其説に背くを得ざりき。即ち横暴なるケア、イブがシラント・マフアの自由を束縛せんとし、若くは其判決を破棄せんとする者あれば、多くはかの自らカーノアールに行きて罪を法盤に謝せしヘンリー四世と同一の運命に陥るを常とせり。傳ふる所に據ればかのスレーマン・ザ・マフ、セントの如き人にして猶且つ此教權に反抗するを得ざりしと謂ふ、英人政治家に至りては必ずしも斯くの如くならずして、例へば曾て彼が磔刑を以て寸毫も非難すべきものにあらずとなすや、英人は埃及人に告ぐるに、假令文明の潮流は未だ回教寺院内に入らずとも、磔刑を廢せしめんが爲めには、外交に依り、新聞紙に依り、已むなくんば兵力に訴へても其目的を達すべきを以てし、直ちに事件を解決せり、されど斯かる殘酷なる主張に對して稀に不認可權を使用したる外は、英人も亦大抵シラント・マフアの存在を認め、敢て干渉を試みざりき。即ち假令無害有効なる社會的並に法律的改革と雖、マフアにして一度之を神意に背くものとして禁止するあらば、



英人は大抵其意に従ふを常とせり。歐洲に於ては曾て法皇其他の宗教家が其權威の兵力を以て用すべからざるを示し、がグランド・マフア、以下も亦彼等自身は毫も英兵を恐れざりき。況や歐人の新聞紙をや。

エル・アザー、大學總長は諸方の寺院に於て講義をなすアリムに對し、一定度の統轄權を有す。余の埃及に赴任せる最初の數年間此職に在りしは敵すべき老人にして、余の親友なりき。但し遊歴の進行に關して彼と意見の一致せざりしは、曩に述べし所なり。

グランド・ケーアは恐らくはアリム中の最も偉大なる者なるべく、現時に在るまでにコンスタンツ、ノリアルの土耳其人中より選拔せられたり。彼は今日と雖も個人の身分に關する總ての訴訟事件に對して、最後の判決を下す職權を有す。註彼の法律思想が時勢の進運に伴はざる爲め、刑事並に民事に關する事項は、其裁判權を奪はれしなり。余がカイロに赴任の當初此職に在りし人は今も猶余の記憶に明かなり。彼の氣品ある類には銀髮長く垂れ、優雅なる衣服の袖よりは纖小なる手露れ、飽くまで威儀の關へる様子は、人をして一見異様の威を起さしむ。

余は彼を見て、對木のサン・ヘツラムの議員たりしハリサイ人を聯想せり。彼の舉動は實に間然する所なかりしが、其判決は必ずしも斯くの如くならざりしならんか。彼の後繼者は一層年若き伶俐なる相貌を有せる美男子にて、其カイロに來るや、僞證人を彼の法廷より一掃せんと欲し、余が此問題に就き土耳其語を以て彼と談じ得るを大に欣びたり。余も亦己が味方を得たるを喜び、興味を以て其結果を俟ちしに、久しからずして彼は埃及人濟度すべからずとの結論に達せり。蓋し彼は埃及人が腐敗せる制度に慣れ、且つ之を好むを見て、其改革に着手するは恰も刺を蹴ると一般なりと認めしものか。

以上三個の地位はアリム社會の最も重視するものなれども、此地位を占むる人は、單に回教の神學と古代の習慣とに通曉せる學者たるに過ぎず。尙此階級に屬する他の種の人々に就きて略述するも、幾分の興味なきにあらざるべし。

シーク・ユル・メクリも亦此社會の人の就くべき有名なる職にて、余のカイロ滞在中最初に此職に在りしは、顔面に痘痕ある瘦身短軀の人なりき。余がフマヤン日の訪問をなすや、彼は常に狡猾なる眼を以て余の様子を窺ひ、心中には恐怖と



情懇の念の交、起れるものゝ如くなりき。余は彼の家を去るに當りて、彼が余を呪ひ、一般英人を呪ひ、且つ我等の宗教を呪ふならんと感ずるを常とせり。されど余は同時に彼に對して秋毫の惡意をも挾まざりき。彼の死するや、彼より遙かに年若き弟、其職を招ぎしが、日ならずして兄と全然其性格を異にせるを認められたり。回教諸派の齊しく尊崇する地位に在る此人の口より、カリスマリー卿やゾフ、ドストロフンを知れることを誇り、流暢なる佛語を以てルーソフの人權説を論じ、議會政治の謳歌を以て陳腐なりと説き、最後に佛國革命の内に含まれたる哲理を探るに便なる書籍の借用を求むるを聞くに至りて、余は夢にあらすやと怪みたり。メカとマリートの混血兒たる此末世のルークは、回教最近の發達を代表するものか、非か。但し此珍奇なる混血兒は幾許もなく政治上無勢力の人となり、何等重要なる事蹟を残さざりき。

次に余はレーク、モハメド、エル、サー、マーと稱するアリムに就きて一笑話を擧げん。彼はモハメドの後裔にして、資産ある有力家なりき。余は曾て彼が英人に對して妄語を放つと聞き、恐らくは何等かの事情に由り、英人の爲めに個人的損失

を蒙れるに因るものならんと信じ、彼を訪ひて時局に對する意見を求めたり。彼答ふるに、萬般の事憂慮に堪へざるを以てせしかば、余は更に彼を慰撫して其説を述べしめたり。是に於てか彼は國內の絶望的情態に就きて、罵倒的長談論を敢てせり。余乃ち彼に求むるに、概括的議論は空漠に失する懼あるが故に、特殊の實例に徴して英人の稅政を指摘せんことを以てせり。彼百下に答ふるに、彼の耕地は英人の來る以前には水の供給充分なりしに、今や其一部は全く之を得ざるを以てしたり。彼の言ふ所は決して虚言にあらざりしも、これ實は已むを得ざりしにて、舊政の下に在りては、彼の階級が其耕地に充分なる水を得る特權を有したるに反し、英國技師が灌溉の事を掌りて後は、總ての耕地を平等に取扱ひしに因るなり。然るに偶然にも、余の訪問後數日にして、彼の土地が給水を受くる順番に當りしかば、彼は之を以て余の盡力に歸し、爾來英人の政治を稱讚するに至れり。レーク、モハメド、エル、サー、マーの甥レーク、アザツル、ケーリク、エル、サー、マーは、純埃及族の最も古き家系を有する人なり。曾てナポレオンは彼の祖先某の歡心を得んが爲め大に力を盡し、且つレーク、アザツル、ケーリク、エル、サー、マーの勳章を贈與せしも、竟に



其目的を達せざりしかば、却て之を苦刑の刑に處せしと傳へらる。其後裔たる現今のシークは政治を解せざれども、門閥に依りて席を立法院に有し、多少の勢力を揮ひ得る地位に在り、余は一時屢、彼に接せしが、後故わりて彼に違かるに違れり。

シーク、モハメド、アブは、以上述べ來れるアリム等に、一顧地を抜ける人にて、アラビ運動を鼓吹せし一人なりき。一八八三年、余の始めて埃及に來れる時、彼は政府の嫌疑の下に在りしが、善良なるアムール、クが英人の壓迫に因り之を救して法官に任命するや、彼は忠實に職務を勤み、能くその任に堪へたり。彼は又聰明にして能く大局に通せる人にして、東方諸國の政府部内に發生せる政權濫用の因て來る所以を察し、改革の實を擧げんが爲め、歐人の助力の必要なるを認めたり。されど彼は所謂歐化埃及人の如く、歐洲文明の外觀に心酔する者にあらずしが、故に、斯かる輩を目しては、之を歐人の出來損ひと稱せり。尙彼はケメリア並にパレンヤを好まざりしが、パレンヤ政治に對しては、必ずしも絶對的に反對せるにあらず、寧ろパレンヤ等の人格を喜ばざりしなり。彼は稍空想に流るゝ嫌ありしも、儘に純粹な

る愛國者にして、此種の人の出づると多きは、埃及の愛國主義の爲めには慶すべきことならん。されど彼並に其流を及び者は、之を政治家として觀察すれば、尙此武装に驕點あるを免れず。曾てヌマンレー、レーンアールは、上流の回教徒は熱烈なる信者たるべく、不信者は少くとも其不信仰を隱蔽せざるべからずと首ひしが、之に多少類似せる流弊は、福音の一句々々を重視する基督教徒の社會中にも起ることなれども、正教派回教徒の如き信仰の精神を顧みずして、全然經典に拘泥するもの、間に在りては殊に甚しきものあり。然るに彼アブは表面回教徒と呼ばれんことを欲したるべきも、實は宗教的信仰を有せざりしもの、如く、彼を知る者は彼の技倆を認めたれども、其絶對に對する態度は、信者にあらずして寧ろ哲學者なるを推測せり。而して嚴密なる正教派の眼よりすれば、哲學を研究する者、換言すれば七世紀と二十世紀との區別を認むる者は、地獄に墮する街道を歩める者と看做さるゝなり。

モハメド、アブの生涯の政治的意義は、彼がカイロ、アブ、メド(アリゾーン)大學の創設者の印度國內に傳播せし主義に似たるものを、始めて埃及に於て唱道した



る點にあり。此主義を奉ずる者は埃及國民運動のロンドン黨にして、頑迷なる保守的回教徒よりは、異教の勢力に感染せる者として排斥せられ所謂歐化埃及人よりは、其歐化の程度に於て未だ同情するに足らざる者と認められ、從て其事業は其だ困難ならざるを得ず。されど彼等は一方に於て、歐人改革者よりは、其自然の味方として、凡ゆる補助と獎勵とを受くべき價值を有すると共に、他方に於て、埃及の愛國者よりは、自治の國家の建設に向つて歩武を進むるに缺くべからざる要素として、重きを置かるべき者なり。

余は種々なる性格のアリムノ代表者として、最後にシーク・モハマド・ベークムに就きて述べん。彼は埃及に於ける余の親友の一人なるが、余は埃及在任中未だ彼の如き人格の人を見ざりき。彼は其外見に於ても實に稀に見る好紳士にして、其温雅なる容貌の内にも、頼の秀でたるは智能の發達を示し、眼の悲哀の色を帯ぶるは憂國の真情を洩らし、態度に威嚴あり、舉動に節度あり、衣服も亦能く其人格に調和し、人をして肅然然を正さしむるものありき。彼は屢、數時間の長きに彌りて余と懇談し、回教の衰頹に就て歎辭を洩らすを常とせり。余は生來未だ曾て此

ナムスの貴族よりも一層高尚にして醇化せる感情を有し、首行の利己的臭味を離れたる人を見たる事なし。彼の私行は何等の缺點なく、其信仰は嚴の上に築かれ、其愛國心は頑迷を作はず、其公事に盡すや飽くまで高貴なる精神を以てせり。然るに彼の靴の紐を解くにも足らざるペン・ヤシーク等が斯かる崇高優麗なる人格を認めざりしは、余が埃及人の社會より受けし最も不愉快なる印象なりき。斯くて彼の死するや、埃及政治界百輩も回教世界の一明星ともなり得べき人物の天外遠く消え去りしを知れる者甚だ夥かりき。余は左にベークムの詩の一節を引用して、敬愛する故人の面影を彷彿せしめんとす。

國士なる哉！！

真理を友として國の爲めに愛ひ、心直く行篤くして名も亦清し。

約を守ること堅實未だ友を失はず、身は世の爲めに盡せども曾つて榮稱を求めず。

モハマド・ベークムは政治家として必ずしも理想的の人物にあらざりしならんも、回教信者の精華としては最も敬重すべき人物なりき。彼の最も注意せし問題



は、如何にして回教の教義を近代の社會と調和せしむべきかにありしが、彼と此問題の各方面を詳論するに當りては回教を貶視する傾向は、直ちに消失せざるを得ざりき。之を道徳家の立場より觀れば、單純なる原始的回教の根本原理は、決して非難すべき者にあらず、只後世の濫用が之を濁濁せしめたるを遺憾とすべきのみ。彼は畢世滔々として皆其本心を失へるを愁み、回教の眞髓が虚偽虚禮の爲めに蔽はれ、内部已に腐敗して無邪の危きに瀕せるを嘆せり。彼は恒産なき破廉耻なる歐人の渡來に就ては多く意に介せざりき。何となれば假令回教徒が彼等の爲めに欺騙せられ掠奪せらるるとも、回教の道徳律と之に伴ふ物質的利益とが斯かる浮浪の徒の主義と實行とに對立する限り、回教の前途に猶一縷の光明を認めなければなり。されど彼は已にカイロの市街を轟かし、近くマンブールの市内にも響かんとする撃々たる太鼓の音が、實に英國の歩兵と騎兵とを伴ふのみにあらずるを知れり。即ち彼は英人の標榜せる崇高なる主義の侵入により、祖先以來の懐しき制度も遠からずして粉碎せらるべきを直覺せり。されば彼は飽くまで亞刺比亞の預言者の語に聽りつゝも、猶苦悶に堪へずして、何所に慧智

を見出すべきか、如何にして解悟の域に達すべきかと叫びたり。而して彼が自ら興へし解答は、其昔マアの道徳せし、神を畏るゝは慧智なり、惡より離るゝは解悟なり、の句に外ならざりき。此共通の見地に立ちては、彼の如き人格の回教徒は、基督教徒と宗教的軋轢の火花を散らさずして、能く共通の利害を談ずるを得たり。されど談論の結果は實に人をして噴涙を催さしむるものありき。先づ兩教徒は回教の原始的發育時代に於て健全なりし要素を、漸次に腐蝕し來りたる微菌の性質に就きて説を一にし、且つ此繁殖の經過に對しても類似せる見解を下すべし。然るに誠實なる基督教徒が、感服にして而も決然たる論鋒を以て、如何なる療法も此微菌に對して何等の効力なきを指摘するに及んで、忠實なる回教法は苦痛の中にも之を非難する能はず、最愛の宗教並にその生み出せる制度の運命に對して、只管慟哭するの外なかりき。此種の人士は眞に不運なる境遇にありと附よべく、殊に余は個人として、彼等に對して滿腔の同情を寄するを禁じ能はざるものなり。されど回教は之を政治的並に社會的に觀察すれば、已に瀕死の重症に陥れるものにて、如何に巧妙なる最近の療法を適用するも、數世紀を出でずして



結に腐朽すべきものなれば、實際政治の衝に腐る人士は、是等の志士も亦回教黨生の妙業たる能はざることを知らざるべからず。

以上教人のアリム的人格を品階せしは、單に一を貶し他を傷むるが爲めにあらず、彼等が各、埃及宗教家の一部を代表せるものと認めしを以てなり、但しアリムの階級は決して宗教家の全部にあらずして、其他の説教者若くは下級ケーブ、等も亦其内に數へらるべき者なり、是等を合算すれば、全國に散在せる宗教家の數は甚だ多く、國民の宗教心は彼等の力に依りて維持せられつゝあるなり、並に社會的見地より特に一言すべきは、最高のアリムより寺小屋の一小教師に至るまで、殆ど宗教家の全部が英人の改革に多少の敵意を抱きし一事なり、これ實に已むを得ざることにて、彼等も亦パンヤの如く、其長く享有し且つ濫用せし特權の英人の爲めに剝奪せられんことを虞れ、自己保存の本能の爲めに動かされつゝありしなり、即ちパンヤは其疎求を退うせし農民が英人の保護の下に自由を得んとするを憂ひ、アリムは英人が宗教に干渉せずとの宣言を破り、喜捨金の私有等に關して厭ふべき質問を提出するに至らんことを虞れたり、殊にアリムの大多數

は習已に性となり、寺院の維持、貧者の扶養、其他種々の博愛事業の爲めに使用すべき資金を有するを以て率る神意に協へるものと感じたれば、之を妨げんとする者あらば、彼等は憤怒に堪へざりしなり、尤もアリムの反感は單に自己の利害に基ける猜忌心のみにあらずして、回教の牙城の守護者としても、自ら極端なる保守主義に傾かざるを得ざりしなり、即ち回教徒の代表者たる彼等は、英人を以て祖先傳來の信仰の基礎を危うせんと企つるものと猜し、改革に先ちて已に之を嫌惡せり、而して英人が彼等の宗教と彼等の利益とに對して、飽くまで惡篤なる注意を拂ひしに拘らず、彼等の一部は他の方面に於ける改革の成功するに従ひ、自己の順位の刻々切迫し來るを恐れて、益々嫌惡の情を強うせり。

今や宗教家より轉じて郷士を觀るに當り、社會の階級を降るに従ひ、我等外來の回教徒に對する偏見が、其廣らせる物質的利益の認識に依りて多少緩和せらるるを發見すべし、所謂郷士の大部分は、オムナー並に村のレークにして、大抵多少の土地を所有し、パンヤと農民との中間の位置を占む、彼等の内には忠實にして男子らしき好漢も尠からざれど、中にはパンヤの前に畏縮して、農民の前に傲然たる



卑劣漢もなきにわらず、尤も後者は改革前には到る處に之を見たれども、爾來著しく減少しつゝあり。

村のレークの卑屈に關しては、クランツンガー氏埃及の社會生活を深く觀察せし人の描寫せる次の如き光景が、決して誇張の言にわらざる時代もありき。所は一州の官衙にて、パンシ、茲に臨席す。官衙は漸次に皮膚も衣服も店色なる人民を以て埋まり、其内各村のオムアノとレークとは大廣間に召集せらる。此際彼等は鄭重なる叩頭をなすと共に、敬意を表せんが爲め、平滑なる大理石の床より塵を拾ひて唇に壓し附く。中略。この布令の讀み聞かざるや、人民は之に對する服従を誓はざるべからず。乃ち各村のオムアノは異口同音に答へて曰く、閣下の命する所は欣んで之に従はん。我等は閣下並に我皇帝の奴隸なり。閣下より來るものは總て皆善し。閣下の意見は即ち我等の意見なり。斯くて知事が文書に捺印を命ずるや、各村の首長等は順次に其印を書記に渡し、書記はインキを之に塗りて紙面に捺す。次に村民等も其誓ふ所に就き殆ど知る所なくして、貴重なる實印を渡すなり。了。

英人が埃及の政治に携はるに至りし頃は、是等のレークのパンシに對する屈從心は已に著しく其度を減せしが、之を説くに當りては、先づ彼等とアラビの叛亂との關係を述べざるべからず。元來アラビの亂は軍隊の叛亂にわらずして、軍國民的運動と謂ふべく、其根柢も亦村落のレークの内に求むべきものなりき。即ち國內郷士の多數は彼の最も親密なる味方にして、彼等は彼に依りて高利貸とパンシの抑壓とより免れんことを期せり。但しアラビが一時政權を握るや、其施政時宜に適せず、國內亂れて麻の如くなりしかば、暫時の經驗にはあれど、レークの中の思慮ある者は、彼を助けて其主義を實行せしむることの可否に就て疑を挟まざるを得ざりき。されど秩序恢復の後に至り、レーク等はアラビがパンシの階級を抑へてレークの階級を揚げんとしたるを回想し、且つ英人にして其軍刀を天秤の一方に加へざりせば、土耳其埃及人のパンシを海内より掃蕩して、自ら恣に農民の膏血を絞り得たるべきを忘れざりき。タル・エム・ケ・ピアの戦後、パンシに對する彼等の屈從は、表面上全く戦争前の状態に復し、パンシが納税を命ずるや、彼等は口邊の微笑を以て心中の呪詛を隠しつゝ、多額の金錢を献上せり。一八九三年、英國



政府とアハス二世との間に多少の衝突を見んとせし時にも、上官の命令の下に動く彼等は、アハス二世の勇氣と愛國心とを稱讃せんが爲めの委員となつて上京せり。されど彼等の屈從は往時と其趣を異にし、屬書を英國の代表者に送り、次の如く密告せり。曰く我等は已むを得ず己が支配者に對して心にもなき諛辭を呈するものなれども、實は再びパン等の瓜牙に觸れんことを恐れて、衷心甚だ安からざるものあり。唯貴國が強硬の態度を執りて、我等を虎口より救はんことを切望し、之に一縷の望を托するのみと、其他土耳其帝の代理ムーラッケーパンの埃及に來りし時も、彼等は英國總領事に告ぐるに、土耳其帝若くは其代表者とは宗教以外の事に就きて何等密接なる關係を結ぶを欲せず、唯英人の力を藉りて其耕地に給水を得んことを欲する旨を以てせり。其後時勢の變遷に伴ひ、紳士の人格も益々變化し、外觀のみは依然としてパンの奴隸なれども、今や此外來陶工の意の儘に其型を變ずる粘土たらざるに至れり。殊に英人の統治は彼等も亦主張すべき權利を有することを教へたれば、今後彼等は其權利の侵害せらるゝに際し、恐らくは背日の如く泣殺人をなさざるべし。

余は曩に英人の埃及に來りし頃、村落のオムナー並にシェークの中には、パンの前に縮みて農夫の前に倣り、江戸の仇を長崎に討ちし者、鬱からざりしを述べたり。今少しく此點に就きて説明せん。

埃及に在りては、村は行政上の單位にして、其代表者たるシェーク並にオムナーは一州の社會的中堅を形成せる者なり。彼等は社會の安寧に對して責任を有し、往時の支配者は、村落の附近に犯罪ありて犯人の現れざる時、シェークを處罰するを常とせり。此方法は甚だ有効にして、犯人は之が爲めに多く檢舉せられたり。其他シェークは税額を評定して其徵收に興り、衙役の人数を揃へ、必要なる新兵を募る職務を有せり。而して之に従事するに當り、彼等は不法の利得を貪り得べき幾多の機會を得たり。何となれば、彼等は上官に對して上述の責任さへ遂行すれば、其以外何等の干渉を蒙らざりしを以て、恣に其特權を亂用するを得たればなり。村のシェークも亦パン並にアラムと共に英人の接近を見て、特權濫用に對する自己保存の本能の心中に活躍するを感じたり。而してこの豫想は決して杞憂にあらずして、英人の内治に干與すること未だ久しからざるに、役は廢せられ、租税の



評定、徴收、並に兵士の募集は總て彼等の手を経ることゝなれり。實に英人の改革に熱心なるや、彼等をして、我は監督技師たるを欲せずと吐かしむるに至れり。蓋し彼等は殆ど何等の役得なくして、猶責任の地位に立つの價値ありやを疑ふに至りしなり。元來村治に關する英人の方針は、村落制度の弊害を一掃して、其有益なる部分を保存するにありたれども、其事たる固より容易の業にあらざりき。以上述べし如く、改革前に於て村のシークの農民に加へし壓迫は、パシヤに比して僅に一步を譲りしのみにて、而も一方より觀れば、農民に取りて一層堪へ難く煩はしきものなりき。何となればパシヤは稀に來襲して農民を鞭撻し、彼等を掠奪せしのみなれど、シークは常に彼等と共に住して之を備ましたればなり。パシヤとシークに對する農民の感情を表せる幾多の証跡あり。例へば、蚊に斷えず螫さるゝよりも、寧ろ獅子に一度咬まれたし。猶の暴虐は鼠の正義に優るの如し。

シークは一方に於てパシヤの暴虐に對する英人の保護を欣びしと共に、他方に於て祖先以來の特權たる農民の虐待を銷せられたるを憤りしが、英人の國內に庸らず屬社の年々顯著となるに及びては、右兩種の感情中の前者が漸次其勢を増

加し來れるものゝ如し。但し彼等が英人の盡力に對して稱讚の聲を放つに至らざりし所以は、英人のなす所以、結局アラビの計畫を實行するに過ぎずとの思想に基きしものなるべし。彼等の内最も思慮深き者の外アラビに其計畫を實現すべき智能と熱誠との缺乏したるを認めずして、彼が其手腕を揮ふの自由を得ざりしを怨めり。而して彼等が殊にアラビを迫害する所以は、實に祖先を同うし、宗教を共にすると謂ふに止らずして、彼が一方に於て土耳其埃及族のパシヤに制裁を加ふること英人の如くなると共に、他方に於て英人よりも一層彼等の利益を慮り、其横暴を許せしならんと謂ふにあり。

余は次に埃及社會の第三階級に移らんとす。此階級は假令最も興味あるものにわらずとするも、儘に最も同情すべきものなり。かの青襟衣の埃及農民の性格と境遇とに就き、冗長なる説明を試むるは畢竟無益のことにて、ナイムの漫遊者は皆彼等を熟知し、埃及の案内書は、政治家に必要な彼等の歴史を告ぐるを得べし。加之埃及に關する著書は、皆多少彼等が祖先以來暴政の下に苦みたることを説かさざるなし。彼等の最大目的が收稅吏の誅求を避くべき手段を發見するに在



りたるは實に上古以來の事にて、ヘムセンは羅馬人の證書を引用して、埃及人は課税を避けんが爲めに受けたる笞の痕跡を以て跡とせりと誌したり、オーガスツスの時代に見られたる此事實は、イヌモール時代に於ても尠も異る所なく、マコーンが一八七七年に著はせし著書に次の如き記事あり、曰く、笞刑を忍ぶ事に依り課税の一部にても避くるを得ば、幾百にても之に堪ふるは彼等の名譽とする所にして、之をなさざる者は其妻すらも怯者として輕蔑せり、殊に笞の五十も堪ふれば、恐らくは出さずして濟みたるべき金錢を、十若しくは廿にして早くも吐き出したる者あれば、其仲間までも之を耻づるを常とせりと、課税に耐ぎて農民の最も忌避せしは兵役なるが、彼等が之を免れんが爲め一時好んで採りし手段は、指を切るにあらずして隻眼を犠牲とするにありき。

英人政治家は農民の取扱に就き主として次の二點に注意する必要ありき。  
第一、住民の大多數は農民なるが故に、決して之を輕視すべからず、此事實は言ふまでもなき事の如くなれども、パン等は會て屢之を忘却せり。

第二、農民は從來社會の最下層に立ち、手當り、次第に劫掠鞭撻せらるゝ境遇に在

りし者なれば、英人が埃及の社會に如何なる改革を實行するも、彼等の權利の削減となることなし。

英人の解決すべき主要なる問題は、數世紀間埃及の社會を保ちたる制度を成るべく破壊せずして、農民に權利を賦與するにありしが、問題解決の結果、他の階級が一得一失を免れずして、必ずしも多大の利益を享けざりしに反し、農民のみは爾來充分なる權利を享有するに至り、彼等の英人に負ふ所實に測るべからざるものあり。

農民は此享有せる幸福を自覺せりや否や、彼等は其恩人に對して感謝の念を懷けりや否や、是等は興味ある問題にして、政治上より觀るも亦多少の意義なしとせず。

先づ第一の問題に就きて考ふるに、彼等は無學の徒なれども、以前より遂に幸福なる境遇に在るを知り得ざるが如き愚者にあらず、人若し彼等に向て往時の政治の復活せらるべきを説けば、彼等は之を聞きて戰慄すべし、而して彼等は斯かる幸福が全くノンクローヤクソン人種の賜なるに就きて、幾分之を感知せるも



の、如しされど彼等の推理力は著しく不完全なれば、英人の特別なる盡力と政治改善との間の密接不離なる關係に就きて、未だ明確なる觀念を懷き得ざるなり。斯くて英人の改革事業の下に最も幸福を得たる社會が、何等公然たる反響を與へ得ざる階級に屬するは、職を埃及に奉せる英人に取りて少からざる不利益と謂ふべし。實に是等の無智無學なる農民は、未だ簡單なる政治上の意見を正當なる言葉で以て發表し得ざるのみならず、之を自己の心中に描き出す事すらなし。能はざるなり、例へば彼等は、假に英人が兵を撤して埃及を去るとするも、其恐るべき結果か自己の目前に現るゝまで、事の可否に就て一定の意見を立つる能はざるべし。但し彼等は已に善政の美果を味ひ、奴隸の域を脱せるを以て、意、パシヤ、政治の恢復を見るに至らば、蜂起してパシヤの階級を撲滅するが如きことなきを保せざるべし。

次に農民が英人に對し感謝の念を懷けりや否やに就きて述ぶるに當り、先づ注意すべきは、威恩の美德が國民と國民との間には殆ど發生し難きことなり。況や埃及土人に接觸せる者の多數が、忘恩を以て彼等の一特質と看做す傾向あるに

於てをや、されど農民の多數は寧ろ快活にして親切なるが故に、他より煽動を受けるにあらざれば、人種と宗教との相違の爲めに英人を敵視することなきのみならず、假令顯著なる威恩の情を表さずとも、忘恩の詩を受くべき行動に出づべしとは信じ難し。不幸にして彼等は無智無學にして感情的なるが故に、容易く陰謀家の煽動に乗せらるゝなり。斯くて彼等の中には、靈的感情的の發作より、昨日まで祝福したる英人技師を、今日は棍棒を以て撲殺する者もなきにあらざり。尤も斯かる兇漢も、兇行後には痛く其行爲を悔悟するものゝ如し。

人或は言はん、英人が埃及農民の幸福を圖るは、固より不可なしと雖、而も方今各國民が専ら自國の利益を増進せんとして、腐心するの時に當り、餘りに高遠なる理想を以て只管農民の爲めに盡すは、決して稱讚すべきことにあらず。殊に外交の衝に當る者は、假令英國の地を離るとも、主として本國の住民、即ちヨークシャーの農夫、ウィリアムズの漁夫、シニアフィールドの職人等の利害を顧み、之を標準として事を決せざるべからずと。余は此説に對して敢て反駁を試んとする者にあらず。尙余は多年腐敗せるパシヤ山師的歐人、英人の敵視者等に接觸し、人の性は果して



善なりやとの嘆聲を洩らせしと屬なれば埃及農民も英人の盡力に對し他日大に報ふる所あるべしとは信じ能はざる者なり。されど外交の衝に廣り世俗の事務を掌る者と雖、血あり涙ある一個の人間たる以上、一種の高遠なる理想を懷きて自ら樂む事を許さるゝを得べし。況や永く東方の矛盾國に生活し、自己の胸底にも亦一種矛盾の萌芽を培養せる者に於てをや。余が同國人と共に一時絶望の淵に沈みし埃及の救済に従事したる長年月の間、余はヒトが奴隸貿易の最初の攻撃に於て引用せしラマン詩人の佳句を想起するを常とせり。其句に曰く、遠き南の世界にて夕の暈の輝き始むる頃、我等の世界にては東天方に紅なりと。同時に余は自ら次の如く質問せり。曰く、真文明の曙光は亞弗利加大陸の一角最も古くして興味多き地方を照らし、其輝かなる光線は農民の土履をも温むるに至るべきか。英人は其教訓と模範とを以て、高利貸と飲酒とが決して基督主義の教育に伴ふべきものにあらざるを知らしめ得べきかと。余は此事の漸次實現せられつゝあるを喜び、尙將來も爾あらんことを祈る者なり。サ！ロバート・ヒールが其主義の爲めに脱黨して政友と離れしは、賢明にして偉大なる行動として、永

く英國の歴史を照らすべきものなるが、彼當時人に語りて曰く、余は多年の政友と袂を別つ苦悶の中にも、他日余の名が額に汗して日々の艱難を得る人々の邊にて、好意を以て想起せらるゝこともやあらんとの希望に依りて自ら慰めたりと。翻て埃及農民を觀れば、彼等は無智忘恩の民と稱せらるれども、而も余は額に汗して食を求むる今後の農民が、彼等の束縛を解き、人類の權利を救へ、歐洲文明に伴ふ物質的祝福を興へ、智を研ぎ徳を修むべき途を開きたる我英國民に對して、感謝に似たる一種の感情を起すならんとの望を懐かざるを得ず。

埃及農民が恩を謝すと否とに拘らず、憐むべき精神的並に物質的境遇に轉せし彼等を救ひ出したる者が、我アンクローハクソン人種なる事は疑を容れざる所にして、我等によりて農民は今や絶望の淵より現れ出でつゝあるなり。此際若し彼等を再び深淵の底に沈めて、余が幾多の同胞と共に、生涯の活動期を獻げたる事業を無効に歸せしむるが如きことあらば、余は大地裂けて此身を地上より棄ひ去らんことを冀はざるを得ず。されど幸にして余は斯かる事の毛頭あり得べからざるを信じ、埃及が文明の退歩したる無比の適例として引用せられざるべ



からざる時代の既に全然経過したるを疑はざる者なり。

埃及の回教徒の第三類として一言の説明を要するメツロイン人は遊牧を事とせる者と半定住的の者とあり、埃及に行はるゝ幾多の個體の内には、ナイル河畔の住民が沙漠のメツロインに對して懐ける嫌惡の念を示すもの尠からず、其最も有名なるは、メツロイン人の正義よりも土耳其人の壓制の一切にて、これ彼等を殘酷にして不法なる者と認めしなり、又次の如き物語體を倣せる一個體あり、曰く、メツロイン人は余の妻に告ぐるに、井に水なきを以てせしかば、妻は直ちに四個のバケツを携へて井に行けりと、これ彼等の貪慾と不信とを諷せる者なり、メツロイン人は埃及農民を輕蔑して柔弱と倣すに拘らず、政府が彼等に農民の如く兵役の義務を課せんとするに當りては、之を厭ひて不平を訴ふるを常とす、政策としては、彼等の要求を満足せしめて、之を耕地に定住せしむるを可とすべし、然らざれば、彼等は劫掠を逞うし、種々の害毒を流すの虞あればなり、英人は初めより此方針に出で、彼等の古來の權利は大抵之を保存したれば、其結果は一八八二年と一八九七年との國勢調査の比較に現れ、從來の遊牧的習慣を脱して、沙

漠と耕地との境界に定住する者大に増加せり、されど概して謂へば、彼等は本意の目的より觀て、齒牙に掛くるに足らざる者にして、英國の政策は彼等の爲めに殆ど何等の影響を與りしことなし。



### 第三十六章 基督教徒

コプト人——其宗教の保守的傾向——彼等の性質——彼等の英人に対する態度——  
 本區動——シリア人——彼等の地位——彼等の不評判——彼等の英人に対する態度——  
 アーメニア人——彼等の土耳古人に対する態度——メーバー——其子ガロズ  
 ——ヤタリ——パシヤ——アーン——ケイケン——パシヤ——埃及人は歐洲の界を以て備るべき  
 ものにあらず。

埃及人民中の基督教徒は、コプト人、シリア人、アーメニア人の三種族に分つを得べし。右の内人口最も多きはコプト人にして、一八九七年の國勢調査に據れば、其數六十萬八千に達せり。彼等は僅少なる舊教徒と新教徒を除けば、總て正教派教會オーストリック・ス・チャーチと稱するものに屬す。此正教派コプト人は、モノファイズト（基督が神人兩性を具へたる事を信する者）にして、四五一年のカルシードン會議以來、一派を起して他の基督教徒と分離せし者なり。余は彼等の信仰の特色を列擧する必要を見されども、其社會の特色を明かにせんが爲め、彼等の宗教に就きて一言するを禁ずる能はず。即ち彼等の基督教が回教に劣らざる保守的のもの

なることを説かざるべからず。ブリン・スタンレー曰く、東方の教會は一般の事物に於て見るが如く、停滞的にして變化し難し。之に反して西方の教會は進歩的にして適應性あり（中略）東方の神學はコンスタンティンやアレクサンドリアの殘せしままの不確定なる状態に止まり、今も猶組織の見るべきものなしと、抑宗教的信仰が世運の推移に伴ふ新要求に適應する能はざる場合に於ては、其信仰が氷を融れたる船の如くなりて、終に社會より忘却せらるゝか、然らずんば信仰却つて社會を捕へ、其進歩を妨退するを常とす。而して基督教徒に其漸教諸派の訪とすべしは、其日新の要求に適應するに足る伸縮性を有するに在り。  
 コプト族基督教徒の進歩せざるは上に述べし如くなるが、彼等の凝滞の原因は回教徒に比して判然たる區別あるを認めざるべからず。先づ回教徒の進歩せざる所以は、彼等の宗教が古代の經典に束縛せらるゝに因るなり。即ち萬般の事總て宗教と密接の關係に立てる彼等の社會に在りては、宗教が時と所との變化に適應して社會生活指導せざる限り、何事に就きても古來の風習を保守するの外なきなり。之に反してコプト人に殆ど發展の跡を認めざる所以は、彼等の宗教



が進歩を許さざりしにあらすして、四圍の境遇が之に反對したるに因ると謂ふべく、換言すれば彼等がコプト人なるが爲めにあらすして、寧ろ彼等が東方に住し、に因るものなり、されば彼等の社會に於ては、宗教に直接關係なき政治上並に社會上の改革を試むるに當りては、回教の社會に於て見るが如き宗教家の妨礙を蒙る虞なし、斯く實論上兩者の間に著しき相違あるに拘らず、實際に於てコプト人が回教徒と一樣なる障礙物の爲めに妨げられたる觀あるは、前者が後者の爲めに著しく同化せられしに因るなり、今例を印度に採らんか、回教徒の數は印度固有の宗教を奉ずる者の五分の一に過ぎざるが爲め、流石に頑固なる回教徒も不知不識の間に印度固有の思想に同化せられしこと驚しとせず、かの階級の觀念の如きは其最も著しきものにして、例へば基督教徒と會食する事は別に法典の禁ずる所にあらすして、他の回教徒は決して之を厭はざるに拘らず、印度の回教徒のみは之を欲せざるなり、埃及に於ける現象も之と趣を一にし、多數なる回教徒が寧ろ基督教化せられざるに反し、少數なるコプト人は不知不識の間に回教化したるなり、即ち近代のコプト人は其風俗言語精神に至るまで徹頭徹尾回教

徒にして、如何に彼等が之を非認せんと欲するも、事實は竟に枉ぐべからざるなり、見よ、彼等の婦人の閉居は殆ど回教徒の婦人と異らず、彼等の小兒は通常刑體を施され、其他結婚式、葬儀等、皆回教徒の風習に酷似するにあらすや、コプト人の一般の特性に就きては已に幾多の著者に依りて記述せられたれども、元來人種若くは階級等の特質に關する概論は不完全なるもの多く、その内の一部の人士は之が爲めに甚しき迷惑を蒙るを常とす、而して余は殊にコプト人に於て輕卒なる概括的評論を下すの不當なるを看るなり、最近埃及に於ける萬般の事が漸次鮮明を加ふるに至りたる以前は、近代埃及の國民的特色に注意したる英人の大多數はレーンの名著「近代埃及人」に據りて多大の智識を得たり、彼は能く回教徒を知り、之に多大の同情を表したれども、コプト人に就きては殆ど知る所なく、彼等に關する記事は、彼が偶然知己となりしコプト人の説明に基きしもの、如し、然るに此人は大に其同族の性行を慨歎し、彼等に取りて寧ろ其だ苛酷なる批評を試みたり、レーンの書の一節に曰く、コプト人の最も著しき特色の一は頑迷なり、彼等は回教徒の異教徒に對するよりも一層強く他の基督教徒



を嫌惡す(中略)彼等は概して陰鬱、貪慾、狡猾にして、上に類び下に倣ふの風著し、余に彼等の風習を説明せしコプト人某は、彼等が概して無智不情にして世俗的利を求め、肉體的快樂に耽ること告げたりと。

惟ふに此批評は苛酷に過ぐるものと謂ふべく、假令斯かる缺點をコプト人中に認むるとするも、これ決して彼等の專有物にあらざることを忘るべからず、即ち頑迷、無智、虛偽、不信、貪慾、淫亂等の點に關してコプト人を責むべくんば、同様に又埃及の回教徒をも責めざるべからず。

レオンと時代を共にし、彼に尋で埃及國民研究に好資料を供したるサー・ワシントン・ホーリングはコプト人に對して一層嚴當なる批評を下したり、曰く、土耳其人のコプト人を看ること、恰も印度のマーリツ族、最下級民の二の如くなれども、實際彼等は平和にして思慮あり且つ愛すべき人種にして、其惡徳は不義と劫掠とより免れん爲めの手段として發達したるものなりと。

右兩者の批評に就きて考ふるに、レオンの言が少くとも今日の回教徒並にコプト人に就きて觀れば、回教徒を過譽し、コプト人を過貶せしものとなさざるを得

ざると共に、ホーリングも亦其觀察不充分なりし嫌なきを得ず、余の見聞より得たる結論を擧ぐれば次の如し、第一、コプト人は其境遇の影響を受け、回教徒と同様なる道德的屬性を得たり、但し之は宗教と何等の關係なきものなり、第二、彼等は偶然の事情により、一定の智的特色を發揮せり、これ亦宗教の影響にあらざれど、回教徒は練習の機會を缺きし爲め此性質を缺如せしもの、如し、第三之を廣く概括して謂ふ時は、回教徒とコプト人との間には殆ど明白なる區別を得る能はずして、唯兩者宗教を異にすと云ふの外なきに至るなり。

右に述べし事情は吾人をして重大なる興味を惹起せしむるものなり、何となれば此事態は、基督教徒が回教徒の間に介在するに當り、其宗教の力が常に能く信徒をして回教徒に優りたる道德を發展せしめ得べきや否やの問題を含むものなればなり。

余は此問題に對して遺憾ながら次の如き答辭を與ふるの外なし、曰く、コプト族は已に千五百年間基督教を奉ぜるに拘らず、余の知れる限りに於ては、道德上何等回教徒に優れる點を示さずと、即ち個人間の關係を調整する道德律は、兩者の



間に著しき優劣の認むべきものなく、例へばコプト族婦人の地位の如きも、一夫一婦の習慣あるに拘らず、其下賤なること回教徒の婦人と毫も違ふ所なし。加之或る點に於てコプト人は寧ろ回教徒に劣れりと謂ふべく、例へば後者の歐人と接觸に因りて墮落せざる者が飲酒を謹む炎風あるに反し、前者には殆ど此事なし。其他彼等の缺點として所謂奴隸根性なるものを認め得る場合も絶無にあらず。但しコプト人の缺點が彼等の率と來れる宗教に責を歸すべきにあらざるは勿論にして、宗教の影響としては寧ろ近年歐洲より來りし墮落せる基督教を舉ぐべし。彼等は特殊の事情に依り、其感化の下に立たざるを得ざりし。然れにしても基督教が道徳の發達と文明の進歩とを促すべき潛勢力を有することを信する者に取りては、コプト人が百難を排して一定の道徳を修養し、克く回教徒に一顧地を抜きたりと首ひ得ざるは其だ遺憾なる事と謂ふべし。少くともコプト人が基督教徒として世界の面前に立つ限り、基督教は其信徒をして境遇の如何に拘らず、異教徒中に異彩を放たしむと云ふを得ざるべきなり。

次に道徳的特質より智能上の特質に轉すれば、高尚なる智的能力は回教徒も

アト人も未だ之を發揮せしことなければ、其必要は後者をして前者の有せざる一二の智的特色を發達せしめ、文明の要求中の單純なるものに對して、前者よりも一層多くの適應力を顯さしめたり。即ちコプト人は從來回教徒が高慢不注意若くは無智の爲めに捨て、顧みざりし職務に服し、遂にその壓迫者に取られて殆ど缺くべからざる者となりしが、斯くして得たる特質は歐洲文物の輸入と共に彼等の爲めに大なる利益となれり。何となれば彼等が回教徒に比して稍精密なる思考力を有し、多少推理を要する事務に當り得たる一事は論理的なる歐人の好んで認めし所なればなり。實に歐人が多少コプト人を敬待せし所以は其宗教の故にあらずして、彼等が加減法を解し、九九を知り、甚しき錯誤なくして土地の面積を測り得たる爲めなり。彼等の計算法は既に時代後れのものなりしも、回教徒の如く殆ど何等の方法をも有せざるに比すれば優ること萬々なり。ボーリング曰く、コプト人は測量、計算、書記等の任に膺り、農夫が田畑に出で、鐵を揮ふが如く、計算室に在りてペンを走らすと、

コプト人の英人に對したる態度如何の問題は多少の興味なきにあらず。何とな



れば英人は内に顧みて疾しからざりしが故に、最後の成功を信じたれど、彼等が救はんとする住民の従来の傾向を觀察に彼等を苦めずんば已まざる種々なる反對分子の活動を顧み、その他前途に横る凡ゆる困難を想うては、如何なる微力なる味方と雖、好んで之を歓迎したるべければなり、而してコプト人は長く回教徒殊に其パンの壓迫に苦みし後、今や回宗教を奉せる英人の指揮の下に、その技能を發揮する好機會を得たることなれば、彼等が最も英人を歓迎したるべきは一見疑を容るゝの餘地なきもの、如し、されど彼等は非論理的なる東方人種に屬するが故に、右の推論の妥當なると否とは全然事實に基きて決定するの外なき次第なるが實際を觀れば、彼等は英人に對して毫も親密の情を有せざりき。今其原因を探究するに、一言以て之を蔽へば、英人が飽くまで公平の態度に出でたるに基きしものにて、これ實にコプト人の解し能はざりし所なり、初め英軍の此地を占領するや、コプト人は心中竊に惟へらく、我等にして若し實力を有せば、必ずや回教徒を抑へて基督教徒の利益を圖るべし、而して英人は基督教徒にして、之をなすの實力を有するが故に、彼等は固より我等の爲めに特別の好意を表

すべしと、然るに實際彼等の推論は憐むべき愚見に陥りたるものにて、英人の行動は彼等の豫想外なる、吾輩ろ了解し得ざる動機に基けるものなりしかば、彼等は失望の極、遂に英人に對して憤怒の念を懷くに至れり、實に彼等の眼には英人が彼等を受せずして回教徒と同等に取扱ふことは殆ど正義に反せる行爲の如く映せしなり。

右の外コプト人が英人に對して平ならざりし一の理由は、彼等がシリア人の爲めに全く其位置を奪はれんとする危険に瀕せしことなり、初め英人が埃及の政治に手を染めし頃は、政府の使用せし計算係は殆どコプト人のみなりき、當時彼等の計算法は舊式の方法にて、彼等以外のものには殆ど了解し難きものなりしが、彼等は此方法を改革せんとする凡ゆる傾向に對して常に反對の意を表したり、これ一部は單純なる保守的精神に因りしものなれども、一部は自家保存の本能に基きしものなり、何となれば若し其計算法が簡單となり、誰にても了解し得る如きものとならば、彼等は今日まで享有したる獨占的職務を失ふ虞ありしを以てなり、されど彼等の計算法は速に廢止する必要ありしかば、英人は練の紛糾



の竟に解き能はざるを見其固有の英断を以て之を裁断せり。斯くて英軍の埃及占領後未だ幾許ならずして、少からざるシリア人がコプト人の位置を奪ひ、之が爲めに後者の間に多大の不幸を惹起せしは誠已むを得ざる次第なりき。

コプト人は占領の初期に於て英人を嫌悪したれども、彼等は人の感情を害して顧みざるが如き朴訥漢にあらざるが故に、英人に對しても極端に其惡感情を露する事なかりき。加之彼等は回教徒の抑壓に苦みし間に大に狡猾となりたれば、對手の要求と自己の利害とに鑑み、朝に排英論を稱へても、夕には親英派となるを常とせり。尙茲に附育すべきは、歲月の経過が彼等をして漸次に英人の行政に基く埃及住民の利益を認めしめ、且つ自己の位置を保たんが爲めには、専ら自己の努力に依つの外なきを悟らしむるに至りしことなり。而して彼等の内には此覺悟に依り成功の月桂冠を得たる者尠からず。近時職を政府に奉ずるコプト人の多数は能く其任に耐ふる人々にて、中にもブーッロニス・パレガリの如きは長く外務大臣の位置を占め、才能人に勝れて世の信任を厚くせり。

此人種に就きて最後に一言すべきは、其子弟が米國宣教師の各地に設立せる學

校に於て多年完全なる教育を受けたる一事なり。されば青年の多数は能く英語を操り、智能並に徳操に於て遙に其父祖に優らんとする傾向あり。加之教育の自然の結果として、彼等青年は奮勵事に磨りて生存競争の優勝者とならざるべからざるを發見せり。尙又彼等は文明の新潮流に觸るゝと共に、傳來の宗教並に教育組織の腐朽して用をなさざるを發見せしが、殊にシリア人が其優秀なる智識に依りて彼等の父祖の職業を奪ひつゝある一事は、彼等をして一層此感を深からしめたり。要するに彼等は西方に發達せし基督教を基礎とせる教育を受けし爲め、痴鈍なる回教徒が其宗教の爲めに拘束せられて容易に時勢を遠視し得ざりし間にも、能く時代の要求に應ずるの道を解したるなり。彼等以爲らく、我等にして若しシリア人を追ひ越さんとせば、單に彼等を咒ふを罷り、自ら一大改革を斷行し、努力して彼等と競争せざるべからずと、斯くて彼等は先づ宗教の爲めにする寄附金を有用なる目的の爲めに使用せんとする運動を起すに至れり。即ち彼等は一方に於ては、一般より募集せる喜捨金を専ら無用なる宗教家を築はんが爲めに消費するの不當を論じ、他方に於ては、將來宗教家たらんとする者には



二百年前の言語にて少数の祈禱を囁くことを教ふるを以て足れりとせずして一層必要なる學識を授くべきを説き、尙餘費を以て宗教以外の教育に力を致して、千五百年間の長夢を醒ますべきを主張せり。此運動が宗教家の反對を受けしは云ふまでもなきことなるが、其反抗は意外に強硬にして容易に壓伏すべくもあらざりき。危機の切迫したるは恰もアバヌ二世が始めて位に即ける時なりしが、聰明なる總理大臣ムスファフパシ、ラニーは英人と其見る所を一にし、コプト人中の改革派の意見に賛同せり。其結果最も魯鈍なる保守派の中心たりし長老は嘗つて隱遁者が若行を積みし曠野中の某寺院に遷されたり。然るに局面一變して保守主義の回教徒なるリアズ、パンヤが勢力を得るに至り、彼はコプト人の改革派に反對し、曠の長老を其幽居より召還せり。惟ふに事の是に至りし原因は次の二點に歸するを得べし。第一、進歩なき回教徒は基督教徒間の出来事にはあれど、此古來の教權に對する反抗的運動を見て戰慄せしなり。而して其教權が從來正當に行使せられたりや否やは彼等の顧る所にあらざりき。第二、回教徒は自己の缺點を知れるが故に、此新しき敵の出現を見て恐怖せしなり。此際改革派に同情

せる英國の外交家は此反動を防遏するを得たれど、斯かる問題に嘴を容るゝの愚を知り、成行の儘に放任せり。斯くて改革派は一時失意の位置に立ちたれど、これ決して永續的のものにあらず。彼等は早晚最後の勝利を博すべきなり。今改革派の缺點を指摘すれば、彼等は青年の通弊として政治上の經驗に乏しく、且つ尊大自ら持するの風あるを免れず。されど大體に於て吾人は彼等の成功を期待せんと欲す。コプト人は將來の埃及に於ける重大なる一勢力たるべしとのホーリングの豫言は最近に至るまで殆ど其徵候を認めざりしが、彼等の青年間に起れる上述の運動は人をして望を其將來に囑せしむるに足るものあり。彼等にして努めて息まらずんば、遂には其人格を發展し、自任自重の念を生ずると共に、他の尊重を博するに至るべし。斯くて彼等は時勢後れとして委棄せらるゝ悲運を免れ能く社會的並に政治的進歩の潮流に裨すを得べきなり。

余は次にシリア人に就きて記述せんとする者なるが、余の言ふ所は總て基督教を奉せるシリア人に關するものなり。埃及には回教を奉せるシリア人も住居すれども、政治上より觀れば殆ど齒牙に掛くるに足らず。



基督教を奉せるシリア人の數が國內を遍して幾何に達するかは明白ならざれども、其コプト人に比して甚だ少數なるは疑を容れざる所なり。されど彼等の重要なるは其數の故にあらざして、彼等の占むる地位に在り、即ち一方に於て、上流並に之に亞々シリア人の多數が職を埃及政府に奉ずると共に、他方に於て殆ど此國の各村に住居せる高利貸は希臘人にあらざれば大抵シリア人なり。此國に於ても多數の猶太人を見ざるにあらざれども、歐洲諸國に於て猶太人の占むる位置は、此國に於ては大部分シリア人の占有に歸せる情態なり。斯くてシリア人は一方に於ては公職を切望せる回教徒並にコプト人の嫉妬を受け、他方に於ては人民の多數より強慾非道の人種として嫌惡せらる。殊に其金貸業者はナボレオン法典の輸入と共に、一層民衆の膏血を絞る便宜を得たり。何となれば該法典は豫め埃及に於ける貸借の慣例に充分なる改正を加へずして突然實施せられたれば、貧窮無學なる負債者には何等の保護を與へずして、存蓄なる債權者の虧損を補助する機關となりたればなり。

シリア人が埃及に於て上述の如き地位を得たるは最近の事にて、レオン並に\*

ーリツングは此人種を度外視せり、彼等はイスマエル・パンヤが埃及の政治を歐洲化せんとして、之に必要な官吏、即ち亞利比亞語並に佛語を語り、且つ歐洲の政治を理解する賢賢と訓練とを有する者を求むるに當りて俄に重用せられたり。當時其他の人種を觀れば、同化力なき回教徒は固より其任に耐へ得ざりき。彼等は此革新の運動に對して一時顔を凝めて之を瞥見せしのみにて、直ちに無感覺なる平素の狀態に復歸せり。コプト人は稍、用ふるに足りしも變通の才に乏しく、殊に外國語に通ずる者甚だ稀なりき。而して所謂歐洲化せる埃及人は其數甚だ多からず、其才能も概して不充分なりき。然るにシリア人は殆ど總ての資格を供へたれば、幸運は自から彼等の頭上に落ち來りしなり。彼等は其母國語として亞利比亞語を有し、且つ多くは佛人がシリアの地に建設せる學校に學びし關係より佛語を解したり。加之彼等は變通の才に富み、進取的にして野心強く、自己の才能を信ずること深かりき。殊に彼等は各國人集會の社會に於て最も必要と認めらるる才能を相應に具せしかば、相當の地位を得るに何等の困難をも見出さざりしなり。而して一度其地位を得るや、強き人種間の感情に動かされて頗る其同國



人を引き入れ、他を非難を顧みざりき。

英人が埃及の政治に與るに當りてもシリア人は再び幸運なりき。亞利比亞語を解せず、佛語に熟達せざる英人は、混沌たる埃及の政治界を見渡して以爲らく、我等は何所に我補助者を見出すべきか。回教徒は用ふるに足らず、コプト人も亦之と大差なく、歐人を使用するは政治上並に財政上の故障あり。斯かる事情の下に英人に取りて意外の掘出物とも云ふべきはシリア人なりき。

シリア人の採用は當時英人に對する一部社會の不平の最大原因たりしもの、如し、即ち回教徒中多少智力ある者は漸次に眼を醒まし、周圍の事情を口撃して以爲らく、余は英人を解し、彼等の長所を認む、彼等の智識と精力とは我等の到底及ぶ能はざる所なり、余は彼等を好まざれど、彼等に國民の幸福を増進せんとする意志あるは明かにして、其齎らす所の種々なる物質的利益は我等の喜んで奉有する所なり、されど彼等は何故にシリア人を重用するか、我等は之に比して何の劣れる所ありや。若し歐人以外の者を必要とせば、何ぞ我同胞を使用せざるか。斯くて回教徒はコプト人にも増して、シリア人に對する憤怒の情を洩らせりか。

のナーファク・パンヤの如き平素穩健なる意見を懷きし人も、言一度シリア人に及べば激昂して別人の如くなり、リアン・パンヤの如き寧ろ冷靜なる回教徒も、此問題に就ては沸然として罵詈の言を逞うせり。殊にリアン・パンヤは一八九〇年に至り、總てのシリア人に對して雇用の途を遮断すべき法令の發布を建議せり。此時我外交家は起ちて冷靜嚴格なる歐人的態度を以て、カイロ市中に英兵の隻影を認むる限り、人種若くは信仰の相違の故を以てシリア人の任官を絶對的に排斥するを許さずと申渡したり。されど公平なる眼と常識とを以てすれば、シリア人を二種に區別するを得たり。即ち一は己れの家族をシリアに住せしめ、金儲けの爲めに單身埃及に來れる者にて、他は埃及にて生長し、此地を以て己れの本國となせる者なり。斯くて此點に基きて英埃兩國當局者間に妥協成り、十五年以上埃及に住したる者は埃及人と同じ條件を以て公職に就かしむることとせり。

當時回教徒が右の如き行動に出でたるは寧ろ當然の事なるが、今や彼等も時勢の必要に迫られて新なる覺悟を要するとなれり。印度に於て一八五七年以後歐洲的政治組織の凡ゆる附屬物の輸入せらるゝや、遲鈍なる回教徒は一層伶俐



にして同化力あるヒンダー人の爲めに常に先鞭を着けられしが、時の経過と共に前者も亦努力の必要を感じ、聞くが如くんば、今やヒンダーと互角の勢を以て進みつゝあるものゝ如し、想ふに彼等は先づその信仰に附随せる有害なる習慣の一部を除去したるなるべし、埃及に於ける回教徒も亦同様なる過程を経由すべきものにて、彼等が法律の保護に依りてシリア人並にコプト人を排斥するは畢竟無益の業なると共に、若し自ら緊樞一番事に磨らば、敵の武器を以て敵に勝ち得べきなり、若し回教徒が勝利を得とせば、其宗教が如何に變ずべきかは豫め測り難き事なれども、惟ふに激烈なる競争に因りて直接宗教の毀る影響は案外に僅少ならんか。

シリア人も亦コプト人の如く多少奴隸根性を有す、彼等は或は貪慾なる回教徒の前に腰を屈め、或は優秀なる歐人の思想と行動とを模倣する必要ありしが、斯くの如きは固より男子らしき性質を發展せしむる所以にあらざりしなり、されどシリア人の人格は近東に於ける他種族に比して明かに一頭地を抜けるものにて、彼等の内には無類の徒を出すこと稀なり、固より彼等の内にも上下幾多の

階級ありて、一概に論じ難きも、其上流に屬する者は言語舉動等總て中分なき紳士にて、上流の歐洲人と同等の交際をなし、毫も遜色あるを見ず、尙その智力に就きて觀るに、彼等は常に歐人の行爲を模倣し得るのみならず、又能く其理由を了解し、且つ銳利なる眼光を以て之を批評する能力を有す、要するに彼等は眞に開化せる人種と謂ふべく、此點に於て常にコプト人に優るのみならず、歐化せる埃及人にも優るなり。

終にシリア人に就きて考察すべきは彼等の英人に對する態度なるが、實は此事に就ては、彼等自身も亦種々矛盾せる感情の爲めに懊惱煩悶して執れとも決する能はざりき、先づ彼等は佛人の教育を受けし爲め、英人の行動に對して何事にも就ても同情を以て之を視る能はず、殊に英人が常識を以て直ちに事を決行し、窮屈なる形式を蔑視する方法は、微に入り細に亘るを好み、繁文縟禮を事とする彼等の解し得ざる所なりき、而して英人の尊大なる氣風も亦彼等の反感を惹起せし原因の一に數ふるを得べし、されど一方に於て彼等は自己の利害を顧みて、少くとも差當り佛人よりも寧ろ英人に親まざるべからざるを感じせしや明かなり。



斯くて彼等本來の傾向が此利害の念と衝突して、其行動常規を逸する事もありしが、事情を知らざる者は之を愛國心との衝突と看做せしならんも、實は主として彼の心情を察する頭腦が佛人の理論上完全なる政治組織に心酔せし結果なり。要するに彼等は英人に世辭を述べ、又英人の與ふる所を欣んで受けたりとも、英人並に其施政に對しては何等の同情をも有せざりき、されど以上は特に英軍埃及占領の初期に著しかりし事實にして、時の経過と共に彼等の排英熱は少くとも大に其熱度を減じたり。

最後に來る者はアーマニア人なるが、其數多からず、大部分は商業に従事す、此人種の政治上重要なる所以は、メヘメットアリ以後殆ど断えず政府の要路に立つ者を出したる一事に在り、コプト人の官職に在る者の大部は皆屬官たるに止まり、シリア人は有爲の才を抱きつゝも、未だ第二流の位置を越ゆるを得ざりき、然るにアーマニア人は第一流の官職に就き、此一言一行が國家の大事を左右したることも屢なりき。

埃及に住する上流アーマニア人の數は甚だ少數なれば、余の彼等に對する觀察

を基礎として此人種の特質を概括するは、正鵠を失する虞なしとせず、されど余の接近せしアーマニア人に就きて觀れば、彼等は其智能に於てシリア人と共に近東諸國民中の精華と稱するを得ん。

アーマニア人に就きて注意すべき一事は、彼等の土耳其人に對する態度なり。今中流のアーマニア人が土耳其人のパシヤを其室に訪ふ時の光景を描かんに、先づ入口に達すると共に、頗りに丁寧なる挨拶をなし、パシヤが椅子に倚りつゝ、輕微の眼を以て着座せんことを勸むるも、容易に之に従はず、雙手を前に翳れ、眼を俯し、指り足にて徐々と前進するか、若くは壁に沿うて横に進み、遂に椅子若くはアイバン(二種のソーフ)の端に膝に腰を下すべし、而して飽くまで謙抑の態度を以て、正しく兩膝を揃へ、兩手を交叉して胸に當て、パシヤの口を開くを俟つなり。固より高等の教育を受け若くは相應の地位に在るアーマニア人はこの狂言の全部を行はず、殊に青年はその父祖の如く土耳其人に敬意を表せざれども、而も一人も土耳其人のパシヤの前に在りて、彼が自己の抑壓者にして、且つ自己は彼に取りて異教徒なることを忘れ得る者なし、されど斯くの如きは彼等が多年土耳其人より極



端なる抑壓を蒙りたる結果にして、毫も怪むに足らざるなり。  
埃及のアーメハ人中最近に於て最も傑出せしは、疑もなくモーパー・パシヤなる  
が彼の品格と性癖に關しては折に觸れて述べしこともあり、尙後章に於て一層  
詳細に批評すべきを以て、今は之を略す。

モーパー・パシヤの子ホゴマ・パシヤ・ムーバーも亦有爲の才にして、一時鐵道經營の埃  
及委員として令名ありき、彼は公職を退きて後も常に公共事業の爲めに力を盡  
し、其功勞顯著なるものあり。

ヤクロー・パシヤ・アーア、ンも亦修養ある好紳士にして、教育事業の改革に多大の貢  
獻をなしたり。

アーメハ人の特性を最も好く代表せし者は、モーパー・パシヤの妻子ア、グレコ・パ  
シヤなるべきか、彼は長く外務次官の職を奉じ、後外務大臣となりし人なるが、學殖  
深く、舉動高雅なる好紳士なりき、佛語は寧ろ彼の母國語と謂ふべく、同時に英語  
にも熟達せり、亞利比亞語は全く解せざりしも、少しく土耳其語に通じたり、彼は  
政治上に於ては佛國最後にあらざりしも、其思想は佛國流なりき、尤もこは彼に

限れるにあらずして、英人埃及占領の初期に於ける埃及青年の大多數は、多年佛  
人に接し、其教育を受け、其文學に親みたる結果、佛國政府の政策に同情せざる者  
と雖、其頭腦は主として佛國の思想に依りて支配せられたり。

抑、アングロ・サクソン人種の一特色は、彼等が一国を占領し若くは之を半屬國と  
なすに當りて、彼等と住民との關係の一方面を忘却し易き事なり、彼等は正義を  
旨として住民に善政を施さんことを熱望せる者なれば、他人が自己の動機に就  
きて疑を挟むを以て解すべからざる事となし、其公明正大なる目的の遂行を妨  
げんとする者に對しては、自ら之を憤り之を嫌ふの情なき能はず、斯くて彼等の  
支配する國民が、本國の住民にあらざるを忘れ、自己と協同する者を指して直ち  
に忠誠の士と名け、自己に敵意を表し若くは充分なる好意を懐かざる者を不忠  
の人と呼ぶなり。

斯かる眼光を以て觀れば、ア、グレコ・パシヤは決して忠誠の人にあらざりき、彼は普  
通の所謂英國嫌ひにあらざりしも、英國の政策の大方針に對して反對なりしな  
り、彼が此態度を執るに至りしに就きては、個人的野心が不知不諳の間に其動機



となりしやも知るべからず。何となれば彼の如き人々は、エム・アマー大學生友會の忌諱に觸れざる限り、英人の勢力の減ずるに従ひ、政治界に於て一層重要なる地位を占め得たるべきを以てなり。或は彼が回教を奉せず、且つ埃及語を解せざる缺點を補はんが爲め、特に愛國的熱情を表す必要ありしものとも思はれざるにあらず。されど彼が意識的に斯かる動機の影響を受けしや否やは頗る疑ふべく、寧ろ彼の眞の所見が、歐化せる埃及人、彼自身も亦實際に於ては其一人に數ふるを得べし。は業々しき英國の助力を借らずして能く治績を挙げ得べしと謂ふに在りしならんか。斯かる意見は儘に誤れるものにて、彼の判断力を批評するに當りては參考に供すべきものなれども、此種の意見を抱く事は固より道徳上の非難に値すべきにわらず。彼は稍、空想に近き意見を懐く傾向ありしも、元來正直なる尊敬すべき紳士にして、此公徳並に私徳の標準は歐洲各國の士君子に比して何等の遜色を認めざりき。

アイングレ・マンの人物を研究するに當りて最も興味あるは、彼の道徳よりも寧ろ其智能の點に在りとす。何となれば吾人は此點に於てアーマニア人の特質の最

も明瞭に現れたるを見ればなり。即ち彼の心の基礎はヒサンチヤム的にして、その上部の建築は佛國式なりき。彼は神學上の難解無用なる問題を絶えず争論したる古代東方人の頭腦を直ちに遺傳せし者にて、彼をして基督教の初期に生れて、モリスの宗教會議に出席せしめたらんには、彼も亦煩瑣なる宗教問題に就きて、アリアスとアタネーションアスとの説の孰れが正しきかの争論に耽り、而も何等の結論に到達し得ざる一人なりしならん。彼は理解迅速にして、且つ能く事の詳細に通じたれども、屬要點を捉ふるに拙なりき。彼は一方に於て平易なる實際問題の解決に際し之と直接の關係なき哲學的議論に逸し去るかと思へば、他方に於ては廣き概括的問題を論ずるに當り、ヒサンチヤム人にあらざれば解し難くして必要な微細の點に論及するを常とせり。政治上の事に關しても彼は本來輕重を知るの人と謂ふを得ざりき。彼は歐洲殊に英國の政治を了解せんと努めしが、これ多くの東方人の失敗せし所なり。其研究の徑路を觀れば、彼が概して誤れる結論に達せし理由の一般を窺ふを得べし。例へば彼は推理の小前提に心を奪はれて、其大前提の存在を忘却せり。彼の心は又世人の齊しく首肯すべき單純



なる事實に基く單純なる推論を非認せり、蓋し彼は總て複雜煩瑣なる事を喜び、苟くも單純なる推論は可否を問はずして初より之を排斥せしものなるべし。マクレノ・パンは歴代の埃及内閣に仕へ、常に埃及の爲めに最も有益と信ずる意見を提出せり、されど多くの重要なる問題は彼の説に従へば却つて彼の豫期に反對する結果を生み出すの外なかりき、彼の宿年の希望は英人の勢力を減殺するに在りしを以て、彼は此目的の爲めに種々外交上の工夫を凝らして已まざりしが、其苦心は英人の一舉手一投足に由りて直ちに水泡に歸せしのみならず、却つて英人の勢力を膨脹せしめたり、されど彼は毫も其初念を翻す事なく、埃及の獨立が英人の助力に依りて始めて達せらるべき事理は竟に之を解するを得ざりき、斯く彼が幾多の明白なる過失に陥りし所以は、嚴密なる歸納的推理を好まざるフランク・ピヤンソンの頭腦に基きしにあり、元來政治上の事は一定の斷案に述するに先ちて、其基礎たるべき事實の真相を看破する必要あるに拘らず、彼は之に重きを置かず、感情の向ふ所に從ひて一定の結論に述するを常とせり。次第に述べんとするものを除きては、埃及國民の社會を構成する種々なる要素

は上來述べし所を以て盡きたり、評論の中には多少苛酷に失するが如きものなきにあらざるが故に、最後に彼等の爲めに一言辨じ置く必要を認む。本著の論究する時代に於て、埃及は歐化する必要を生せしが、主として其指導の任に膺りしは英人なりき、此際英人側にも幾分埃及化せんと努めしは事實にして、彼等は社會的には多くの適應をなし得ざりしも、政治行政の方面に於ては他の歐洲人よりも比較的容易に之を果すを得たり、されど歐洲文明は到底多大の變化をなして埃及の社會に適應するを得ざるが故に、之を以て埃及人を指導するに當りては、彼等をして我等のなすよりも一層多く接近し來らしむるの外なかりき、此點より謂へば、歐人が埃及人の眼に如何に映するかを探究するよりも、埃及人が教育ある歐人に如何なる感想を興ふるかを明かにするを以て一層重要なる事となさざるべからず、余は此意味に於て種々の社會の埃及人を描寫せんと努めたり、即ち余は彼等の宗教、歴史、道德的並に智的特質、社會的習慣等が彼等と其指導者との間に大なる溝渠を作れる事情を詳にし、彼等をして時勢の推移に適應せしむることの困難なる所以を明かにせんと欲せしなり、されど余



は彼等の各個人の現状を觀て直ちに之を非難せんと欲する者にわらず、曾つて長く支那に住居せし某英人の言に曰く、清國政府並に其人民が彼等の是認せざる天秤を以て權られ、之を基礎として改革を促さるゝは彼等の不幸なり」と此理は埃及人にも應用すべきものにて、余が本章並に前二章に於て述べし所も亦埃及人の是認せざる天秤を以て彼等を權りしものと謂ふべく、彼等に對しては多少氣の毒なる次第なり、即ち如何なる點より彼等を觀察するも、彼等が歴史、宗教、地理、氣候等の影響を蒙れる事の多大なるは決して忘却すべからざる事項なり、彼等の缺點を隠し、數十年を要せずして歐洲文明を消化すべしと揚言するは無益にして有害の事なれど、かのパリヤムの徒の人に對してなすが如く、輕蔑の眼を以て彼等を看るは最も慎まざるべからず、加之我等が羅馬の稅吏と符璫の差ありとの自負心も、埃及人の缺點の一部が歐洲人との接觸に基けることを思へば、儲に其程度を減せざるを得ず、されば我等をして基督教徒の寛仁なる態度を以て、出來得る限り彼等の缺點を恕すと共に、常に彼等を匡正せんが爲めに努力せしめよ。

### 第三十七章 歐洲化せる埃及人

歐洲化せる埃及人は概して無宗教なり——東方人を歐洲化する結果——佛蘭西化する埃及人——佛蘭西文明の電力——佛蘭西式は埃及人の人格教育に不適當なり——富貴社會は概して英國を好まず。

若し古來の東方的壓制政治にして猶現今の埃及に繼續せんか、歐洲の教育を受けたる埃及人、即ち所謂歐化埃及人の政治界に於ける位置は其少數が屬官として任用せらるゝに止まり、固より論ずるに足らざりしなるべし、然るに今や埃及政治の過渡期に遭遇せし爲め、彼等は稍重要なる特殊の位置を占むることゝなれり、されど彼等の人格を觀れば概して賤劣にして、其多數は墮落せる回教徒たりと共に、骨髄なき歐洲人と呼ぶの外なき状態なり、これ蓋し埃及の社會が文化未だ開けず、秩序尙整頓せざるが爲めに起りし現象と謂ふべく、若し此社會をして遙に進歩し整頓せるものならしめば、彼等の感情は依然埃及人たるを免れずとするも、大體の精神は殆ど歐人と違ふ所なかりしなるべし。



抑、歐洲文明の輸入を論ずるに當りて忘るべからざるは、回教の改革すべからざる一事なり。若し強ひて之に改革を加ふれば如何なるものとなるべきかは、茲に明言し難きも、兎に角回教の本質を失ふべきは疑を容れざる所とす。サーウリア・ムニリア曰く、基督教國國民は道徳哲學、科學、藝術等に於て進歩し得べきも、回教徒は常に停滞す。而して歴史の示す所に據りて之を想へば、將來も亦斯くの如くなるべしと、されば古來の信仰を堅守し、歐洲文明を嫌惡せる正教派回教徒が、埃及改革の大業を援助するが如きは、殆ど望むべからざること、云はざるべからず。然らば何所に此援助者を求むべきかと云へば、シリア人とアラムニア人は本來の埃及人ならざる缺點あり、コプト人は基督教を奉じ且つ其學力殆ど回教徒と異る所なきを以て、近年は必ずしも然り云ふを得ざれども、三者共に充分なる資格を有せず、結局歐人の行政を補助する任務の過半は、歐化埃及人の手に歸するの外なきなり。

歐化埃及人の多數は名義上回教徒なれども、其實大抵皆無宗教なり。加之彼等とアラムとの間の溝渠は、歐人とアラムとの間のそれに比して劣らざるのみならず、寧ろ一層甚しからずやと疑はる。惟ふに思慮ある歐人は、尊重すべき古代の宗教の代表者としてアラムに注目するのみならず、若し其人にして其階級を辱めざる品性を有せば、宗教家として之を敬愛するを辭せざるべし。然るに歐化埃及人に至りては、屢一知半解者流の高慢を以てアラムを蔑視し、所謂經驗的智識を精に取りてアラムを時勢後れの無用物と看做すなり。尤も彼等は表面アラムを攻撃せざるのみならず、時々之を政治上に利用することあれば、決して之を尊敬の價値ある者となさざるなり。

埃及青年は歐洲風の教育を受くる間に、全く回教の信仰を失ふか、少くとも信仰の最後の根據を失ひ、自己に對して最後の審判を下すべき神の常に自己と共に在る事を信せざるに至るなり。而して彼等が尙精神なき回教を保有することあるは、これ其道徳律の弛くして、彼等の趣味に適し、處世に便なるが爲めなり。人若し彼等が回教の信仰より遠かるを見て、基督教に近づかんとするものとなさば、これ認れるの甚しきものにして、彼等は實に改宗に意なきのみならず、その基督教を容れざること往々古風の正教派回教徒よりも更に甚しきものあり。但し彼



等が甚しく基督教徒を嫌悪するは、彼等の接觸せし基督教徒の多数が、眞に厭ふべき性格を具有せしと、回教徒が彼等の占めんと欲する位置を奪げるとに基くこと多し。

埃及の如き未開國に歐洲文明を輸入する爲めに拂はるべき代價が常に十分認識せらるゝや否やに就て余は疑なき能はず、所謂歐洲化に伴ふ物質的利益の甚だ大なると共に、精神的方面に於ける弊害も亦鮮少にあらざるは注意すべき事にて、余は教育の長足なる進歩を見たる今日に於ても國民の公徳並に私徳が結局如何なる變化を遂ぐべきかに就きて、未だ何等の臆断を下し得ざるなり、願れば歐洲文明は回教を破壊しつゝ、而も之に代ふるに基督教を以てする能はざる現状なるが、歐洲文明の基礎たる基督教的道徳律は、果して基督教に依らずして彼等に傳へられ得べきか、愼みに此問題に實に疑問中の疑問にして、將來生れ来る人類にあらざれば到底之に答へ得ざるべし。

に包まれ、其信徒が彼等の冷靜なる智力を以てしては到底到達し能はざる信仰と安心とを得つゝあるを見て、往々之を嘆稱し、時には嫉妬の情さへ燃する能はざる事あり、而して政治家にして自由思想を抱く者は、少くとも基督教が國家社會に貢獻する所の多大なるを認むるを要し、實際に於ても大抵皆然らざるなし、尙彼等の内には特殊の教派の信仰箇條を信奉せずとも、必ずしも無神論者にあらざるを主張する者もありて、兎角自由思想家たる事實が直ちに基督教徒と事を共にするを妨ぐるが如きは、毫も認むべからざる所なり、加之基督教的道徳律が近代社會に於ける個人間の關係を調整せざるべからざる事は、彼等の理性と直感との共に認むる所にして、此點に於て彼等は毫も正教派基督教徒に譲る所なきなり、實に基督教的道徳は歐洲に於て殆ど抜くべからざる根柢を有するが故に、假令基督教並に其神學は漸次に人心を支配し得ざるに至る事ありとも、之が爲めに道徳上の激變を見るが如きことなきは余の信じて疑はざる所なり、翻つて埃及人の自由思想家を見れば、彼等は以上述べし所と大に其趣を異にし、過去の歴史、又は現在の境遇に鑑みて、自己の行動を律するの念なく、其狀恰も能



機を捨て水先案内を斥けて困難なる海路を辿る船舶の如し、彼等は其同胞中に一切の改革を御くるを以て宗教信者の任務となす者尠からざるを見て、斯かる惡見を懐くに至らしむる特殊の宗教を罵倒すると共に、總て宗教なるものを拋棄し、遂に一派の歐人のなす所に倣うて、單に自己の利益の爲めのみ道徳を守るに至るなり。若し彼等をして秩序あり制裁ある社會に在らしめば、彼等と雖も少其行動を慎むべきも、彼等の社會は不信實と詐欺とを割すると嚴ならず、其他各種の惡徳に對しても其個人に加ふる制裁甚だ微弱なるが故に、彼等をして利害の觀念に依りて道徳を守らしむること甚だ難きなり。彼等は只管歐洲文明を崇拜すれども、自己の眼に映ずるものは單に歐洲文明の皮相にして、かの船舶のハラスト(船の轉覆を防ぐ爲め船脚に積む砂の魁)に該當すべき基督教的道徳が社會の根柢に滲み、所謂高標者流の容易に窺ふ能はざる方面を形成せることを知らざるなり。彼等は總ての宗教的偏見を拋棄して、傳來の教義を蔑視せる事を天に盟ひ、進んで歐人に向つて問うて曰く、我國が學校、鐵道、新聞、裁判所、其他總て歐洲文明の誇とせる所を採用したる今日、我は汝に比して何の劣る所ありやと、

されど墮落せる回教徒は假令自ら自己の短所を知り得ずとも、彼等は一の重大なる點に於て容易く除くべからざる缺點を有するものなり。余の見るところにして誤らずんば、教育ある歐人は假令正教派の基督教徒にあらずとも、尙其人格の大部分は基督教の産物にして、此宗教が千九百年間の歴史を有するにあらずんば、彼等は決して現に見るが如き人々にあらずしなり。リットン曰く、基督教の教義に反對する者と雖、此宗教が「進歩」に就きての完全なる概念を興へ、且つ之を實現せんが爲め眞面目に努力せし功績は、之を無視するを得ざるべしと。

回教諸國の宗教の將來に就きて考慮するは現時の急務にあらずれども、而も興味ある問題たるを失はず。一方に於て基督教の勢力が大に増加すべくも見えざると共に、他方に於て經典と傳説との上に立てる回教が再び其勢力を恢復すべしとの説も、亦詩人の夢想となさざるを得ず。されど已に屢述べし如く、歴史はただ宗教なき國民を示し、ことなく、世界到る所の人類は抑ふべからざる宗教的傾向を現すが故に、歲月の経過と共に回教國民が一の新宗教を建設するに至るべきは必ずしも空想にあらず。而して此宗教は恐らくはマホメドの教義の大部



を拋棄せる純粹なる自然神教なるべく之を以て彼等は單に自利を旨とせざる道徳律を樹立して其社會を維持するを得ん、惟ふに現今の歐化埃及人は改革の第一階梯に在る者にして、決して回教徒進化の最後の段階を示す者にあらずるが故に、彼等が將來一層高尚なる理想を發展するは、必ずしも望み難き事にあらず、されど茲に歐洲の政治家の憤まざるべからざる一事は、好意を以て最も必要なる改革に従事するに當りても、萬已むを得ざる場合の外、回教の信仰を破壊する虞ある手段を執らざるに在り、而して改革の事は單に官吏のみの事業とせずして、傳道師、博愛家、社會改革者等をも齊しく其事に膺らしむべし、彼等の意見は時に正鵠を失する事あるべきも、其目的は稱賛に値すべきものにて、之に加ふるに多少の指導と監督とを以てせば、各小規模に於て幾多の功績を擧げしむるを得ん、加之彼等の熱心なる、毫も世俗の毀譽褒貶を意に介せざるが故に、政治家並に行政家よりも一層重大なる改革を遂げ、後者をして小心翼々として其結果を收めしむる事もなきにあらず、されど國政の指導を以て己が任となす者は、是等の篤志家が埃及社會の宗教道徳に及ぼす影響に就きて、深く思を致さるべ

からず、何となれば一國民の宗教的信仰を輕視するは政治上、社會上、道徳上甚だ危険なればなり

歐化埃及人を論ずるに當りて第一に注意すべきは、上未述べし如く彼等が一般に無宗教なることなり、第二に注意すべきは、歐洲に於て教育せられたる埃及人に歐化なる語を冠するは必ずしも不都合にあらず、されども、英軍の埃及占領の前後に於て所謂歐化埃及人なる者の大多數は、其實佛化埃及人なりしことなり、初めメヘメト・アリが歐洲文明の輸入に就て試行的手段を探りし時、彼は佛國の援助を求めたり、蓋し彼は英國が他日埃及占領を企つべきを恐れ、國內に於ける佛國の勢力を増大せしめて英軍の侵掠に對する保障たらしめんとせしなり、斯くて幾多の埃及青年を佛國に遊學せしめ、國內にも所々に學校を興し、佛人を聘して校長たらしめし結果、埃及人は佛語の媒介に依り歐洲文明の最初の印象を受くることとなれり、尤も其結果の特に顯著なりしは、佛國の東方政策に負ふ所也、且つ元來佛人並に其政府は英人に比すれば一種の政治的先見を有し、且つ事の大體に通ずる能力に富むが故に、彼等は十九世紀の後半に於て伊太利以



東地中海沿岸の地に佛語を普及し、從來此地方の共通語たりし伊太利語の位置を奪ひ、以て東方諸國に獲得の地歩を占むる基礎とせり。されば彼等は埃及に於ても佛國の政治的目的に對する國民の同情を得んが爲め、英軍の埃及占領に先だつ五十年間、英國が埃及人の教育に就きて、毫も顧慮せざりし間に、佛語を普及し、佛國思潮を注入せんとして、凡ゆる努力を吝まざりき。而して此目的の遂行者としては、主として舊教の僧侶を擧げざるべからず。是等の僧侶は佛國の政治的目的を實現する爲めには、實に有力なる機關にして、非特僧主義の勇將ガムベラが、其主義は内地にのみ適用すべく、海外に在る僧侶は其例外なるを注意せしむるを見て、佛國の上下が如何に彼等を重視せしかを察するに難からず。斯くて佛蘭西共和國は、進んで東方に於ける舊教の保護者を以て自ら任じ、之に對して聊か、にても異議を挟む者あらば、決して之を看過せざるに至れり。

メヘメットアリと佛國政府との兩者の探りし政策が全然相一致して、佛國文明を埃及に輸入せしは、以上述べし如くなるが、今姑らく斯かる政策を考慮に加へずして、佛國文明其物の特質に就きて考察するも、尙其輸入に便なる所以を發見す

るに難からざるなり。之に就きての説明は、余が今述べんとする所なるが、兎に角、英人の埃及改革に對する種々なる障礙の内、最も注意すべきは、佛國思想が深く、歐化埃及人並に外來の東方人に浸潤せる一事なりき。

抑、佛蘭西文明の特色は英國並に獨逸の文明に比して、特に亞細亞人並に東方歐洲人の心情を惹き易く、且つ最も彼等の模倣に便なることにて、之に就きては種種の理由を擧ぐるを得べし。先づ兩人種の彼等に對する態度を見れば、英人が沈靜内氣にして非社交的なるに反し、佛人は活潑にして内氣の何たるを解せず、如何なる國民に對するも、僅に十分間の交際を以て、直ちに之を積年の親友の如く取扱ふなり。斯くて充分なる教育を受けざる東方人が、試實なる英人を喜ばずして、内心必ずしも爾かく誠實ならざる佛人の腹に抱かれんことを、望むは、毫も怪むに足らざるなり。

次に兩人種の智的特質を視るに、英人は不知不諱の間に、ペーコンの流を擧み、殆ど本能的に歸納法を好み、經驗に基かざる推理を斥く。即ち彼等は一定の結論に達するに先ちて、努めて多數の事實を蒐集するを常とし、その結論は是等の事實



が明かに證明する範圍を出づる事なし。然るに佛人の頭腦は全く其反對にて、事實の最も薄弱なる基礎に立ちて直ちに大膽なる結論を下し、之に對して何等の疑をも挟まざるなり。されば識見淺き埃及人が佛人の推論の奥底に往々誤謬の存するを知らずして、其才華爛漫たるを喜び、英人獨逸人の廻り遠くして興味なき方法を好まざるは固より其所とす。殊に兩者の行政を見れば、英人の方法が僅少の主要なる法則を設くるのみにて、他は盡く個人の判断に一任するに反し、佛人の行政法は秩序整然たる一大組織をなし、其規定は細大漏らす所なく如何なる偶然の事件に對しても總て之に應じ得て遺憾なきもの、如し、されば完全なる教育を受けざる埃及人が佛人の制度を以て一層完全にして且つ適用に便なりとなすは固より其所なり。實に彼等は一方に於て佛蘭西の行政法を埃及に適用せんが爲めには、事實を曲げて既成の條文に當嵌むる必要多きを思はざると共に、他方に於て英人が事實に適合する制度を樹てんとして努力せるを知らざるなり。要するに如何なる點より見るも、英佛兩國人の間には著しき相違あり、譬へば佛人は人をして恍惚たらしむる盛裝の處女の如く、英人は容姿已に衰へた

れども、人としての價值に於て一層勝れたる嚴肅なる婦人の如し、血氣未だ定らざる青年に似たる埃及の社會が、此處女を欣びてかの老婦人を顧みんと欲せざりしは、これ固より自然の傾向と謂ふべきなり。

埃及人の努むべき最大の急務が其智能を練磨するよりも寧ろ其品性を修養するに在りし事を思へば、彼等が前述の傾向に逆行し得ざりしは、蓋からざる不幸なりき。余は固より佛人を排斥する者にあらず、彼等の經營せる書教の學校が、埃及青年に對して高尚なる理想を注入せしは、百ふまでもなき事にて、尙當時佛國に行はれし軟文學を見て直ちに佛人の品性を信斷するも亦誤れるの甚しきものなり。加之余は或る點に於ては大に佛人を尊敬する者にて、例へば家族相互間の道徳を重んずる英風に於ては、各國民中恐らくは佛人の右に出づる者なかるべし、されど茲に忘るべからざるは、東方人は彼等の接觸する歐洲文明の長所を捨て、短所のみを同化する著しき傾向あることにて、佛人の影響を蒙れる埃及青年も概して佛人の美德に倣はず、其最も稱讚し難き性行のみを摸せり、而してこれ余が埃及人をして佛人の感化を受けしむるを欲せざる所以なり。



人若し教育ある埃及人が其師たる英人若くは佛人の缺點を看ること能はずと想はば、これ大なる誤にして、彼等は屬明かに之を知るなり而して之が結果として、彼等は自己が半ば歐化せるに拘らず、歐洲文明を蔑視して得々たるなり、彼等謂へらく、我等埃及人の道徳は果して如何なる點に於て我等の師匠に劣れりや、我等は誠實を缺き若くは貞操を破ることなきにあらず、されど歐洲文明の賜と稱せらるゝ歐人の性行を觀るに、毫も我等に優れるあるを見ずと、實に歐洲に於て新教育を受けたる埃及人中には、其埃及に歸り來るや、其行共に排歐思想の鼓吹者たるもの決して尠しとせず、老年の則教徒が彼等の言行に徴して益、歐洲文明の有害なるを確信するは寧ろ當然の事なれども、歐化せる青年が教育の程度低き彼等の同胞と同様に歐人を憎むに至りては、此矛盾を除去しては見出し難き現象なるべし。

埃及近年に對する佛蘭西的教育の結果は尙他の方面よりも考察すべきものあり、元來埃及官吏に通行なる一傾向は、出來得る限り責任を免れんとすることに、彼等の苦慮する所は何をなすべきかと云ふよりも、寧ろ如何なる行動を執ら

ば自己に對する非難を免れ得べきかと云ふに在り、而して斯かる傾向は彼等を以て自から英國風の行政制度を嫌惡せしむ、何となれば此制度の下には多くの事件は各人の分別に一任せられ、各人は自ら智能を働かして事に處する必要あるを以てなり、之に反して佛蘭西の行政方法は多大の勢力を以て組成せられたる法規中に、細大漏らす所なく規定せらるゝが故に、自ら思慮を廻らして事を決する煩勞は著しく軽減せらるゝなり、斯くの如きは最も埃及人の性格に適する制度にして、實に埃及人は焦眉の急に迫れる事件に對し、常職を働かして時機の處置を執る必要ある場合にも、徒に法規の條項を墨守し、頑として動かさること屬なり、彼等は忠實に規定を守りさへすれば、上官より寵愛を受くる虞なきを以て、之が爲めに如何なる災害を惹起することありとも毫も意に介せざるもの、如し、斯くて已に久しく一種の自動人形たる傾向を有せし埃及官吏は、一度佛蘭西化せらるゝと共に、益、杓子定規の行動に出づるなり。

斯かる點より觀れば佛蘭西流の訓練が埃及人の國民性を匡正するが如きは殆ど思ひも寄らぬことにて、寧ろ彼の生命なき文字に拘泥して其精神を閉却する



傾向を固定せしむるに應ぜし。

右に述べたる性癖の遺例は枚舉に遑わらざれども、左に其一二を示さん。  
曾つて某市に大火ありし時其附近の停車場の驛長は其際發車せんとせし流車にてポンプを該市に送ることを拒絶せり。彼は總て車の類は該列車に積み込むべからずとの規定を舉示し、都市の大火に際してポンプを輸送するは此限にあらざると云ふが如き附加的規定なき以上如何ともなすべからずとせり。尙之と似たるは往時に在りては街道にて不慮の事變の爲め生命危篤に陥れる者ありとも、其筋の官憲來りて之に關する事實の審問をなすにわらずんば、人費之を地上に委棄して顧みざりき。最後に最も滑稽なる一例を舉ぐれば、或る時某停車場の驛長發狂の徴候ありしかば、其容態を診察せしめんが爲め歐人の醫師を遣せしに、驛長は彼の入り來るを見るや、直ちに之を襲ひて殆ど絞殺さんとせり。其際醫師と共に來りし二人の兵士は、唯茫然として之を目撃するのみなりしが、醫師が必死の格闘の後、纒に間を得て命を休ふるや、彼等は一掛して直ちに狂人を捕へたり。後彼等に速に援助せざりし理由を問ひしに、彼等は答ふるに命令を受けざ

りしを以てせり。惟ふに彼等は其目撃せし格闘を以て、歐人が狂氣の驛長を取扱ふ處置の一部と看做せしならんか。

埃及の下級官吏殊に巡査が種々の事件を審問して其書類を調製するを見るに、彼等の主として注意する所は其書類を一定の形式に適合せしむる事にて、其内容の如何は彼等の殆ど顧みざる所なり。斯く手續のみに重きを置く結果は、官吏をして何時までも自動人形に止らしめ、毫も個人の能力を發揮せしむるを得ざるなり。要するに佛國流の局課を繁設し、綿密なる法規を以て豫め秩序を整頓する行政方法は、佛人の如き素養あり智慮ある人種に依りて實行せらるゝ場合には、其長所として認むべき點多しとせざれども、埃及の如き國に於て此方法を採用するは、決して有爲の官吏又は好個の市民を養成する所以にあらざるなり。

歐化埃及人の智能は近年に至りて隨に幾分の發展を遂げなれども、彼等の人格は歐人との接觸に因りて殆ど改良せられたるを見ず。而して正教派回教徒が彼等の宗教に基ける古來の習慣に依りて其手足を縛せらるゝが如く、歐化埃及人は屬種々の嚴密なる法式に依りて同様なる束縛を受くるなり。彼等は是等の法



式を以て歐洲文明の本體と思惟すれども、實は該文明に伴ひて偶然現れ來りしものに過ぎず。

以上述べ來りし所は歐化埃及人の大多數に通ずる特色なれども、彼等の内にも亦自から例外なしとせず(例外の数は年々増加しつゝあり)即ち埃及青年の内には將來優秀なる官吏たるべしと思はるゝ者ありて、殊に職を司法省に奉ぜる者に於て其最も然るを見るなり。これ蓋し近代埃及人の性格が行政官たるの修養を積むよりも、裁判官たる能力を發展するに適せるが爲りなるべし。何となれば行政官は自己の智慮を廻らし、自己の判断に訴へて事に處する必要甚だ大なれども、裁判官は單に法典を解釋して之を適用するに止まればなり。

最後に考慮すべき點は歐化埃及人の英人に對する態度なるが、之に就きては既に述べたる所に依りて略明かなれば、今は唯教育を費すに止めん。嫉妬心、英國風の行政制度の憎惡、英語を解せざること、英人の超然たる態度に對する憤怒、英人の美點を認め得ざること等の種々の理由は、總て歐化埃及人を同一の方向に傾かしめたり。即ち英軍の初めて埃及に來りし頃は、僅少なる例外を除けば、彼等は

皆排英思想を懷きたり。

近年に至りても、彼等の排英熱の減退せしや否やに就きては疑を容るゝ餘地なきにわらず、加之埃及新聞紙の記事を信せば、排英熱の却つて増加し來りし徴候をも認めざるを得ざるべし。孰れにしても職を埃及に奉ずる英人官憲は此種の感情を緩和せんが爲めに、凡ゆる努力を吝まざるの覺悟なかるべからず。殊に彼等に對しては飽くまで同情ある取扱をなし、彼等に如何なる缺點を見出すとも決して苛酷なる判断を下すことなかるべきなり。何となれば是等の缺點は斯かる特殊なる政治的情態と不健全なる社會的空氣との中に生長せし彼等に取りて、誠に避け難きものなればなり。



### 第三十八章 歐羅巴人

歐羅巴人の數——レバント人——其特色——希臘人——山嶺軍——英人の地及官定——  
英人に對する他の歐人の感情——英國島川地に英國領の諸附屬。

一八九七年の國勢調査に據れば、當時埃及に住せし歐人の數は約十一萬三千に  
達し、之を細別すれば次の如し。

最 近 埃 及	數
希臘人	三萬八千
伊太利人	二萬四千
佛蘭西人	一萬四千
埃地利人	七千
英吉利人 (守備兵並に英人以外の英國臣民も此内に含む)	二萬
其他の國民	一萬
合計	十一萬三千

此國民別は多くの點に於て重要なる意義を有すれども、茲に注意すべきは是等の數字が決して純粹なる各國民の數を表せるものにあらざる事なり、例へば二萬四千の伊太利人の中には、伊太利人に通有なる種々の國民的特性の一部若くは全部を缺けるもの掛からず、蓋し彼等の中には、單に同國領事の保護を得んとする目的の外何等の理由なくして、籍を同國に置ける者多ければなり、但し、マル島人の英國に於けるが如く、當然歐洲の一強國の保護を受くる者も多數あり、而して右の數字に表されたる各國民中には、其實レバント人に屬する者も多數なるが、所謂レバント人なるものは特殊の國民にあらざれども、彼等に通有なる特性を見れば、恰も一國民を形成せるの觀あり。

地中海東部の沿岸に住したる者は、假令レバント人に對して精確なる定義を下すを得ずとも、其如何なる者なるかを知るべし、彼等は概言すればレバント、伊太利以東地中海沿岸の地、殊に其土耳其に屬せる部分に住せる歐人の謂なれども、此定義の不満足なる點は、一方に於て歐人の東方に生長し、生涯東方に住居せる者の中にも、尙其本國人の特色を失はずしてレバント人と稱し難き者あると其



に、他方に於ては暫時レバントに居住すれば直ちに純粋なるレバント人と化し去る者あることなり。加之未だレバントに住せしことなき歐人の内にも、其本國に於て已にレバント人に近き特質を有し、殆ど之と區別し難き者もなきにあらざる。曩に佛國に於て教育せられし埃及回教徒を歐化埃及人と稱せしが、レバント人は正しく其反對にて、東方化せる歐人と名くべき者なり。但し其東方化には種々の程度ありて、中には全然歐人の特質を残さざる者もあれど、多數は半ば東方化せる歐人たるに過ぎず。而して斯かる相違を生ずるは、彼等のレバントに住する歲月の長短に因るよりも、寧ろ彼等の産地の異同に因るものにて、東方人と全く性質を異にせる北部歐洲の住民は、レバント人となること甚だ難く、元來東方人に近き南部歐洲の住民は、其東方化の程度も自から著しきを常とす。従つてレバント人の多數は從來常に南部歐洲の國民より補充せられたり、されど是等のレバント人が其本籍を執れの邦國に置くかは、本章の立場より見れば殆ど無意義のことにて、彼等を保護する領事の職なるに拘らず、彼等は竟にレバント人と稱ふの外なし。尤も彼等自身は一般に此名稱を厭ふの風あり、其理由は、第一世人

が一般にレバント人の人格を尊敬せざること、第二レバントなる國家なく、従つてレバント人なる語は非國民的名稱なること、第三何れかの國民と認めらるゝことが種々具體的の利益あること等なり。斯かる事情の爲めにレバント人の内には彼等に領事館の保護を與ふる邦國に對して、特に熱心なる愛國心を發揮するもの尠からず。今埃及に住する歐洲各國民のレバント化に就き、順を述べて説明を加へん。

獨逸人と英人とは久しく埃及に住むとも、完全なるレバント人となること殆どなし。彼等は曾に東方人と性質を異にするのみならず、其國民的的特質概して鞏固なるが故に、多少完全に其國民性を保存するを常とす。殊に彼等が一の團體をなせる時は、其本國に於ける同階級の人士に比して何等重大なる相違を生ぜず。伊太利人のレバント化を説くに當りては、先づ之を二種の階級に分たさるべからず。其第一は職工にして、埃及に於ける熟練なる煉瓦工、石工、大工、其他の職工の多くは伊太利より來れる者なり。彼等は概して忠實勤勉にして、埃及人に熟練を要する種々の職業を教へ、之を裨益すること甚だ多し。是等の伊太利人は其本國



なる同業者と同様なる生活をなし、悉もレバント化の徴候を現すことなし、その第二は中流の伊太利人にして、彼等は其家族と共に長く埃及に住し、殆ど代表的レバント人と稱すべき者多し。

埃地利人も其東方化し易き點に於て、是等中流伊太利人に優るあるも劣ることなし、但し其大多數は、ツリエント附近より來れる者にて、言語も概して伊太利語を使用す。

若し夫れ佛人に至りては最も奇觀を呈し、生粹の佛人より全くレバント化せる者に至るまで、各種の程度に住民を見出すを得べし、但し茲に起り得べき問題は「所謂極端にレバント化せる佛人は、果して元來の佛人なりや、寧ろ初めよりレバント人なりし者が、或る點に於て佛蘭西化せしにはあらざるかなるが、之を事實に徴するに、儘に斯かる者もあると共に、其反對即ち佛人のレバント化したる者もあるなり。

以上歐人のレバント化に就きて述べしを以て茲にレバント人の特色に就きて述べざるべからず、余は曩にレバント人の評判の甚だ好からざることを述べた

れども、下劣なる品性は決して彼等の通有性にあらず、殊に埃及に住するレバント人の商工業其他の業務に従事する者の中には、彼等がツリエント、ロノア、マルセーユ等に住せし時と在も異なる所なき精神を以て忠實に事に廣り、社會の一品として十分なる尊敬を受くるに足る者決して尠しとせず、然れども埃及の大臣並に英人顧問官がレバント人なる名稱を聞きて心中に描き出すものは、決して此種の人物にあらざるを常とす、レバント人が、其少數者の品性の爲めに一般に汚名を蒙れるは、其多數者に取りて甚だ遺憾なれど、是等少數者のみを觀れば、其人格著しく下劣なりと謂はざるを得ず、曾つて彼等は王侯より農夫に至るまで總ての埃及人を自己の餌食と看做し、斷えず其鋭敏なる智能を働かして掠奪に従事せり、實に彼等が其故國に於て有せし凡ゆる缺點は、埃及に來りて一層増長せしものゝ如し、其理由として擧ぐべきは、第一、彼等が埃及人の道德の低きを見て、之に對する者も亦多少低き道德の標準に據るを妨げずと做せしこと、第二、優越なる智能を有し、民法の詳細に通じ、外交上の後援を有する彼等が、無智輕卒、不用意にして、最も奪掠せられ易き住民を見て、自から不徳を制止する能はざりし



事なり、埃及人が歐洲文明を嫌惡するに至りし原因を探れば、此種の徒勞の非行も亦與つて力ありしと謂はざるべからず、彼等が多少歐洲の資本を輸入したる事は、埃及に取り左程の利益なかりしに反し、彼等が埃及人をして、歐人は利益を得んが爲めには如何なる事をも敢てする人種なりとの觀念を懐かしむるに至りしは、實に多大の害毒を流せしものと謂ふべし、尙彼等の内にも自から階級ありて、上流に屬する者は埃及の上流人士を其好餌と看做し、下流に屬する者は主として農夫を苦めたり。

希臘人の埃及に住する者は其數甚だ多く、特に他より區別して考察する價値あり、抑、希臘國臣民と土耳其國臣民との間の區別に就きては、兩國政府間に斷えず論争を見ることがなるが、問題は希臘人にして希臘以外の地に生長し、後に至りて希臘國に住せしことある者は、其國生並に居住が如何なる條件に適合する場合に、希臘臣民と認むべきかに在り、余は此面倒なる問題を詳説する必要を認めざれば、唯事實を一言せん、希臘人の大多數は、埃及政府當局者の反對に拘らず、種々希臘國民に與へられたる特權を享くるを常とせり。

阿弗利加第一の要港アレキサンドリアは殆ど希臘人の都會とも稱すべき所なるが、此所に住する幾多の有力にして且つ竹敵すべき希臘人は、埃及の爲めに貢獻する所多き好市民にて、其他小資本を以て商業に従事する者の中にも、最重に値する者扱しとせず、されどかの金貸業を營み又は酒舖等を開ける下等階級の希臘人に至りては、其品性も概して下劣なるを免れず、彼等は小賣業に特殊の手腕を有する者なるが、其最も特色とする所は、瓊々たる利益の爲めにも一身の危険を恐れざる事にて、常に埃及の殆ど總ての村落に侵入するのみならず、苟くも多少商業上の利益を見出し得べき所あらば、ヌーメン又はアヒンニアの山間僻地と雖、必ず行きて錫録の利を争ふなり、余は一八八九年に、ツア、ハルツの南方三十哩なるチラスの地を觀察せし事ありしが、當時同地は埃及軍前哨の駐屯地にして、陣營は猛獸の咆哮する曠野中に設けられ、殊に余の到着せしは、守備軍の來りて後僅に數日を経過せし頃なりしに、此時已に一希臘人の岩穴を臨時の商店として小數の顧客の爲に鱒、ビスケット等を販賣しつゝあるを發見せり。

下流希臘人は其商業の爲めに危険を恐れざる勇氣に就ては、世の信用を博する



に足れども、彼等の埃及に在るは、此國に取りて結局大なる不幸と謂はざるを得ず。何となれば土耳其埃及族のパンと希臘なるシークと狂熱なるアリムとが、社會に多大の悪影響を興へて後、繼に残存する健全なる道徳的並に政治的勢力を更に破壊せんとする者は、實に此種の希臘人なればなり。即ち彼等の内の金貸業者が巧に農民を誘ひ、法外なる利率を以て金銭を貸附し、幾許もなく法律を精に取りて之を自作農民より奴隸の位置に下らしむるが如き、或は彼等の内の酒類販賣者が自ら飲酒に耽ると共に、農民をして之に倣はしめ、以て同教徒の特色たる節酒の美風を失はしむるが如き、孰れか弊害の甚しきものにあらざらん、曾てクワドストーンが其演説中に、土耳其人にして若し一切の家財を携へて歐洲以外に移轉せば其だ喜ばしき事なるべしと述べしは、人目に膾炙せる所なるが、此事は必ずしも常に然りと謂ふを得ざるべし。然るに今立場を代へて、東方諸國の爲めに考ふれば、下流希臘人の一部が家財を携へて土耳其領を去れば、土耳其並に其屬國に取りて最も好都合なるべきこと疑を容れざるなり。

次に埃及在住の英人に就きて説明せんに、吾人は先づ之を三類に大別するを得

べし。即ち第一政府と關係なき居住者、第二古領軍、第三埃及政府の官吏是なり。右の内先づ第一類より始むれば、埃及に永続的に植民せる英人は甚だ少數にして、其主要なるものはアレキサンドリアに住する商人なり。尙彼等の店員にも少數の英人ありて、多くは地方に於ける店主の事業を管理す。是等の英人は埃及實業界の有力者にして、輸出貿易の大部は實に彼等の手を経つゝあるなり。彼等も亦一般英人の如く非社会的にして、通常他國人の社會と隔離して生活す。彼等は一般に誠實と勤勉とを以て事に磨り、其大多數は殊に公平なる精神を有し、決して官憲に難題を持たむが如きことなし。余は多年總領事として埃及に滞在せしが、彼等の内一人だも不義の要求を提出せし者あるを記憶せず。惟ふにこれ彼等が自己の権利の侵害せらるゝ場合には、法律に訴へて之を恢復し得べしと傲し、特に總領事の保護を求むる必要を認めざりしが爲めなるべし。これ寧ろ當然の事なれども、余は埃及に於ける各國の代表者が果して能く此言をなし得べきかを疑はざるを得ざるなり。

右の外同じ、第一類に屬すべきは、官廳以外の方面に傭聘せられにる英人なる



が彼等は概して強健快直にして業務に忠實なれども、稀に其無禮と強情とに由りて英人の聲價を損する者あるは其だ遺憾なり。されど之を通觀するに、埃及在住の英國民は堅實にして自重心あり、從つて又他よりも尊重せられつゝありて、實に其本國の名譽を傷けざるのみならず、埃及の爲めにも有益なる働をなしたつあるなり。

埃及在住英人の第二類即ち占領軍は、上將校より下兵卒に至るまで、十分なる訓練ありて能く規律を守り、極端なる排英黨と雖、彼等に對しては殆ど攻撃の矛を向けしことなし。彼等に對する非難の最悪なるものと雖、幾に勤工場の下等なる酒類に酔うて面目を失したりと謂ふに過ぎず。政治上の立場より觀て英國將校の特色と稱すべきは其超然たる態度にて、彼等は世界の如何なる地方に派遣せらるゝとも常に英國風の生活をなし、其娛樂も亦本國に於けると異る所なく、競馬、ボート、馬上にて行ふ一種の球戯、クリケット、ゴルフ、亦一種の球戯等に對する設備を整ふるを常とす。埃及に於ては、彼等が英人以外の社會と交ること殊に稀なるが、その理由は彼等が他國語に通せざること、彼等の社交上の習慣が埃及の

諸人種混合せる社會の夫れと異ること、に因るなり。試に佛軍をして埃及に駐屯せしめば、其將校は歐洲列國の居留民を己が親友となし、市街に在りては各珈琲店の店頭を賑して、軍隊と埃及人との間の同情を厚くするを得ん。されど之と同時に、屢口論鬭争を試みて、困難なる問題を惹起する事もあるべし。之に反して英國將校は住民より深く親愛せらるゝ事なき代りに、住民との間に紛擾を醸すが如き事なく、概して一般の尊敬を受く。斯くて兩者共に一利一害を免れされども、之を政治上の立場より觀れば、英國將校の長所は其短所を償うて餘ありと謂ふべし。即ち彼等が能く軍人たる本分を全うすると共に、毫も累を政治上に及ぼすこと無きは、埃及の如き複雑なる事情の下に在る國に滞在する軍人として、最も必要なる條件にして、埃及政治家中の識者たる「マーバー」も此點に就きて我軍人を稱讚せり。

余が會つてカイロの市街にて一人のレバント人と談せし間に、若き英國將校の騎馬にて過ぎ行きし者ありしが、此レバント人は俄に話頭を轉じて曰く、英國將校は身體強壯にして而も清潔なり、と余は之を聞きて奇異の感を起せしも、願



つて考ふるに汚面蓬頭の軍人を見慣れたる南方人種の中には、斯くの如き紳士らしき軍人を見て珍しく感ずる者多かるべし。

埃及在住英人の第三類たる埃及政府部内の英人に就きては、後に至りて述ぶる機會あれば、今は唯彼等が概して外國語に通じ、他國人に對して超然たること我將校の如くならざるを言ふに止めん、但し彼等も亦英人以外の社會に接觸すること餘り多しとは謂ひ難し、次に考ふべきは埃及在住歐人の英人(殊に埃及改革の事に腐れる英人)に對する態度なり。

埃及在住の英人と他の歐人との間に社交的同情の殆ど存せざるは、既に説きし所に依りて明かなり、歐人中の其眼者は英人官吏の忠實にして精力あり、殊に忍耐に富むを見て之を尊重すれども、一般歐人にして彼等を好む者は甚だ稀く、真に彼等の知己と稱すべき者に至りては更に一層稀なり、殊に保護政治の初期に於ける英人官吏は、其他の歐人に取りて解し難き一種の謎なりき、蓋し彼等は大陸諸國の官廳風に慣れ來りしが故に、繁文縟辭を去り謙遜なる態度を以て手輕く萬事を處置する英人官吏を了解する能はざりしなり、されど歲月を経て治

緩漸く事がるに従ひ英人官吏の方法も次第に一般より認めらるゝに至れり。

金貨業者、酒類販賣商、其他之に類似する業務に従事せる者は、初めより英人の改革に對して釋然たらざりき、彼等は回教徒の狂熱的暴動の爆發に際して、先づ其災を避るべき者にして、其生命財產を全うし得るは偏に英軍駐屯の餘澤なるに拘らず、尙英人が彼等の掠奪を妨礙するを忍ぶ能はざりしなり、即ち彼等は曾つて自由に埃及政府を掠奪し、若くは政府と結託して人民を劫掠せし當時を想起し、英人の執政に因りて貸金の利率が四分の一に減せしを恨とせり。

若し夫れ英人官吏の行動に對する歐洲の輿論に至りては、歐洲各國相互間の政治的關係の影響を受くること甚しとせず、之に就きては今説明する必要なければ、且に角埃及以外の政治的情態に基くものなれば、余の在職中にも複雑なる變遷を見たり。

余は以上の五章に於て埃及社會の主要なる要素を述べ、其各が英人の改革に對する態度殊に初期に於けるに説き及ぼしたれば、今や是等を排列して英人の改革と味方とを區別するを得べし、先づ其程度に依りて之を分てば次の四種となる。



第一、英人を飽くまで敵視せし者、第二、好意を表す時も其之切らず、敵意を懐く時も之を隠蔽せし者、第三、好意を有したれども敢て之を發表せず、且つ英人を援助する勢力なかりし者、數に於ては之に屬せし者最も多し、第四、好意を有し之を發表するを恐れざりし者、但し其數少く、且つ其意見を發表する機會も缺乏せり。

第一に屬するは土耳其埃及族のバレー、同教僧侶、歐化埃及人、佛人等にして、彼等は種々の理由に由り我を敵視せり。

第二に屬するは郷土コプト人、レリア人、レバント人にして、彼等は種々なる感情の撞着と利害關係の複雑なる變化との爲めに、其情皆一定せざりき。

第三に屬するは住民の大部を占めたる農民にして、彼等は初めより我に對して好意を有せしも、元來政治上の陋者にして、其眞意は一般に認められざりき、されど彼等にして假令其意見を公にするが如き事ありしとするも、本來無智輕卒の民なれば、恐らくは輕薄なる煽動家又は下劣なる新聞記者の術中に陥りて、心にもなきことを言はしめられしならん。

第四に屬するは思慮あり修養ある少數の歐人にして、彼等は儘に我に對して好

意を懐きたり、されど其好意たるや毫も熱情を伴はずして淡きこと水の如く、從つて彼等は政治上に於ても大抵傍觀者の態度を執るに過ぎざりき。

右に述べし所を以て觀れば、英人の敵及び之に近かりし者は、好意を有せし者に比して少數なれども、遂に有力なりしこと明かなり。

斯くて英人は數百年間塗炭に苦みたる人民の爲めに、前述なる保守主義、宗教的偏見、無學、國際的嫉妬、資本の勢力等に對して奮闘せしなり。

其初めに於ては形勢甚だ非なるが如くなりしも、英人は勇を鼓し警戒を嚴にして進みたれば、遂に勝利を得たり、彼等は初めより正義の爲めに戦へるを感じ、一方に於て萬一の場合に備ふる軍隊の後援を待み、他方に於て紛糾せる東方の政治に經驗ある老練家を用ひ、以て比較的短日月の間に顯著なる成績を擧ぐるを得たり、アル・エム・ケヒーアの戦の後僅に十年にして、圖見ある一腕武者は次の如き首をなせり、曰く、埃及の驚くべき恢復は印度統治の壯觀と併せて、英國の王冠を飾るべき二大寶石なりと、これ當に一個の私見に止まらずして、歲月の経過と共に英人の功績は何人も否定し得ざる所となり、埃及社會の各要素の



英人に對する意見も亦著しく變化せり。即ち最近に至りては歐人も埃及人も僅少の例外を除けば、總て皆能動的若くは所動的に英國側に立つこととなり、就中伊太利人と希臘人とは屢英人に對して多大の同情を表したり、其他埃及國內の種々なる基督教團體の代表者も、凡ゆる機會を捉へて英國に對する好意を表し、回教徒と雖、其大多數は終に改革に満足するに至れり。

埃及社會の種々なる要素の公然又は隱密の反對は、英人の事業を妨げたること少しとせざれども、改革に對する最大の障礙物は、事ろ各國の外交官、債權者、裁判官等の干渉の下に設けられたる種々の奇怪なる制度なりき。

固より其多くは初め稅政を防遏せんが爲めに工夫せられしものなれど、大勢の推移と共に終に善政を東解する機關となるに至れり。余は今讀者を導きて此複雜なる政治組織の迷路を観察せんと欲す。

### 第三十九章 政治の機關

國體の性質——國體の部分——第一、土耳其帝國——一八九二年の運動——サイナイ半島——第二、ケアイーン——一八七八年八月二十八日の運動——アムステルダム、ワシンの立憲主義——第三、大英——議會——埃及大區の地位——第四、一八八三年五月一日發布の憲法——州會——立法院——立法會議。

茲に機械學に遇せざる者ありて、複雑なる蒸汽機關の活動せる工場に入る事あらば、彼は一時置々たる音響の爲めに聳せらるゝと共に、如何にして此混雜の間より精巧なる製造品を作り出すかを怪むるべし。されど彼は説明を聞き觀察を加ふると共に、各種の車輪が各一定の速度を以て回轉し、ピストンの運動が豫定に従ひて寸毫の相違なく、槌の落ち来る強度が必要に應じて自由自在に變更せられ、安全鑄其他種々の裝置が不慮の災を防ぎ、機械の各部が各一定の仕事を行し、全部相合して其働を全うする所以を了解するに至るべく、之と共に機械の各部に時々油を注ぐのみにて、容易に精巧なる製作品を得ることに就きて最



平疑を懐かざるに至るべし。  
 若し之に反して混乱は最初考へしよりも一層甚しく、且つ車輪の軸は著しく中心を離れ、ピストンは屢活動を中止し、軸の強さを調整すべき適當なる装置を缺き、不時の變に備ふる安全瓣其他の設備なく、各部に依りてなざるべき仕事の不確實にして一定せず、一部は最近に改良を加へられたる新式の型なるに反して、他部は久しく磨れたる舊式に屬し、虚心力の働常に強くして、機械の各部を其軌道外に離散せしめんとし、若し機械に附着したる砂を直ちに取り去る事を怠るか、又は適當の時機に油を注入する事をなさざる場合には直ちに全機關の破壊を來す虞ありと謂ふが如きものならば、人は折かる機械より精巧なる物品の製造を期待せざるのみならず、果して何物を作出し得べきかを怪むるべし。  
 埃及の政治組織と進歩せる歐洲諸國の尖れとの比較は、恰も此第二の機械の第一に對するが如し、歐洲に於ては人皆專制政治と立憲政治との意義を知る、其他絕對君主制、制限君主制、共和政治、議會政治、聯邦會議等の語が一國の政治に就て用ひらるゝ時は、尙くも教育ある歐人は是に由りて直ちに其國の政治の大要を

了解するを得べし、然るに翻つて埃及を觀れば、如何なる名稱を附するも到底人をして此國の政體を了解せしめ得ざるのみならず、之を説明することも政治辭典の如き簡潔を旨とする書籍に在りては到底不可能のことに屬す。

今埃及の政體の變則にして不秩序なる所以を數項に分ちて説明すれば次の如

第一、埃及の政治なるものは決して其の政治にあらず、例へばケニアは外國に對して主權を代表する事を禁せられ國內に對しても幾多の半屬國の君主の行使する主權すら完全に有せざるなり。

第二、總ての土耳其領土に埃及に於て立法權の行使せらるゝ方法は一種特別なり、吾人は英國人なれども露西亞皇帝の詔勅の如何なるものなるかを知る、又英國人にあらざるものにも、シレートのプリアン並にアイムランの聯合國の皇帝が、上下兩院を通過したる議案に承認を與へたりと首へば、此如何なる意味あるかを知るに難からざるべし、然るにケニアは專制君主にあらざると共に、又立憲君主にもあらずして、埃及住民の全部に有効なる法令を發する權能を有せ



さるなり即ち此國の立法は總て諸外國の代表者の同意を要するが故に例へば埃地利皇帝又は白耳義皇帝の臣民たる在住者に對して新法律を設けんとするに當りて米國大統領又は瑞典皇帝の承認をも要するなり。

第三、行政上の權力所々に散在して其所在を明かにし難し例へば或る事項に就きてはケア、ア、プと其大臣とが實際上專制政治的の權力を有するに反し他の事項に就きては彼等は極端なる共和國の知事よりも一層其行動を束縛せらるゝことあり殊に文書の上にては明かに承認せられたる權能も外交家の烟眼に俟たざれば發見し難き微小なる絲の之を束縛するありて實際に於ては大に彼等の自由を妨害するが如き場合多しとせず。

第四、司法制度は殊に混亂の狀を呈せり一方に於て外國人にて組織せられたる法官の一團が自ら法律を作り出して判決すると共に他方に於ては埃及人自身も亦裁判の事に膺るなり其他各國領事は其國人の犯罪を各自國の法律に照らして處罰するかと思へばケア、ア、プは埃及人の遺言に關する訴訟をセハ、メ、ドの粗笨なる法規に據りて判決せんと努む。

以上は複雑なる政治機關の概況なるが今少しく其詳細を説明せん先づ此機關の部分として事々々々きは第一、土耳其帝、第二、ケア、ア、プ、第三、大臣、第四、立法院と立法會議、第五、高級職人官吏の五なり。

此外埃及政府と諸強國との間に數次締結せられたる協定に由り國際的行政所謂聯合行政なるもの行はれ其制度並に權能は列國の承認を経ざれば變更し得ざる規定なり英軍埃及占領の初めに於て之に屬せしは一八八二年第一國債整理委員會第二鐵道、電信並にアレキサンドリア港の經營を含む第三、ダイヤ、經營、第四、ド、メ、ン、經營の四種なり。

最後に裁判は第一、混合裁判所、第二、本國人裁判所、第三、領事裁判所、第四、メ、ー、ケ、メ、ー、シ、ー、レ、イ、ーの四種の法庭にて取扱はる。

第一 土耳其帝

土耳其帝とケア、ア、プとの關係は一八四一年より一八九二年に至る幾多の詔勅に依りて規定せられしが其内一八九二年三月廿七日、ア、バ、ス、二、世に與へられし



ものを最も重要となす。但し此詔勅は後に述べんとする一個條の外、凡て一八七九年八月七日、メーニッ、ク、パレヤに對して下されしものに異らず。

一八九二年の詔勅の主要なる條項は埃及の統治を一定の制限の下にアハム二世世並にその子孫(長男相續制)に依託せしものなり。今その制限を列舉すれば次の如し。

第一、總ての埃及人は土耳其帝國の臣民にして、租税の徵收は土耳其帝の名を以てせざるべからず。即ち之に據れば埃及國又は埃及國民なるものなきなり。  
第二、ケアニアは外國と政治上の條約を締結するを得ず。但し貿易又は全然内治に關する協約は例外なり。註、此例外は甚だ重大なるものにして、ケアニア法律學校講師ワ、ー、ム、ス、コ、ト氏は次の如く言へり。曰く、埃及政府は領土の割讓並に宣戰講和以外の凡ての問題に就きて、協約を締結し得べきものと思はると、此外交的關係の自然の結果として、ケアニアは歐洲各國に其外交代表者を派遣する權利なく、各國の代表者が國際會議を開くに當りては、土耳其の委員に依りて代表せらるゝを常とせり。但し埃及の利害に關係を有する特殊の問題に就きての會

議に在りては、特に其代表者の參列を許可せられたり。尤も此點に就きては明確なる規定なく、例へば一八八四年倫敦に於て埃及の財政を議せんが爲りの會議を開きし時の如きは、埃及は單獨代表權を拒絶せられたり。されば此際土耳其國大使ムスルマ、パレヤが議席に在りて、廢棄の境に遊びしに拘らず、埃及政府より來れるア、グ、レ、モ、パレヤとブル、ム、パレヤとは席を列外に設けられ、直接會議に與るを得ざりき。然るに一八九二年、ベ、ム、スに開かれたる檢疫に關する會議にては、埃及政府の代表者は決議權を有せざりしも、發言の自由を許されたり。尙一九〇四年巴黎に開かれたる衛生會議の際には更に一步を進め、埃及代表員は委員會總會に於ける決議權を有せざりしも、分科會に於ては之を享有せり。  
第三、ケアニアは其支配する土耳其帝の領土を第三者に讓與するを得ず。但し此點に就きては伊太利がマ、ー、ソ、ツ、を占領するに至りて、理論と實際との衝突を見たり。

第四、貨幣は總て土耳其帝の名に依りて鑄造せざるべからず。  
其他は主として軍備に關する規定にて、多くは埃及に對する土耳其の疑心より



來りしものなり。即ち陸軍に在りては平時の兵數一萬八千を限度とし、但し土耳其が他と戦端を開き、埃及軍の援助を要する場合は例外なり。海軍に在りても土耳其帝の認可を経ずして甲鐵艦を造ることを禁じたり。軍族は凡て土耳其のものを用ひ、軍人の階級を區別する徽章も亦土耳其に倣ひて制定せしむること、せり。又ケアニアの任命し得る官職は、文官に在りては「モー」(二等知事)武官に在りては大佐以下と定めたり。

土耳其帝の數回の讓歩に對して、イヌメル・パレは年額六十八萬二千磅の貢金を土耳其に支拂ふこととせり。即ち一八四一年、メヘメト・パリの支出せし年額三十七萬七千磅は代々のケアニアの野心と土耳其帝の窮乏とに因り、殆ど其倍額に達せしなり。

前に一八九二年の詔勅は一の例外を除けば凡て一八七九年の詔勅と同一なることを述べしが、此例外は土耳其と埃及との境界に關する問題なり。即ち一八七九年の詔勅は土埃の境界を定むるに當りて、廿餘年來埃及の管轄に屬せし地方を其儘ケアニアの支配に歸せしめしが、一八九二年の詔勅は再び之を土耳其の

直轄地とせり。今當時の事情に就きて、少しく説明する所あらん。

抑、土耳其はヘラズの地に北緯二十度以北の紅海沿岸メカ、メアナ等の所在地にて、從來歐人の不動産所有權を認めざりし地方なり。歐人の干渉の來らんことを恐るゝこと已に久しかりしが、最近に起りし次の二の事件は大に土耳其帝の憂慮を惹き起す原因となれり。第一は土耳其の稅政の爲りにエメン州に反亂を見るに至りしことにて、土耳其人は何等の根據なきに拘らず、之を以て英人の陰謀に歸せり。第二は猶太人フリードマンなる者國籍を獨逸に置、露國より追放せられたる數十の同胞を率ひてアカバ灣、江海岸の北部に在りし東岸に植民せんと努めつゝありしことにて、ムーク・パレは猶太人がエルサレムを恢復する救世主の出現を久しく期待せること、並に彼等がフリードマンを以て正しく其人となすべきことを指摘せり。フリードマンに斯かる野心なきことに就きて、ムーク・パレの疑を解くは難事にあらざりしも、土耳其帝の疑念は決して容易に消散すべくもあらざりし。斯くて土耳其帝は此方面に於ける直轄地を擴張する必要を認め、詔勅の起草中には其内容が一八七九年のものと同ーなること



を英國大使に覆言せしに拘らず、實際は土埃の境界をヌエズよりエル・アッレンに  
至る線と定め、四十年來ケニアの管轄に屬せしカイナイ半島を土耳其の直轄  
地とせり。

然るに豫め斯くあるべしと信じたる我當局者は、此詔勅に接すると共に直ちに  
土耳其政府に干渉して其發布を否認せり、蓋し我政府は土耳其兵をして、ヌエズ  
運河の畔に徘徊せしむるを好まざりしを以てなり、之に對して土耳其帝は初め  
耳を貸さざりしも、數週の後土耳其國總理大臣よりケニアに宛て、讓歩すべ  
き旨を打電し、エル・アッレンよりアカバ灣頭に至る線を以て境界とせり、斯くて此  
事件は一時落着し、詔勅は例の誇大なる文字を以て發布せられたり、而して、土耳  
古と埃及との關係を規定せる詔勅の變更は、我女皇陛下の政府の承認を経べし  
との原則は、茲に再び明かにせらるゝを得たり。

後一九〇五年に至り、土耳其は再びカイナイ半島を占領せんとして大に努むる  
所ありしも、稍激烈なる談判の後、依然一八九二年の協定を繼續せしむることゝ  
せり、幾許もなくして右の境界は聯合委員會に依りて確定せられたり。

以上述べし所は土耳其帝とケニアとの間の政治的關係なるが、是に由りて觀  
れば、土耳其帝はケニアの權力を制限せんとして斷えず努力せしこと明かな  
り、而して埃及の治者階級の土耳其帝に對する感情は、政治上の恐怖並に嫌惡の  
情と宗教上の同情との混合せるものにして、是等の感情の孰れが勝を制するか  
は、一に各の場合の事情に依りて變じたり。

## 第二 ケニア

本書の第一卷に於て、イスマイル・パシャが責任内閣主義を認むるの已むなきに  
至り、遂に一八七八年八月廿八日の宣言を發せし事を述べたり、此宣言は其後幾許  
もなく彼の犯す所となりたれど、而も今日に至るまで埃及に於ける政體の骨子  
となり來れり、言ふまでもなく貴重すべきは宣言の文字にあらざりして其精神に  
在りしが、幸にして彼の後を承けてケニアとなりしア・ク・パシャは立憲政體  
を好みしかば、能く此宣言の精神を貫徹せり、即ち彼は自己の正當なる權利を確  
保せしと共に、毫も專横に流るゝ事なく、常に内閣を通じて統治せり、宣言の文字



は甚だ曖昧にして、十分君主專制の實を舉ぐる餘地あれども、英人が埃及の政治に與はる限り、斯かる惡制度の復舊せらるゝ傾向を防止するや必せり。

### 第三 大臣

埃及の行政機關は七省に分たれ、各一人の大臣を戴く、外務、大藏、司法、軍務、工部、文部、内務、是なり。

郵便、關稅、燈臺の事務は大藏省の管轄に屬し、衛生並に監獄の事務は内務省の管轄に屬す。其他宗教に關係ある財團は、別に一人の總裁を任命して之を監督せしむ。但し此總裁は實際ケア、イアの命を奉じて事を行ふに過ぎず。

閣議には亞利比亞語と佛語とを併用す。後者は之に出席する資格ある歐人、並に亞利比亞語を解せざる大臣の便宜を圖れるものなり。

埃及人大臣の地位は困難にして精神を勞すること多し、殊に各省内に大抵奉職せる高級の歐人官吏は、其重なる原因の一をなすものなり。國政處理の上に於て、理想とする所は、一方に於て大臣が其部下に對する猜忌心を去りて之と事を此

にし、正當なる勸告には喜んで之に従ひ、疑を拂ひべき餘地あらば明かに其理由を述べると共に、歐人官吏に於ても決して大臣の權限を犯さず、事の確實ならざる場合には己が意見を述べらざるに在り、されど以上を實行する埃及人大臣と歐人官吏とを發見するは必ずしも容易のことにあらざりき。尤も概して聞へば、此制度は圓滑に行はれ、兩者の關係は近年に至りて殊に親密となれり。

### 第四 一八八三年五月一日發布の憲法

一八八三年五月一日發布の憲法は、メッララン卿の指導の下に制定せられしものにして、其内容を略述すれば次の如し。

第一、各州に州會を設け、其人員は州の廣表に従ひて三人乃至八人とし、知事を以て其會長となす。其權能は道路、運河の設計、市場の建設等、種々の地方的問題を講ずるに在り。州會議員の總數は七十名なり。其選舉は飽くまで進歩せる思想を探り、特別なる選舉人資格を設けず。

第二、立法院は三十名の議員より成り、此内會長を併せて十四名は政府の指名に



係り、他の十六名中、一名はカイロ市より、一名はアレキサンドリア並に其他の市より、残れる十四名は州會議員の互選に依りて選出す。總て法律又はケブ、ローアの命令は豫め本院の會議に附するにあらざれば發布するを得ず、政府は必ずしも此會議の決議を採用する義務を有せざれども、之を採用せざる場合には其理由を通知する責任あり、而して其理由の可否に就ては本院は之を論ずるを得ず。豫算も亦本院の會議に附するを要し、議員は豫算の全部に亘りて自己の意見を發表するを得れども、政府は必ずしも本院の意見を採用するの義務なく、殊に國際的協約より起る財政上の要求に對しては本院の容喙を許さず、會議に際しては大臣は自ら討論に加はり、若くは部下の高級官吏を自己の代理者として出席せしむるを得。

第三、立法會議は八十二名の議員より成り、其内六名は大臣、三十名は立法院議員にして、其他の四十六名は人民より選出す。議員の候補者となるには、年齢三十歳以上にして文字あり、且つ直接税〇三埃及磅以上を納むるを要す。政府が新に直接税を課するに當りては本會議の承認を経るを要し、公債、鐵道、運河、地價の評定

等に就ても本會議に諮詢する義務あり、本會議は行政、財政、經濟等の問題に就て、任意に其意見を發表するを得れども、政府は立法院の場合に於けるが如く、理由さへ明かにすれば必ずしも之を採用する義務なし、本會議は少くとも二年に一回召集せらるゝを要し、傍聴は立法院に於ても本會議に於ても之を許さず。通信員の立法院傍聴の請願に對する余の意圖は、余の埃及に於ける最後の報告書中に之を陳述せり、若し此請願にして反對を受くることあらば、これ決して歐人より來れるにあらざして、立法院の議員より起れるものと認めざるを得ず、何となれば是等の議員の一部が此改革に關して種々の反對意見を有することは之を信すべき充分なる理由あればなり。

一八八三年一月發布の憲法は、是等の制度の外に法制局の設立を決定せしが、此組織と權能とは、實にケブ、ローアの命令を以て規定することとせり、此制度は佛國に倣ひしものにて、其目的は法律の草案を作るに在りき、一八八三年九月余が初めて埃及に來りし時の中心問題は、此法制局の設立に在りしが、當時若し此制度にして實行せられんか、埃及政治機關の全部に亘りて列國協同主義を輸入する



に至りしや必せり。此事情が幾許もなく明白となりしに拘らず、議論は尙數個月間繼續せしが、一八八四年一月十九日に至り、余がグランビル卿に宛て、此制度の無用の長物なるべきを報告せしと共に、モーバーパンも亦余と意見を同うせし爲め、竟に設立を見るに至らず、斯くて埃及は幸にして這箇一種の國際的災難より免るゝを得たり。

抑、メッソン卿は自由を愛する經世家にして、以上の制度も亦此精神を以て案出せしものなり。即ち其本旨とする所は、埃及人民に其意見を發表する機會を興へんとしたるに在り、されど斯かる政治思想の幼稚なる國に於て、議會に多大の權能を附與するは政府の活動を妨ぐる虞あるを以て、彼は此點に就きても周到なる注意を怠らざりき。

埃及に於ける代議制度の範圍に就きては、最近幾多の論争を惹せり。されど此問題に就きての余の意見は既に委しく世に發表し置きしのみならず、本書の主旨は現在の問題を論ずるよりも寧ろ過去の歴史を述ぶるに在るが故に、余は今最も簡單に之を説明せん。

先づ一言せざるべからざるは、メッソン卿が國民の自由の確立せらるゝに至るまでには尙長年月の奮闘を要することを豫想せし一事なり。されば彼は自ら多くを成就せん事を望まずして、唯一般人民の爲めに土耳其人の暴虐に對する一種の障壁を設け、以て幾分にも國民の災禍を減せんとせり。而して其創設せし代表機關が英人の監督の下に訓練せられ、政府部内の歐人をして土着民の真意を明かにせしむる爲めの機關となるに至らんことは、彼の將來に對する希望に過ぎざりき。惟ふに彼は其晩年に至りて、自ら創設せし制度の效果に満足せしのみならず、其發達の豫想外なるを喜びしなるべし。

メッソン卿の創設せし制度を發表せしむべき最良法が、先づ最小なる團體の發達を圖るに在るは疑を容れざる所にして、彼も亦曾つて其報告中に、地方の自治は立憲政治に到達すべき最良の階臺なりと主張せり。而して過去廿四年間に於ける地方自治制度の發達に就きては多くの著者は未だ適當なる注意を拂はざりしも、其進歩は比較的顯著にして成績の見るべきものなきにあらず。

地方の都市の最も重要なるものゝ内には、已に歐人と埃及人との聯合より成る



市自治體の組織せられたるもの抄しとせず、されど此制度は市會が租税を課する権能を有するにあらずんば充分なる發展を望み難きに拘らず、現時は歐人に租税を課するに列國の承認を要するを以て、歐人が自ら進んで市税の負擔を認せざる限り、漸に斯かる市自治體を組織すること困難なるべし。

現今多くの都市に於ては、政府の選定せる地方委員なる者ありて、政府より交附する資金を管理し、之を市の費途に充てつゝあるなり。

近き將來に於ける地方自治の發達として豫期し得べきは、市自治體と地方委員との數を増加し、且つ其權限を擴張するにあらん、されど茲に注意せざるべからざる一事あり、元來東方諸國に奉職する歐人の、陷り易き一大誤謬は、東方人が歐人の如く道路、下水、電燈、其他總て文明の附屬物を切望せりとなすことなり、現時の埃及人は、是等の事業が一般の租税の中より資金を得て經營せらるゝ場合には、固より之を歡ぶ者あれども、之が爲めに附加税を負担することは、少くとも今日までの事例に徴すれば、彼等の欲する所にあらずりき、蓋し東方未開國の人民の多數が最も希ふ所は租税の輕減に外ならざればなり、これ實に爲政者の深く

思を致すべき點にして、漫に事業を經營し、彼等に苦痛を感せしむるは決して策の得たるものにあらず。

一八八三年の憲法は州會に關して一の規定を設けしが、想ふに當局者は此規定より起る結果に就て充分考案せざりしならん、之が爲めに州會の作用は著しく減殺せられたり、其規定とは、州會は知事の召集すべきものにて、知事は豫めケヅ、一ノより開會期日を指定せる召集命令を受くべしと謂ふに在りて、之が爲めに州會は一年一回以上召集し難きこととなれり、今や時勢の進運と共に、州會の改革に就きても大に熟考すべき時機に達したれば、余は埃及を去るに先ちて之に關する意見を發表せり、其主意は州會を改造し、且つ少しく其權限を擴張し、以てマンリッソンの素志に對して一歩を進むるに在りき、脚の素志とは何ぞや、州會を以て知事の有力なる助言者たらしむること是なり、マンリッソンの素志は此事業に着手せしが、彼が埃及官吏の援助を得て國民の要求並に現狀に適合せる制度を案出すべきは、余の信じて疑はざる所なり。

立法院の組織並に其權限を變更するの可否は甚だ困難なる問題なり、余は慎重



の態度を以て之が改革を企つるを必ずしも不可なりとせざれども、議會としての充分なる権能を之に附與し得るに至るは前途尙其だ遠慮なりと信ず、即ち近き將來に於て之を實行するが如きは、埃及人の爲めにも百害ありて一利なきことなるべし、議員の多數が忠實にして思慮に富めるは疑を容れざる所にして、其中には余の友人もあれど、余は竟に本院の二大缺點を看過する能はず(但し是等の缺點は、現時の埃及に在りては、假令如何なる人々を集めて此會を組織するも免れ難き所なり)。

第一の缺點は、他國に於ても屢其例を見ることなるが、彼等は輿論の壓迫の下に豫算に對して重大なる變更を求め、殊に結果を慮らずして公共事業に對する多額の出費を辯護する傾向著し、元來埃及は非常なる苦心を以て纔に財政上の困難を免れ得たる國なれば、代議制度を擴張して再び此危険を冒さんとするが如きは實に思はざるの甚しきものと謂はざるべからず。

第二の缺點は、埃及の近代史に通ずる者の眼には、寧ろ當然として映すべきものなるが、議員中の最も進歩せるものと雖、未だ大膽に自己の所信を發表する勇氣

を有せざることなり、殊に彼等の多數を恐怖せしむるものは國內の新聞紙にて、言論の自由が印刷の自由に依りて妨げらるるとは、歐人には了解し難きことなれども、矛盾國にては如何なる事にてあり得るなり、想ふに立法院議員の大多數は、彼等の言論と行動との自由を得る手段として、嚴重なる新聞條例の發布を歓迎するならん。

マフリン卿の創設せし制度の中に、て立法會議は實際殆ど無用のものとなれり、蓋し斯くの如き制度は此國の要求と國民の文化とに比較して餘に高きに失すればなり、されば假令此制度が突然廢止せらるるとも、實際に於て何等の損失もなかるべし、若し之と同時に立法院を改造して少しく其權力を擴張せば、余は代議制度の爲めに寧ろ之を喜ぶ者なり、されど人は斯かる手段を以て代議制度の退歩となすべきが故に、當分之手を下さざるは寧ろ策の得たるものなるべし、余は本會議の權力を擴張するが如き企圖のなからんことを祈ると共に、其組織の改良も亦最も困難なるべきを信するなり。

統治機關中埃及人のみより成れる部分は以上を以て盡きたり、元來此部分は決



して自ら活動し得るにあらずして、之が爲めには強き動力の加はる必要あり、而して此動力は英人官吏に依りて供給せらるゝものなれば、次章に於て是等英人官吏の職能に就きて説明せん。

### 第四十章 英人官吏

英人官吏として必要なる資格——文武官の位置——テュムスに於ける佛人——財政顧問官——サー・エドワード・ギンセント——司法顧問官——其任命に就く時の歴史——サー・レリモンド・ウェスト——埃及人の經營なる司法——サー・ウイン・スロッド——工部省——サー・ロビンソン・コックラン・クワイリー——サー・ウィリアム・ガースタイン——大蔵次官——アレクサンダー・マクナルド——サー・エドワード・ゴースト——大蔵省に附屬する三局——内務省——政府の教育事務——歐人官吏と埃及人官吏。

スタニエル夫人は曾つて某夫人より其子の家庭教師の推薦を依頼せられし事ありしが、此夫人は自己の求むる教師の人物を描き出して曰く、彼は其動作に缺點なく、充分世故に通せる紳士たるべし、彼は古典に通ずると共に近世語の素養あるを要す、彼は兒童に對して恠も威壓を加ふる事なくして、而も同時に決して之を放縱ならしむべからず、要するに彼は殆ど凡ゆる道徳と智能とを有すべし、但し俸給は小額ならん事を要すと、頗才あるスタニエル夫人は是等の必要なる資格を一々眞面目に聞き取りし後之に答へて曰く、貴女よ、妻は貴女の求むる人物を



能く了解せりされど妾は斯かる男子を看出さば直ちに妾の夫とすべしと。此談話は直ちに取つて以て埃及の要求する理想的英人官吏の資格となすを得べし。英人官吏は工學法律と云ふが如き一定の専門的智識を有せざるべからず。殊に彼等は屬佛語にて自己の思想を發表する必要あるのみならず中には屬官の術中に陥る危険を避けんが爲め困難なる亞利比亞語の智識を要する者も甚だ多し。以上は何時にても正確なる試験をなし得べき資格なるが、此外明白に檢定し得ずして而も一層必要なる資格あり、即ち彼等は高尚なる品性を具ふると共に、曾つて得たる智識を此不思議なる國に應用する能力を有せざるべからず。彼等は直ちに改革すべき惡弊と暫らく放置すべきものとを區別する健全なる判斷力を有せざるべからず。彼等は變通の才を有し、敏腕を揮つて行政事情を自己の改革に適應せしめざるべからず。彼等は禮讓を重んずるを共に、決して薄志弱行なるべからず。剛直なると共に、濫に人を抑壓せず、寧ろ出來得る限り自己を没却せざるべからず。實に彼等は此専門の智識以外に廣く世故に通じ、外交家たり行政家たる資質あるを要するなり。

如何なる國に於ても、一省の官吏として必要なる經驗を有すると同時に、右に述べし資格を具備する官吏を得るは決して容易の事にあらず。假令此人ありとするも年額二千磅以下の俸給を以て之を埃及に誘ひ來るは殊に困難なりとす。抑行政機關の有功なる運轉は主として適材を適所に置くに由るものなるが、通常空位を満さんとする場合に起り來る現象は、自ら其地位を得んとする幾多の候補者は其任に堪ふる資格を缺き、必要なる資格を具備する少數の人士は種々の故障ありて拜命を肯んせざる事なり。斯かる事情あるに拘らず、埃及の經營が成功を以て通例とし、失敗を以て例外と看做すを得しは、以外の率細と謂ふべし。英人官吏の位置の變則なるを思へば、彼等が概して各自の任務を遺憾なく遂行したるは深く稱讃せざるべからず。彼等が外交上の後援を有せしのみならず、必要の場合には一層有力なる援助を求め得べかりしは言ふまでもなき事なれども、而も彼等の眞に頼とすべきは主として彼等の智慮と品性とに在りしなり。英國總領事は埃及大臣に對して英人官吏の意見を辯護すると共に、後者に對しては餘に改革に熱中せざらんことを注意するを得たり。されど彼は努力して解決



せざるべからざる紛擾の起らざる限り、正式に舞臺に現るゝ能はず、殊に各省の瑣事に至りては、彼の干渉の範圍外なりき。されば英人官吏の事業は主として彼等自身の工夫と判断とに基きしものなり。彼等の内情惻なる者は埃及大臣に英兵駐屯の意味を諷して、暗に其專横を戒むるを得たり。されど其最も成功せし者は、背後の後援を頼とせず、専ら自己の識見と平腕とに依りて事に磨りし人々なりしは首ふまでもなし。

英人官吏の位置を一層精細に論ずるに當り、埃及軍隊の英國將校を英人官吏の一部と看做して、先づ彼等に就きて一言せん。彼等は多大の困難と奮闘する必要あれども、其位置が文官と異り名と實と全く相副へることは、文官に比して非常なる幸福と云はざるべからず。即ち我英國の將軍がサーゲイの職に就きて國內の全軍隊を指揮することは、埃及政府も一般公衆も共に認むる所にして、軍務省並に軍隊の高級將校の大多數も亦英人なるが故に、サーゲイを中心とせる我將校の團體は、其計畫を常に形式に於て實行するに止らずして、能く其精神を貫徹するを得、同時に政治上の風向に因りて帆の形を變ずる必要もなきなり。

英人文官の位置は大に其趣を異にし、最も地位高き者の内にも、單に助言を與へ得るのみにて、毫も執行の權能を有せざる者あり。而して彼等の助言の採用を強制する制度として、別に之なきを以て、如何なる名案も必ずしも其實施を期するを得ず。恃む所は、斯かる助言が常に拒絶せらるゝに於ては、之に對する英國政府の不機嫌が適當なる方法に出りて表さるゝに至るべしと謂ふに在るのみ。其他執行の職權を有する文官と雖、其職權の實際に於て有効なるを確信し得る者甚だ稀なり。即ち彼等は其部下として英人を有すること甚だ拙きが故に、常に自己の精神の貫徹を期し難きのみならず、命令の表面上の意義すらも果して能く實行せらるゝや否や疑念なき能はざるなり。事情斯くの如くなるが故に、英人官吏は自から臨機應變主義とならざるを得ず。實に彼等の困難とする所は何をなすべきかを決するにあらずして、何時如何なる方法を以て他をして自己と共に之に従事せしむべきかを決するに在り。而して之をなすに當り、彼等は一見之と何等の關係なき事柄を考慮の内に加へざるべからざること屢なり。要するに英人文官は本國政府の外交政策を遵奉すると共に、自己の職務の爲めにも外交的平



腕を揮ふ必要ありき。

埃及に於ける英人とヌムスに於ける佛人とは屬比較せられしことなるが、一八九〇年に於けるリポールの報告を一瞥すれば、佛國が實際上ヌムスを併合せしこと明なり。何となれば佛人官憲は此國の政權を全く其掌中に收め、土人の政權は殆ど其根跡を認めざればなり。今其一般を述べれば、先づ統監は大臣會議の議長にして同時に外務大臣を兼ね、總ての法律は彼の副署を経て初めて有効となる。次に佛人の内閣書記官長は佛國政府の意を承けて一切の政務に與り、ヌムス政府に宛てられたる凡ての文書を受けて、之に對する返書を調製す。而して軍務省が占領軍司令官の掌中に在るを初めとし、總て中央政府の重要なる官職は佛人之を占め、各州知事の傍にも佛人官吏ありて、其政治を監督し且つ警察機關を指揮す。

要すと、是に因りて之を觀れば、ヌムスが佛國の一部なることは佛國內地の各州と實際上殆ど異る所なし。或る教育あるヌムス人はヌムス王の位置を次の如く説明せり。曰く、ヌムス王の權力は極度に制限せられて、今は唯少數の屬官を任命し得るのみ、而も之すら統監又は内閣書記官長統監秘書官を兼ねの同意を要すと。終に佛人のヌムス統治に對する列強の態度を見るに、列強は未だ曾つて之を妨害するの意なかりき。就中英國は常に佛國に好意を表し、率先してヌムス王より得たる特權を拋棄せしかば、伊太利其他の諸國も亦此例に倣へり。

以上述べし所に出りて、佛國がヌムス問題に手を染めし當時の事情と、英人が初めて埃及の政治に觸りし以來の事情とは到底口を同じくして談すべからざること明かなり。

埃及政府に於て最も重要なる位置を占むる英人官吏は財政顧問官なり。先づ此官職の設けられし由來を尋ぬるに、アラビの反亂後、埃及の財政を歐人の監督の下に置かんが爲めに如何なる制度を採るべきかの問題を再考する必要を生じ、其結果として財政顧問官の名の下に英人官吏を任命することとなりしなり。彼



は執行の職權を有せざれど、内閣會議に列するを得、其職務に就ては未だ會つて精確に規定せられしことなけれども、概して謂へば、大蔵大臣の權限に不當の侵害を加へざる範圍に於て、凡ての重大なる財政問題に助言するに在り、尙此位置は斯かる特殊の職能を外にしても、別に甚だ重要なる意味を有す、何となれば彼は凡ての閣議に出席し、一方に於て財政以外の問題に就ても、屢諸大臣を指導し得ると共に、他方に於て大臣仲間の内情を知るの好機會を得、英國總領事をして政府の事情に通曉せしむればなり、加之彼は埃及政府の官吏なるが故に、同一の事を勸告するにも、英國政府を代表する外交官の資格を以てするよりも、一層圓滑に其目的を達し得るなり。

最初の財政顧問官はサー・オークランド・コルビンにして、一八八三年の秋サー・エドガー・ピンセント之に代れり、當時ピンセントの任命に就ては餘に若年ならずやとの疑念を挟みし者もありたれども、彼は忽ちにして此疑を消散せしめ、其最も適任者なることを證明せり、彼は如何なる場合にも能く之に處する途を知り、埃及の財政の最暗黒時代に在りても未だ會つて失望せざりき、彼は屢豫期せざ

る困難に遭遇したれども、常に最後の成功を待み、何等かの方法を案出して政府を破産より救ひ出し、以て財政整理の餘地を作れり、彼は一八八九年十月まで其職に留りて、自ら其苦心の効果を見るを得しが、實に埃及財政の恢復は彼の勞に負ふ所最も多大なりとす、彼の後を承けしはサー・エルウィン・パーマーにして、一八九八年まで在職せり、其後一九〇四年まではサー・エルドン・ゴースト、一九〇七年まではサー・ピンセント・コーベツト、此職に就き、現時はハーレー氏在職中なり、次に司法省に轉じて説明せんに、余が一八八三年九月、埃及に來りし當時は、總を佛國に採れる裁判所の設立せられんとせし時にて、サー・メンソン・マックスウェル檢事長に任命せられたり、然るに彼は幾許もなく其職を辭せしかば有名なる印度の法官サー・レームンド・ウヰスト、其後を繼げり、ウヰストは博學多才の士にて、埃及の爲めに健全なる司法制度を案出するには比類なき適任者なりき、彼は此問題を研究すること僅に數月にして、忽ち消翰なる報告書を作りしが、其内には幾多の貴重なる意見ありて、中には近年其實行を見るに至りしものあり、されど彼は當時の首相サー・パーソンズと意見を異にし、爲め、遂に職を辭して印度に歸れり。



ウエストの印度に歸りしは一八八五年のことにて、英軍の埃及占領以後に在りては最も混沌たる時代なりしかば、英人は比較的不急の事業を暫らく中止して、己が負擔を軽減するの必要ありき。加之當時マーハーパシヤは司法制度の改革者として目せられしと共に、司法省を埃及人の手に委するの利益亦尠からざりしかば、英人はウエストの後任者を推薦せずして、埃及人が如何なる改革を遂げ得べきかを見ることとせり。

此試験の成績は疑もなく全然失敗に終れり。されど英人は輿論の熱するを俟たんが爲め、五年間は不平の聲嘶えざりしに拘らず、何等の干渉を試みざりき。是に於てかマーハーパシヤは自ら安んずる能はずして、白耳義人ラゲレルを検事長に任命せり。ラゲレルは就職後司法部内に於ける多くの弊害を暴露せしが、中にも驚くべきは過去數年間普通の裁判所にては最も重大なる犯罪を悉も取扱はざりしことなりき。而して之に代りて實際の事に腐りしは、匪徒審問委員会と稱するものにて、知事を議長とせる一種の軍法會議なりき。此會議こそ一大伏魔殿にて、凡ゆる悪事は其内に行はれたり。其宣告に依り獄に投せられしもの七八百名、

罪に處せられしもの若干名なりしが、中には冤罪を蒙りて空しく刑に觸れしもの尠からざりき。斯かる事實の摘發せらるゝや、匪徒審問委員会廢止の議起り、幾多の辛辣なる討論の後、遂に其實行を見るに至り、過去の判決の最も疑はしきものは再審に附せられ、囚人の一部は順次に開放せられたり。

此失敗は真に埃及人の特色を暴露せるものにて、埃及の大官が如何に理論に馳せて實際を顧みざるかを説明するものなり。表面上は整然たる司法制度を存しながら、其實何の用をもなさず、犯人として訴へられし者は無智横暴なる知事の意の儘に、屠死刑若くは無期徒刑に處せられたり。

匪徒審問委員会の廢止と共に重大なる犯罪増加せしが、埃及大臣が之に對して適當なる處置を執る能はざること日に益明白となりしかば、埃及政府も己むを得ず英人の法律顧問官を任命することを承諾せり。されど英人にして佛蘭西法に通せるもの甚だ稀なりしかば、適任者を得るは容易のことにあらざりき。幸にしてサー・ロンドン・スコットを得て、茲に初めて健全なる司法制度の設立を見るに至れり。但し彼の任命は埃及の政治社會に一大騷擾を惹起し、リアズ・パシヤが幾許もな



く辭職せしも、一は此任命を歎ばざりしに因るなり。スコットは一八九八年に至りて倫敦に榮轉し、サー・マルコム・マクドナルドに其後を襲へり。

次に工部省は一八八二年までは主として佛人の掌中に在りしが、一八八三年に至りて英人を次官に任命し、且つ運河の改修を指導せしめんが爲め、印度より英人技師の一團を招致せり。次官としては最初サー・コリン・スコット・マクドナルドに就きしが、其人選は誠に宜しきを得たるものにて、彼は此専門の技能に於て秀でたるのみならず、其人格も亦實に玲瓏玉の如かりき。されば最も偏狭なるバシヤと雖、猶彼を尊敬し、最も下劣なる新聞記者と雖、彼に對しては其毒舌を弄することを躊躇せり。實に初期の英人官吏にして彼の如く英人の聲價を高めしものなかりき。序に一言すれば彼はスコットランドの北部の産にして、此地方の人は其貴重なる資質に依り外國に成功するもの掛からず。

サー・コリン・スコット・マクドナルドは一八九二年に其職を辭し、サー・ウ・リア・ガ・ムア、其後を承けしが、彼も亦若だ尊重すべき人にて、其賢明なる指導の下に多大の金額は種々有益なる工事に使用せられたり。惟ふに埃及國民の彼に負ふ所

は、如何なる計辭を以て没すも、決して誇大に失することなかるべし。

次に大藏次官も亦重要なる位置を占め、行政官たると同時に、財政顧問官の不在中は其任務を兼攝す。初め此位置はブル・マ・バシヤと稱する聰明なる埃地利人の占むる所たりしが、彼はイスマイル・パシャ時代の腐敗せる政府に仕へし時にも、未だ嘗つて其誠實を疑はれざりし人なりき。加之彼は最も有爲なる官吏にして、英人の埃及占領後も誠意を以て英人と協力せり。一八八九年、彼其職を退くや、有名な英人中屈指の人才にて、曾に一省の事務に精通せしのみならず、能く埃及經營の大局に通じたり。一八九二年、彼が本國に榮轉するや、從來外交の方面に勤務せしサー・エルドン・ゴースト、其後を紹介し、ゴーストは嘗つて其閑散の日を利用して亞刺比亞語を學びしが、元來智能の卓越せる人なれば幾許もなく自ら亞刺比亞語を以て用を辨し得るに至れり。一八九四年、彼が内務省顧問官に轉じて後、大藏次官の椅子は已に二三四其主人を代へたれども、其人選には常に嚴密なる注意を拂はれたり。



大蔵省に附屬する三局ありて、關稅、燈臺、郵便の事務を取扱ふ。右の内前二者は英人の監督の下に在り、後者は初め英人其總裁となりて之を改革せしが、後レソア人キャバレン、其職を襲へり、彼は稀に見る適任者にて、種々の有益なる大改革を斷行せり。

警察機關は一八九四年まで警視總監英人の指揮に屬し、少數の英人其幕僚たりしが、同年秋に至りて其組織を變更し、警視總監の職を廢して新に内務省顧問官を置き、サーエルドンゴーストを以て之に任命せり。一八九八年、ゴースト此職を辭し、マナエル氏其後を襲ふに及び、其職務も少しく變更せられたり。此外衛生局長並に司獄長も亦英人を任命するを常とす。

文部省のみは常に埃及人の掌中に在りしが、一九〇六年に至りて、英人の顧問官(ダンロップ氏)を任命せり、尙學校長としては多數の歐人奉職す。

以上述べ來りし所は凡て最高級の官吏のみなりしが、以下埃及に奉職せる英人の總數に就きて少しく述ぶる所あらん。此事は屢、誇張して世に傳へられ、殊に官吏志望の埃及人は常に歐人の就官を嫉視する傾向あるを以て、茲に説明を加ふ

る必要あり。

抑、埃及の政治機關を運轉するに、歐人の助力を借らざるべからざるは、萬人の認むる事實にして、埃及人自身と雖、之を否定し得ざる所なるが、其如何なる程度まで歐人の力に依るべきかを規定するに際して、茲に意見の相違を生ずるなり。一方の論者は曰く、政務の効果の舉り難きは、歐人官吏の不足に由る。殊に大多數の無言なる埃及人は唯善政を喜ぶのみにて、其何人に依りて支配せらるゝかは、彼等の多く問ふ所にあらざれば、現在は何論將來も永く、多くの歐人を僱用する必要あるべしと、之に對する論者は曰く、埃及人は假令多少の不便ありとも、寧ろ其同胞の治下に立つを好むものなり、且つ夫れ一方に於て教育の普及を圖りながら、他方に於て是等教育ある人士に對して昇進の途を塞ぐは矛盾の甚しきものにあらざるや、加之埃及人は自ら治むることを練習する機會を得ざれば、竟に永久自治の國民たる能はざるべし。假令多少の失敗あるも、これ唯一時のことにて、經驗を積むと共に好成績を擧ぐるを得ん。されば一時の不成功は暫らく之を忍びて、歐人の定員に大削減を加へざるべからずと。



以上兩派の説く所は共に頗る値するものあれども、斯かる抽象的の議論に耽るは、さのみ有益のことにあらず、實地の必要より謂へば、兩者を適當に調和するを以て最良の策とすべし、夫れ歐洲文明の輸入に膺るべき埃及人は自ら歐洲文明の真髓に觸れ、且つ歐洲の政治を適用するに必要なる識見を有する者たざるべからず、若し此種の埃及人にして多く見出すを得ば、固より歐人を僱用する必要なければ、今日に在りては、其だ其人に乏しきを如何せん。

一八八二年以來英人が斷えず馳り來りし政策は、努めて歐人官吏の數を制限し、同時に下級に於ては、甚だ多く高級に於ても、扱からざる埃及人官吏を任命し、將來益、多くの高級埃及人官吏を得る案地を作るに在りき、而して實際に於ても主要なる英人官吏は凡て皆この方針に據りて事に應れり、固より彼等の内には、其部下に屬する埃及人を訓練する點に於て、充分なる成功を見ざりし者もあらん、中には又歐人に代りて其位置を占むべき埃及人に對して、過度の要求をなせし者もなきにあらざるべし、されど彼等は此政策に就きては、秋毫の異存もなかりしかば、一の空位に對して埃及人の適任者を發見せる場合には、喜んで之を任命せり。

一部の人士は往々此政策の實行に疑を挟みて曰く、有爲の埃及人が容易く見出され得るに拘らず、幾多の位置は依然歐人に依りて占めらるゝにあらずやと、余は此説の全然根據なきを斷言せざるべきも、斯かる言辭が人をして事の真相を誤解せしむるは疑を容れざる所なり、余は歐人官吏の辭職と共に直ちに埃及人を以て之に代へ得べき場合の稀に存するを疑はざれども、而も最も多くの場合に於て歐人官吏が其位置を去らざる所以は、埃及人に其人なきを以てなり、人若し埃及最近の歴史と現今の事態とを冷静且つ公平に考察せば、余の言の謬妄にあらざるを知るべし。

歐人の埃及に必要なるに就きては二種の理由あり、其第一は、埃及人が最近に至るまで修得する機會を得ざりし専門的智識を以て此國に貸献することにて、第二は、引き續ける悪政の爲めに生じたる埃及人の缺點を矯むるに在り。

官吏の數より謂へば、第一の目的に従事せる者甚だ多く、従つて其事業も殊に顯著なり、惟ふに過去十五年乃至廿年間に於ける埃及の物質的方面の發達は恐ら



くは歴史上比類なきものなるべし。されど此急激なる繁榮は此國に取りて決して純粹なる祝福にあらざりき。蓋し富の急激なる増加は其使用に關する智識の發達を伴ふにあらざれば必ずしも望まじきことにあらざればなり。

兎に角國民が以前の貧困より俄に富有となりしことは歐人官吏に代ふるに埃及人を以てする政策の遂行を著しく妨礙せり。何となれば一般の繁榮の俄然として到るや、各種の専門智識を有せる歐人を要求する處到る所に高まりたればなり。即ち幾多の法律問題、歐人を知り歐洲の法律に明なる法律家を要求し、灌漑事業は治水の技師を要求し、病院の増設と衛生の發達とは醫師を要求し、其他獸醫測量師、機械技師等、種々の専門家も皆其需用を激増せり。斯かる事態の俄に起り來るべきは數年前に於て已に多少豫想せられたれど、之に對する準備は殆ど皆無なりき。實に英人官吏は占領後少くとも六年間は破産に對する奮闘、メニューンに於ける煩累の交際、並に資本を集めて灌漑に大改良を施すこと等の爲めに始と他を顧る逸なかりしなり。

埃及人に専門的智識を授くるには、主として學校教育に依らざるべからざるこ

と勿論なるが、近年財政の基礎鞏固となり、諸般の政務其緒に就くと共に、教育の事業も其發達甚だ顯著なるものあり。惟ふに主として専門的智識を要する官職に在りては、將來漸次歐人に代ふるに埃及人を以てするを得べし。されど急に之を實行せんとせば必ず失敗に終るべく、而して其反動の爲めに苦む者は埃及人自身なるべし。

余は曩に専門的智識の故を以て僱聘せらるゝ歐人以外に、埃及人の缺點の矯正者として盡力すべき歐人を要する旨を述べたり。此種の歐人は比較的少數にして、大抵皆専門的技能の士よりも一層重要なる位置を占むる人々なり。而して是等の位置を占むべき埃及人を作り出すは、單に一藝一能の士を作るに比して甚だ困難なるが故に、英人に代ふるに埃及人を以てする政策も、此方面に在りては近き將來に於て之を實現するを得ざるべし。夫れ國民の品位は急速に變化するものにあらず。殊に學校に於て與へ得る薰陶は品性の改善と發展とに資する一要素たるに止まるのみ。されば英人は不撓不屈の精神を以て、彼等の凡ゆる智的並に道徳的性質の發達を獎勵し、漸次に其人格を向上せしむるに努めざるべか



らず、今政治上の立場より見て、最も匡正を要すべしと思はるゝ二三の缺點を彫ぐれば、責任の忌避、思慮と確信との缺乏、思想と行動との極端に走り易きこと等なり。

終に臨みて、埃及政府に奉職せる歐人と埃及人との数の過去十年間に於ける變化を示せば次の如し(但し武官を除く)。

	一八九六年	一九〇六年
埃及人	八、四四四	一、二〇二七
歐洲人	六九〇	一、二五二

是に由りて觀れば、十年間に増加せし官吏の数は、埃及人三千五百八十三人、歐人五百六十二人にして、後者の増加比較的多きが如くなれども、其内三百三人は鐵道事務に執掌せる者なるを知らざるべからず、云ふまでもなく鐵道の管理其宜しきを得ざれば、曾に旅客をして不便を感せしむるのみならず、往々其生命を危うするが故に、此方面に於て殆ど無經驗なる埃及人を採用せざりしは誠に已むを得ざりしなり、此事實を考慮に加へて前表を觀れば、歐人の採用が出来る限り

制限せられしことを推知するに難からざるべし、將來に於ても稀には歐人官吏の増員を要する事あらんも、斯かる場合には他の方面に於てこれ以上の比例を以て埃及人官吏の増加を見るべきなり、殊に教育就中専門教育の長足の進歩は英人の政策を一層容易に實現し得べき希望を生せしめたり、而して此政策の實現を妨ぐるに與つて力ありし財政上の困難も、亦英佛協約の調印後大に輕減せられしは喜ぶべきことと謂ふべし。

最後に附言すべき一事あり、即ち印度若くは埃及に於ては、小数の能吏を選びて之に充分なる俸給を與へざるべからざることは是なり、治績を擧ぐるの途は一に適材を得るに在り、薄給を以て二流三流の歐人を聘するは不得策の甚しきものにて、彼等の内には政治に貢獻するよりも寧ろ之を害する者多しとせず、輿論は概して多額の俸給を非難すれども、此點に就きては東方に於ける歐人政治家は徒に外界の批評に動かされずして、己が所信を斷行するを可とす、即ち眞に有爲にして信任すべき人物を得んが爲めには、規定外の報酬を給するも決して吝むに足らざるなり。



### 第四十一章 列國協同政治

列國協同主義——(一)國債整理委員會——(二)委員會の機能——埃及政府の財政——設立資金——委員會の不必要——(三)鐵道經營——(四)ドイツの經營——(五)アメリカの經營。

超然國家主義に對する四海同胞主義は理論家の夢想にして、經世家は常に之を一笑に附し來れり、詩人カンマングの如きも是等の空想家を嘲りて、萬國を友として而も自國を顧ずと謂ひしが、此語近年殊に人口に膾炙するに至れり、願れば方今運輸交通の便日に開け、貿易も亦年々盛大となりたれど、之が爲めに列國間の親睦を増したる事實を認めざるのみならず、寧ろ其競争が一層激甚となりしやの觀あり、されど事情斯くの如くなるに拘らず、列國が協同して種々の問題を處理せんとする傾向の漸く著しきに至りしは、爭ふべからざる事實にして、以下之に就て少しく説明を試みむ、最近交通機關の發達と共に世界の何れの部分の出來事も直ちに到る所に報告せられ、其事の自國に及ぼす影響如何之に對して自國の利益を保護せんが爲りに執るべき手段如何等の事は、常に大臣室に於け

る問題たるのみならず、各新聞社の事務室に於ける問題となれるが如き狀況にて、從つて歐洲の政治團體は前よりも一層神經過敏となるに至れり、加之現時に在りては國際間の不和を調停すると困難にして、一朝事變の紛糾を見んか、偶然の瑣事より結果の豫測し難き世界の火亂を惹起するに至るなきを保せず、されば列國の事變を恐るゝと殊に甚しく、一小邦の行動と雖斯かる禍亂を煽發せしむべき原因たる虞ある時は、忽ちにして幾分國際的競争の聲を鎮め、其火種の未だ熾ならざるに當り、歐洲の各國より外交上の蒸氣哨筒を茲に集中するを常とす、斯くて歐洲列國の團結力は必要に逼られて、茲に幾分の發達を見、凡て重大なる事件に際しては協同して平和を保證し、歐羅巴てふ一大家族の全體の利益の爲めに多少一國の利害を犠牲に供せしむることあるに至れり。

列國協同主義は常に最も重要な事件に際し、數國を聯合せしめて協同的若くは之に準ずる行動を執らしめたるのみならず、不完全なる主權の所有者の下に在る半開國に對しても、大に其發展の餘地を見せり、即ち斯かる邦國に於て歐洲の一國が其競争國の嫉妬心を惹起せざる程度に於て自國の利益を保護せん



と欲し、他の諸國も亦自己の利害を閑却せざらんが爲め其仲間人をなさんとす  
 る場合には、是等諸國が協同して此半開國の政治を監督するに至るなり。此際列  
 國の云ふ所を聞かば、必ずや次の如くなるべし。曰く、我等は根本の方針に於て其  
 意見を一にす。今後決定すべきは唯地方の事情に基く細目のみ。されば我等をし  
 て各代表者を選び、公平に各自の利益を保護する手段を探らしめよと。これ一見  
 甚だ名案にして、公平を保ち軋轡を避くる最良の手段たるに似たり。  
 されど茲に困難なるは諸國の問題を問題其者の爲めに考究するが如き公平な  
 る列國の代表者を如何にして見出し得べきかに在り。一見すれば非協同的精神  
 が四海同胞主義により、大に壓伏せられたるが如き觀ある場合にも、實は決して  
 然らずして、各國の代表者の胸中には依然著しき排他思想の横溢せるを常とす。  
 惟ふに古來列國協同政治の最も著しき程度に於て試みられしは、近代の埃及に  
 若くものなかるべく、之が爲めに埃及の受けたる損失は殆ど測るべからざるも  
 のあり。即ち埃及に於ける經驗に據れば、此制度は著しき消極的傾向を有し、如何  
 なる事業の提議せらるゝ場合にも、列國の代表者中に必ず何等かの反對起り、結

局凡ゆる活動を妨げずんば已まざるなり。其斯かる結果を生ずる重なる理由は、  
 種々の事業の遂行が屬關係列國の一部のみを利用して他を利せざるに在り。蓋し  
 斯かる場合に協同列國が實際に於て最も屬採用する方針は、善事の行はれて競  
 争國の利益を進め名譽を高めんよりも、寧ろ惡結果を生じて何事もなされざる  
 を可とすと謂ふに在ればなり。斯くの如きは理論家の嘲笑する所なれど、而も争  
 ふべからざる事實なるを如何せん。要するに列國協同主義は何等の活動なき無  
 能力なる政治機關を産み出すものと謂ふも敢て過言にあらざるべし。

第一 國債整理委員會

國債整理委員會は初め英佛埃伊四國の代表者を以て成立せしが、一八八五年獨  
 露二國の代表者を加へて合計六人となれり。今一九〇四年に至るまでの委員の  
 權能を略述せん。

是等委員の職務は國債償還に充つべき歳入の徵收に腐れる官吏より、其集め得  
 たる金額を受領し、且つ是等の官吏より種々必要なる事項を聞き取りて、最も適



切なる財政上の處分をなすに在り、而して委員は其部下の雇を任免する権利と、新國債の募集を拒絶する権利とを有し、尙最も重要な権利として、國債償還法の侵害せられたる場合に公債所有者を代表して、埃及政府を混合裁判所に訴ふるを得たり。

是に由りて觀れば、委員は可なり廣大なる權力を有せしものと謂はざるべからず、されど委員の有する是等の権利は、英兵の埃及占領後は埃及政府を苦むることと左程著しからざりき、元來是等は埃及國庫の破産を防がんが爲め委員に賦與せられたる権利なるが、英軍の埃及占領以來初め數年間を除けば、國庫は常に充分なる支拂能力を有したれば、委員の方より破産を防ぐ手段を講ずる必要なかりしなり、然るに埃及政府は他の理由に由り財政上の干渉を受け、多大の不便を感じたり、これ即ち委員の權能に關係せる事なれば、以下此事情を叙述せん。

一八八四年の倫敦會議に於て、佛國は他の數國の援助を得て英國を敵視し、且つ殆ど公債所有者の利害のみを眼中に置き、埃及政府の支出に嚴重なる制限を設けんとせり、然るに當時英國の財政當局者は埃及政府が過去の浪費に因りて

苦みしことのみを見て他を慮らざりしかば、英國も亦佛國其他に同意して顧みざりき、即ち我當局者は當時の埃及政府の支出が過去に於けると全く其事情を異にすることを忘れたるものにて、彼等にして若し時勢を見るの明あらば、埃及政府の英人顧問官にはイスマイル・パシャに與へしよりも一層自由なる活動の餘地を與へしなるべし、されど此種の議論には耳を假す者なかりしかば、埃及政府は幸うして百萬磅を灌漑工事に支出するを許されしのみにて、其以上を得んとせば佛人の信用を害し、同時に英國大蔵省の先入見に牴觸するを免れざりき、實に當時の大蔵省は爾來埃及に奉職する我同胞に多大の煩累を殘して顧みざりし者と云はざるべからず。

茲に一八七六年に發したるケズ、アの命令は某々の歳入を國債の整理に充て、他の歳入を政費として埃及政府の使用に充つべきを規定せしが、今や一八八五年に歐洲諸國の保證の下に九百萬磅の公債を發行するに當り、此二種の歳入に就きて再考を要することとなり、結局第一種に屬すべき歳入を増加し、從て第二種に屬すべき歳入を比較的減少し、且つ政費の年額を確定せり、但し苦心の末續に



獲得せる唯一の例外は鐵道經營の費用のみが鐵道の總收入の四割五分まで増加し得べきことなりき。尙第二種の歳入が一般政費として確定せる金額に達せざる時は、その不足額は第一種の歳入より流用し、確定せる政費以外に一定の經費を要する場合には、之が爲めに先づ其倍額以上の歳入増加を圖らざるべからざる規定なりき。然るに國運の發展と共に新なる支出を要すること甚だ多かりしかば、一方に於て何人にも適當なる利益を與へざる多額の遊金を積みながら、政府は常に政費の不足に苦みたり。

埃及政府の歳入中より其自由に使用し得べき眞の剩餘金の確定せらるゝに至るまでの事情は、甚だ複雑なるを以て、今は之を詳説するを止め、唯此制度の下に得られたる結果の一例として、一八九二年の計算を引用せん。

一八九二年に於ける政府の歳入は一千〇三十六萬四千埃及磅に達し、歳出は九百五十九萬五千埃及磅なりき。されば此國の財政を知らざる者は政府の使用し得べき剩餘金は兩金額の差即ち七十六萬九千埃及磅に達せりとなさんも、其實此剩餘金は列國の設けたる財政上の迷路を迂迴せる後、僅に十七萬九千埃及磅

となりて、國庫に歸り來れり。これ實に列國協同政治の結果の好例にわらずや。委員の手に殘存する金額は國債の償却に用ふる筈なりしが、我守備兵の若埃後數年間はその餘金を見ざりしを以て、此規定は實際上不必要なりき。後財政の漸く整頓するに及び、サー・エドワード・ギンセントは、一案を提出して各年度の剩餘額を積立金となし、其二百萬埃及磅に達するを俟ちて國債の償却を開始せんとせり。彼は是に由りて多額の資金を國庫に藏し、以て豫測し難き事變に備へんと欲せしなり。

此名案は各國の承認を経て、一八八八年七月十二日、ケアンズの命令となりて現れしが、其第三條に於て此積立金の費途を規定せる内に、國債整理委員會の承諾を経て臨時の費途に充つるを得べしとありしは、後に至りて甚だ重大なる意義を有することゝなれり。即ち積立金の増加と共に、政府は之を借入れて種々有益なる事業を起さんとせしが、豫め委員會の承諾を要せし爲め意の如くならざること多かりき。

以上は國債整理委員會に關する説明なるが、イヌマール・パンツ時代に在りては此



制度は幾多の缺點ありしに拘らず、一個の重要な機關たりしも、英兵の埃及占領以來は年と共に無用の長物と化し去れり、通常國債課の事務は一人の官吏と數人の書記とを以て其用を辨じて餘ある次第なるに、埃及國庫が此委員會の爲めに年々約四萬埃及磅を支出せざるべからざるは甚しき冗費と謂ふべし。茲に一言注意し置くべきは、此制度を非難すると共に其委員を一概に非難するの不可なることなり、彼等の内には聰明にして手腕あり、且つ公平なる精神を以て其職務に盡瘁せし者甚しとせず、加之彼等は現に埃及に住し多少國內の事情に通せしが故に、遠隔の地に在りて單に外交上の見地より考察する政治家よりも一層適切なる判断を下し易かりき、従つて埃及官憲は列國と直接交渉するよりも、寧ろ是等の委員と交渉するを好みたり、されど同時に言はざるべからざるは、委員會が種々の事業に協力したるに拘らず、此制度が結局改革の事業を進捗せしむる爲めに有害無益なりし事なり、即ち此制度の實際の職能を露骨に批評すれば、單に埃及の進歩を妨碍する事と、時々英國に對する敵意を表示する事とに外ならずりき、抑、一の制度が之を惹起せし事情の経過せるに拘らず、殘存する

は古來此例に乏しからざることにて、之が結果は尊敬すべき人が其局に廣るに拘らず、有害なる作用をなすに至るなり。

一九〇四年に至りて、國債整理委員會の權能は列國の同意を得て根本的に變更せられたり、一言にして盡せば、委員會は今や行政に干渉するの權なく、公債所有者の單純なる代理者たるに過ぎざることゝなれり。

一九一二年に至らば、埃及政府は國債の全部を借換ふる自由を有するが故に、若し其實行を見れば、委員會は全く消滅するに至るべし。

## 第二 鐵道經營

一八七六年十一月十八日に發布せられしケプティアの命令に依り、鐵道電氣並にアレキサンドリア港の經營に屬すべき一廳を置かる、關稅の變更も本廳の取扱に屬す、但し埃及政府の許可を要す、其首腦は初め英人三名、佛人一名、埃及人二名を以て組織せしが、後英埃兩國人も亦各一名に減せられたり、而して右の英佛兩國人は各、本國政府の推薦に由りて任命せらるゝものとす、此外廳内の官吏、雇等



は應自ら之を任命し、唯高級官吏のみは應の推薦に基きてケアーンズ之を任命す、一八八七年、マリントン大佐とファウー卿とは埃及鐵道の視察を命せられしが、是等の賢明なる英人が鐵道應の組織に就きて下せし批評は次の如し。

「埃及鐵道應の制度は余等の知れる各國の制度と著しき相違ありて、三人の首腦の職權は規定上別に何等の分擔なく、従つて何事にも責任は一人の頭上に歸する事なし、斯かる制度は鐵道の如き營利的事業には殊に有害なること疑を容れず、されば苟くも應内の規律を保ち、鐵道の効力を充分ならしめんとせば、他の諸國に於ける總裁の如き者を置き、其各部を統一せしめざるべからず」と。

鐵道事業が一人の指揮に屬する必要あるは明白なる事實なれども、列國協同主義は天然が真空を嫌ふが如く、一人にて事をなさしむるを嫌ひ、何事にも必ず數人をして之に膺らしむるなり。

列國協同政治は之よりも一層合理的なる政治組織の下に得らるゝが如き結果を見る能はされど、時には偶然の事情に因り相當の成績を挙げ、人をして誤つて七別支を稱賛せしむることなきにあらず、埃及の鐵道經營は正しく此一例にし

て英人が埃及の政治機關に對して與へたる一般の改革と、之に伴ふ國內の繁榮とに因り能く長足の進歩をなしたれど、若し英人をして初めより自由に其經營に膺らしめば、其結果は一層顯著なりしならん。

茲に述べたる一九〇四年の協商の結果は右の如き不便を一掃し、爾來埃及政府は其鐵道經營に關して、毫も列國の掣肘を受けざるに至れり。

英佛協約は恰も埃及鐵道經營の危機に際して締結せられしものにして、内情に通せざる者は或は充分之を認め得ざりしならん、當時此協約に依りて鐵道の發達と改良とに多額の經費を支出せしにあらざるは國內の運輸交通は到底國運の發達に伴ふを得ず、従つて是より生ずる埃及の損害は殆ど測るべからざるものありしならん。

一九〇五年の暮、サーチャールズスコッギー、埃及に來りて鐵道の狀況を觀察し、之に就きて詳細なる報告をなせしが、彼の意見は今や著々實行せられ、鐵道經營は將に其面目を一新せんとする機運に達せり、茲に敷設費として三百萬鎊を支出することとなりしが、其内百六十三萬五千鎊は一九〇六年の終までに使用せられ



たり、而して此事業を完成せんが爲めには更に約百萬磅を要すべく、斯くして鐵道事業は遂からず整然たる秩序を備ふるに至るべし。

余の古き報告書を検すれば、一八九〇年に於ける埃及の鐵道は四百七十萬の旅客と百六十八萬三千噸の貨物とを輸送せしのみなりしに、一九〇六年には二千二百五十五萬の旅客と二千〇〇三萬六千噸の貨物とを輸送するに至れり。これ實に過去數年間に於て、國內の物質的發達が如何に激甚なりしかを證明するものにあらずや、尙旅客並に貨物の激増せし結果、其運賃も亦著しく低減するを得たり。

國有鐵道の外に農業會社の私有に屬する鐵道ありて、其延長總計千百四十五キロメートルあり、是等の鐵道も亦公衆に多大の便宜を與へ、一九〇六年の乗客は六百九十萬四千にして、其輸送せし貨物は九十二萬九千噸に達せり。

### 第三 メイク經營

メイク料地はイヌメール・パンヤが不法にして専横ある手段を以て其掌中に收め

たる所有地の一部をなすものにして、其面積は初め五十萬ユーカー以上に達したり。イヌメールが財政上の困難に陥るや、彼は此土地を擔保として九百五十萬磅の公債を起し、同時に之を經營する一局を設け、埃及人を總裁とし、英佛兩國人一名づゝを監査官とせり。是等の監査官は右の公債所有者の法定代理者にして、土地の經營に關し強大なる監督權を有せり。

一八九一年までは此經營は常に收支償はずして、屢二十萬磅以上の缺損を見ることありしが、一八九〇年以後は、一八九五年に十萬〇二千磅の缺損ありしのみにて、其他の年には常に剩餘を生じ、殊に一九〇四年並に一九〇五年には八十一萬七千磅以上の剩餘を生じたり。

一八九八年の協約に由り、メイク料地は一會社に賣却せられ、會社は之を小分して轉賣せしが、其大部分は埃及人の手に歸せり、而して清算に際し政府の受けし金額は三百二十八萬磅に達したり。

### 第四 ドメーン經營



ドメーンとして世上に知られたる土地は、一八七八年、イスマーエル・パシャがロスチャイルド家より八百五十萬磅を借入るゝに當り擔保として提供せしものにて、其經營は英佛埃の三國人各一名を以て組織せる委員に一任せられたり、一八九九年までは收支常に償はず、殊に一八八五年の如きは缺損額二十七萬五千磅に達せしが、一九〇〇年以後は年々剩餘を生じ、其額少きは二萬六千磅より、多きは十五萬磅に達せり、土地の面積は最初四十二萬六千エーカーなりしが、漸次之を賣却せし爲め、一九〇六年には約十四萬七千エーカーに減じ、之と同時に公債も最初の八百五十萬磅より百三十一萬六千磅に減じたり、而して此公債の全部が償却せられて、土地の一部が全く政府の用に供せられ得るの日は決して遠きにあらざるべし、イスマーエル・パシャが埃及最良の土地百萬エーカーを、自己並に其家族の掌中に收めたる結果も、今やメイク並にドメーンの土地の賣却に依りて殆ど其根柢を留めざらんとす。

以上の諸制度を知るは、英人官吏の行動の自由が如何なる程度まで壓附せられしかを了解するに缺くべからざることなり、尙進んで奇怪なる埃及の司法制度を検すれば、英人の占めたる位置の變則なることは益々明白となるべし、從來述べ來りし諸制度は今や殆ど埃及政府を苦めざるに墮りしも、司法制度のみは今も尙嚴存して依然改革を妨げつゝあるなり。



### 第四十二章 司法制度

混合裁判所—その設立に對するモローパルバシヤの目的—混合裁判所の職能と組織—制度の缺點—領事裁判所—本國人裁判所とケニア裁判所—司法制度の概観

列國協同裁判所即ち混合裁判所の創設に就きて、モローパルバシヤは二種の目的を懷抱せり。第一に、彼はサイド並にイスマーイルの治世中國内に横行せし山師的歐人が、埃及人の爲めに自己の權利を侵害せられたりとて、之を外交上の問題となし、埃及國庫に多大の損失を興へたるを見て、其弊害を避けんが爲めに、歐人と埃及政府若くは埃及人民との間に起れる民事上の訴訟を取扱ふ裁判所の必要を認めたり。第二に、彼は、イスマーイル・パシヤには之を秘したれども、ケニア、ソープの貪欲なる壓制に對して人民に法律上の保障を興へんが爲めに、埃及に住する者を悉く此裁判所の管轄に屬せしめんとせり。此第二の目的はコンスタンチノールよりの強硬なる反對に因りて水泡に歸せしが、これ事る喜ぶべきことにて、若し

彼の意見にして採用せられたらんに、國內せ司法制度を擧げて列國協同主義の犠牲に供のしなるべし。モローパルバシヤの第一の計畫は明かに成功せり。即ち一八七五年以後埃及政府若くは其人民に要求を有する歐人は、埃及政府と本國政府の代表者と共に依りて指定せられたる裁判所に行きて、其權利を主張する事となれり。斯くて歐人は法典に據りて、自己の要求が如何なる程度の満足を得べきかを豫想するを得、埃及政府は、個人の爲めに無法なる外交上の強迫を蒙る事を免れ、且つ屬外人の貪欲を防ぐに、必要なる法律を制定するを得たり。而して列國の外交家は、此制度に依りて、かの不道徳にして法律上の論議も曖昧なる要求を擁護するが如き義務を免れたり。イスマーイル・パシヤは此制度の重大なる意義を解せずして之を認可せしものゝ如くなりしが、彼は遂に此制度の爲めに其政治的生命を失ふに至れり。即ち歐洲諸國の協同の下に成れる此裁判所が、彼に命ずるに一定の金額の支拂を以てせし時、彼は之を履行する能はざりしかば、列國は表面上其不法を鳴らし、政界上將來



の結果を恐れ彼に告ぐるに、債務を履行する能はざれば其位を去るべきを以てせり。此際彼は少しく反抗を試みたれども、固より何の甲斐もなかりき。

混合裁判所は三個の始審裁判所と一個の控訴院とより成り、前者はカイロ、アレキサンドリア、マンシュークの三市にありて、後者はアレキサンドリアにあり、是等の裁判所には埃及人判事も奉職すれども、其實權は歐人の掌中に在ること勿論なり。控訴院の歐人判事の大部は強國の臣民中より擇ばれ、始審裁判所の判事は各國民中より平等に任命せらる。而して其人選は名義上埃及政府の任務となり居れど、實は最近に至るまで全く各國の政府に依りてなされたり。尙是等の裁判所の管轄範圍は歐人に關係ある一切の民事訴訟にして、歐人の埃及人に對する訴訟の外、埃及人の歐人に對する訴訟並に歐人間の訴訟をも取扱ふなり。混合裁判所の弊害の重大なるものは、判事が法律の適用者たると共に其制定者たることなり。即ち彼等は自己の權能に多少無理なる解釋を下して、自ら立法の權内に立入ること屢なるが、斯かる場合には之を制止すべき何等の機關なきなり。されどこれ必ずしも彼等の罪にあらざして、東の制度の缺陷に歸せざるべからず。

之を制度の上より觀れば、彼等が新法律を得る爲めには各國の承諾を経ざるべからざる規定なるが、經驗に徴すれば、之が爲めには多大の手續と時日とを要し、而も多くの場合に於て、竟に其目的を達せざるを常とせり。實に外交に依る立法は世界に於ける最惡の立法と謂ふを妨げず、斯かる事情の下に彼等が實際上自ら立法者たりしは自然の傾向にして、時には殆ど已むを得ざりしなり。

印度の法典の編纂せらるゝに當りては、有數の識者其任に膺り、詳に其國の事情を調査し、遂に實質上歐洲の法律より全く獨立なる大法典を完成せり。然るに埃及に於ては全く事情を異にし、最初は殆ど佛蘭西法典を其借り來りしものにて、之を適用する法官も、中には平腕家もありたれども、埃及人の風俗習慣に就きては殆ど知る所なかりき。されば之が爲めに埃及人の蒙りし損失は測るべからざるものありて、債權債務の關係に就きては其弊害に著しく、無智の埃及人はレバント人の爲めに不知不識の法律の係縛中に陥れらるゝを常とせり。法律並に手續が後に至りて多少の變更を見たるは喜ぶべきことなれども、今猶餘りに歐羅巴的なるを免れざるなり。







之を避く。

過去に於ける埃及の社會を觀るに、人は皆不謹慎なる手段を以て自己の目的を達せんとし、不眞實と陰謀とは到る處に行はれ、所謂新空氣を呼吸せし者も、多くは歐洲文明の暗黒面の感化を受けたる人物に過ぎざりき。されば余は英國政府の代表者の最も重大なる義務は、自ら公私の生涯に於ける道徳の標準を高尙にし、因つて以て其周圍を化するに在りと信じたり。余にして若し幾分にも埃及人の道徳を高め、彼等をして虚言と陰謀との避けざるべからざる所以を悟らしめ得たりとせば、これ畢竟高潔なる英人官吏の協力と、余をして此著述を思立たしめたる彼女の柔和にして而も強大なる感化とに因りしものにして、前者は政治上に於て、後者は社交上に於て、共に余の事業を助くること頗る大なりき。

次に政治上の職務の詳細を述ぶるに當り先づ一言すべきは、余の埃及在動中、本國政府が一定の政策を有せず、殊に或る時期の間は斷えず二個の矛盾せる希望を懷抱せし一事なり。即ち政府は一方に於て改革の完成を欲し、他方に於て兼兵の斷行を望みつゝ、ありき。これ主として當時の事情が首尾一貫せる方針の採用

を妨げしに因るものなれば、余は之を以て政府を責めんとはせざりしも、而も身は極力本國政府の政策を遂行すべき外交官なりしが故に、往々之が爲めに鬱かちざる困難を感じたり。

余は在動中一回も余の任務に關する一般的訓示を受けざりしが、余も亦之を請求せず、専ら個々の場合に應じて其宜しきを得ん事を努めたり。されば余は時には埃及人を刺激して改革を斷行せしめ、時には英人を檢束して時機を俟たしむる必要を見たり。余は又時としては時勢後れの回教徒に、七世紀と十九世紀とに於ける統治の原理の變遷を説くと共に、時としては若き歐化埃及人に對して、極端なる共和政治は埃及の社會に適用すべきものにあらす、所謂人權を論ずるに當りても、新聞紙に論說の投書を取てする歐人と、文字なく財産なき埃及農民とは實際上之を區別する必要ありと論じたり。余は改革者を失望せしめずして、總ての必要なる行動を執らしめんが爲めにも努力したれども、彼等の事業が埃及の輿論の代表者なるが如く看做されたる人々の反對を蒙れる場合には、彼等の輕率を戒むると共に、改革の已むなき所以を世界に發表せり。余は土耳其帝の埃



及に對する主權を擁護せしと共に、其政治の實際に干渉して文明を退歩せしめんとするを拒む責任を感じたり。余は或る時期に於ては、埃及が其自治に向つて急ぐこと、殊にカイロが諸種族聯合團體の政治に復歸することを防止する必要なきを認めしと共に、政治の基礎を鞏固ならしめんが爲めには、尙永く歐人の指導に依たざるべからざるを熟知せり。余は時には普通の總領事の位置に過ぎ、列國の代表者の一人として行動せしと共に、時には兵力を以て埃及の秩序を維持する大帝國の代表者として進み出づることもありき。更に進みては、歐人の侵略に對して埃及を保護し、殊に占領の初期に當りては他國の攻撃に對して英國の位置を維持せざるべからざることを屢なりき。余は努めて本國の輿論と歩調を一にする責任ありしが、其議論は亦にも善意にして、且つ多くは正鵠を得たるものなりき。中には余の行動を誤解せることなきにあらざりしも、議會の演説若くは新聞の記事に依り、常に余に對して正當なる判断を下すは固より望むべきにあらざれば、余は存んで本國の輿論に傾聴せり。余は英國の勢力を維持すると共に、出來得る限り之を表面に現さざらん事を努めたり。従つて余に賦與せられし

兵馬の權も、重大なる事件の發生せざる限り、恰も之を有せざるが如く裝へり。余が活動する爲めには幾多の英人に依らざるを得ざりしが、彼等に對しては何等の指揮權を有せざりしを以て、單に自己の誠意に依りて之を説服するの外なかりき。余は埃及國內の出來事に因りて歐洲の平和を破るが如きことを防止する責任を負へり。余は列強の全部若くは一部が多少英國の政策に反對せる時に當りて、世界の注意の埃及に集中するを防ぎ、殊に埃及問題中未だ解決すべき時期に達せざるものに就きては、努めて之を世人の耳目より遠けんことを期せり。若し夫れ種々雜多の小事件に墜りては、斷えず余の前に持ち運ばれたり。我青年將校の賭博に敗れて窮境に陥れる者あらば之を救はざるべからず。奴隸の結婚せんとする者あらば、其主人若くは主婦をして之を承諾せしめんが爲め、道徳上の壓迫を加へざるべからず。猶太教の一派が政府の承認を得んとしては、アムステルダム派とセコフ派の慣習の相違を大臣に説明して、其認可の爲めに盡力せんことを余に求め、上埃及に於ける僻地の村民が、其レークに不平なればとて余に之を訴ふ、余は種々雜多の事件に就きて電報を發し急信を認めざるべからず。



佛へはケアリーの英人取者解僱の件、陰謀者の毒手より英人改革者の生命を救ふの件、生靈の由来に關するアビシニア人教會の救護の件、の如し、其他委託金私情の罪に因り入獄せる獨逸宣教師を救ひ出すことも、佛伊兩國より來れる舊教徒の死者を葬るべき墓地を得ることも、回教徒の崇拜せる聖僧の墓を發掘することも、ケアリーの一族の某夫人をして其尖の口を上靴を以て打たせしむることも、此一族中の男女の結婚に對する冷酷なる親戚の妨害を除くことも、農民の妻の販落せし者を捜索することも、獨逸の大學教授にナイル河に産する電氣鎗の生きたるものを運送することも、總て哲余に宛て、盡力を求め來れり、哲に精神の健全なる者のみならず、狂人に接せし事も再三にして、時には之を教會の外に逐ひ出せしともあれば、又時には自己の馬車にて之を癡狂院に送りしこともあり、或る時の如きは、精力人に勝れたる狂人の腰に手杖を巻き、手に火箸を持ち、余の頭を打破らんとて余の家に近いこともありき、之を要するに、余の職務は自ら埃及を治むるにわらずして、之を輔佐するにわりしなり、而して之をなすに當りても、當局者に在むに嚴しき權力を以てすることなく、最も圓滿に其職務

を遂行すべかりしなり。  
 此稍、要領を得ざる事情の下に、余が執り得たる唯一の一般方針は、純粹なる國內の出來事は直ちに之を處分し、國外に關係ありて外交上の問題を惹起し若くは議會の強き注意を喚起すべきものは、之に對する倫敦政府の訓令を求むるにありき、而して此中央集權と地方分權との折衷主義が、斯かる特殊の事情の下に、期し得べき充分なる作用をなしたることは、之を公言するも不可なからん。  
 一八八二年以後埃及に於て見るが如き變則なる政治の效果は、専ら舞臺の主人公たる人物の如何に依りて決せらるゝこと勿論なりとす、英兵駐屯後の最初の九年間、政治界の主腦は曠のケアリー、アム・アム・ク・ハレンヤなりき。  
 アム・アム・ク・ハレンヤが偉人若くは理想的ケアリーにあらざりしは、彼の親友と雖も、存なき所なるが、彼に就きて取るべき點も亦必ずしも、あつしとせず、彼は夫として、は能く一婦を守りて國人に好模範を示し、父としては寛大仁慈にして子女の教育に努めたり、彼は信仰の人と稱せられしも、毫も異教徒を疎外せざりき、而して彼の信心は、一方に於て自から民心を歸服せしむる手段となり、政治上重大なる意



論を生ずるに至れり。彼は其周囲の人物に比すれば、横直にして國家に忠實なり  
 き。尤も序に一言すべきは、彼も亦埃及人の大多數のなす如く、自ら責任を脱れて  
 之を他人の頭上に加へんと努めたり。例へば彼は歐人官吏の餘に多數なるに不  
 平を懷きながら、歐人の職を得んことを望む者に對しては、之に答ふるに、個人と  
 しては之を許可せんことを欲すれども、英人が權を專にして之を妨ぐる旨を以  
 てせり。彼は性恬淡にして自ら事を工夫せざりしも、決斷を強ひられたる場合に  
 は、厲、確乎たる常態を示し、他に乘せらるゝことなかりき。彼は他人に對して親切  
 なりしと共に、他人の盡力に對しても、厲、感謝の意を表したるが、斯くの如きは東  
 方の支配者には稀に見る所とす。彼は其父の失敗に鑑み、極端に奢侈を斥け、往々  
 吝嗇なりとの非難を受けたりと、時には高尚なる目的の爲めに財を散じたり。彼  
 は又專制君主の通有性を缺き、總て專斷、抑壓、殘忍等の行爲は深く之を嫌惡せり。  
 尤も彼の無賴者の爲めに不正行爲が彼の名に由りて犯されたること稀ならず  
 りしも、斯くの如きは決して彼の自ら闕知せる所にあらざりき。彼は高等教育を  
 受けざりしのみならず、殆ど書籍を手にしざりしが、常に新聞を讀み、凡らゆる種

類をわらゆる境遇の人士と談論せり。彼は斯かる場合に相手の談話を了解して、其  
 要點を捉ふるに敏なりき。頭腦の精密なる點に於て、彼は其一般同胞に比して、多  
 少勝れるものありしならん。彼は人と物とを實地に取扱ふ事に因りて、自から高  
 貴の位置を占むる人に必要な教育を受けたり。彼は其同胞人が普通になす如  
 く、高尚なる企圖に對しては、何事にも直ちに之を贊成せり。されど後日當事者  
 の行動が最初の主義と一致せずとも、彼は之を悟らざること屢なりき。而して之  
 を悟りし場合に於ても、當事者を咎むべしとの結論に達するは、明晰なる歐人の  
 頭腦には殆ど解し難き一種の推理作用に由るものゝ如かりき。彼は剛膽の人に  
 あらざりしも、一八八二年の變亂中に於る行爲は、其必ずしも怯者にあらざるを  
 證したり。之を要するに、テュー、ク、パン、は道徳又は智能に於て多大の稱讚を博す  
 るに足らざると共に、是等の點に於て別に普通の標準に達せずとの非難も受け  
 ず、所謂可もなく不可もなき人物に近かりき。彼は支配者としてよりも、寧ろ一個  
 の人として相應の尊敬を受けたり。従つて其なす所は國民をして熱烈なる心情  
 を起さしむるが如き事なく、其公衆の注意を惹ける場合に於ても、常に微劇なる



〔其實非難せるにわらずやと疑はるゝはと微劇稱談の聲を聞くに過ぎざりき。彼は真に其臣下の休戚を念頭に置き、忠實に自己の義務を果さんと希ひしも、彼の能力は如何にして最も好く其目的を達すべきかを洞察するに足らざりき。されど彼の位置の甚だ變則にして且つ困難なりしこと、彼が親しく海外の文物制度に接せざりしこと、を思へば之を以て彼を責むるは事ろ餘なりと謂はざるべからず。〕

假に彼をして特に英邁にして人格高き人ならしめば、彼は果して何事をなしたるべきか。想ふに彼は自ら改革の首領となり、其部下なる埃及人を率ひ、英人と力を協せて、國運の發展を圖りしなるべし。されど斯かる勇敢なる政策を執るは、特に強大なる意志を要し、此點に於て缺如せる彼の到底能くせざる所なりき。マシュー・パインは理想的のケマーズにわらざりしも、當時の事情を顧れば、彼が其位置を保つに必要なる性質を比較的十分に備へたるを認めざるべからず。埃及にして若し彼の代りに狂熱なる回教信者專横暴虐の人、若くは自己の快樂に耽りて他を顧みざる者を主腦と仰ぎしとせば、斯くの如きは東方諸國の歴史に於

て多く見る所なり。此國の進歩は著しく妨害せられしなるべく、彼が斯かる有害なる性質を有せざりしは、實に非常なる好都合なりき。即ち彼は自ら進んで改革を企てざりしも、他の之をなすを妨げず、自ら改革者を率ひざりしも、他の指導に従ふを厭はざりき。彼は國運隆昌の基礎を置かんとせる英人の一團に熱心なる援助を與へざりしも、其事業の障礙物を除去するに就ては、層有益なる影響を及ぼしたり。尤も彼は一方に於て英人に反對することの彼自身並に國家に取りて不利益なるを知ると共に、他方に於て全く英人と協同しては、自國の有力者間に人望を失ふことを恐れたれば、常に雙方の歡心を求むるの外なかりき。而して彼は巧に此役目を演じて、英人と埃及人との間の重要なる鍵鎖となり、層雙方の意見を緩和するの用をなせり。但し斯かる役目を演ずるに當り、雙方より種々の批評を受くるは已むを得ざる所にて、彼は層次の如き噴霧を洩らせしならん。曰く「余の最も光榮とする所は極端に走らざるにあり。されど之が爲めにトリー黨は余を目してキイジ黨となし、キイジ黨は余を呼ぶにトリー黨を以てす」と。マシュー・パインが其國民と國柄とを熟知せし事は、彼をして特に英國に依頼する



必要を以せしめたり。彼は曾つてアンラビが歩騎砲兵を率ひて王城前の廣場に進み、前々アンラビをして已むを得ず其意に従はしめし事を記憶せり。彼は曾つて以て非なる愛國者が國情に適せざる自由制度を嘆々するを聞けり。彼は民衆の無智にして輕率なるを知り、其宗教的狂熱の餘燼の猶甚だ危險なるを認めたり。彼は自ら英國の擁護に依頼するにあらざれば、現に自己の足下に跪ける者の多数は、私利の爲めに矛を逆にして彼を屠るべきを知れり。尙彼は若し自ら強く英國の感情を害するが如きことあらば、英國よりも攻撃せられ、腹背敵を受けざるべからざるを知れり。されば彼は一方に於て排英主義者と觀みしも、決して其極端に走らずして、長く其位置を保つを得たり。余は曾つて彼に對して、前々アンラビ、イスマール、パレヤがボスフラスの海濱よりカイローに歸り來るが如きことあらば、之を以て政治上無意義の事實と看做すべからざるを忠告せし事ありしが、其時彼は次の如く答へたり。曰く、大臣は屢更迭せざるべからず、されどアンラビは然らずと。これ實に彼の真意を語れるものにて、彼は如何なる大臣とも全然政見を一致せしむることなく、自己の位置の不安を感ずるに際しては、常に大臣を諷り

て己が身替とせり。

余は今日も好意と尊敬とを以て彼の名を記憶す。彼は余の壓迫を受けて恐怖せしことなきにあらざりしも、兩者の關係は平素甚だ親密にして、余は常に彼を信用せり。彼は余の手先に過ぎずとは排英黨の稱へし所にして、一般人士も多少其感懐を懐きし如くなれども、これ彼を惡ふるの甚しきものなり。余は常に彼と眞事を談合せしが、其意見を眞にするに當りては、彼が余の説を容れしよりも、余が彼の説に従ひしことの事多かりしを記憶す。尤も多くの場合に於ては、相違せる意見の間に適當なる妥協の餘地を見出すを得たり。

彼の死せしは改革の効果の漸く顯らんとしたる時にて、彼は之が爲めに次第に民心を得つゝありき。彼の死は埃及に取りて大なる損失にして、彼に如何なる過失ありしとするも、東方諸國主權者の靈を一堂に祭るに當りては、他の主權者に比して稍、大なる禮禮を設けらるゝ資格あるべし。彼の子孫は此國が彼の治世の時に始めて繁榮の域に進みし事を忘るべからざると共に、彼自身之に與つて力ありし事を誇るを妨げず、何となれば、彼が改革を妨げずして、屢、多少の援助を與



へしことは、英人の盡力をして速に其効果を收むるに至らしめし所以なればなり。要するに彼は一部埃及人の反對を顧みずして改革を行はしめしケアーツとして永く記憶せられざるべからず。

埃及政治界の首腦はケアーツなれども、總理大臣も亦重要な位置を占む。一八八二年のアレキサンデルリア港砲撃後はレリアン・パレンヤ此職に在りしが、一八八四年一月以後、ムーバー・パレンヤに代りて、一八八八年六月まで在職せり。其後を承けしはリアズ・パレンヤにて、一八九一年五月に至れり。其後繼者はムスタファ・パレンヤにて、一八九二年一月七日、ケアーツ、アーツ・パレンヤの死後も其子アハメ・パレンヤに仕へて、一八九三年二月に及べり。爾來リアズ・パレンヤ此職に在りしが、翌年四月ムーバー・パレンヤに代れり。一八九五年の秋、ムーバー・パレンヤは健康衰へて辭職し、ムスタファ・パレンヤに就きては多く言ふべきことなし。彼は寧ろ英兵駐屯前の大臣にして、彼の性格は既に殆ど説明し盡したり。唯茲に一言すべきは、彼が回教を信奉せる首相中最も非埃及人的なりしことなり。元來普通の土耳其埃及人は土耳其

人と云ふよりも寧ろ埃及人に近けれども、彼は若年の時コンスタンチノープルより來りしに似ず、老年に至りても僅に埃及化せるに過ぎざりき。彼は埃及の内治に關して土耳其帝の干涉の加はるを好まざりしも、純粹なる埃及人は之を亡國の民として輕蔑し、埃及を以て土耳其埃及人の所有と看做したり。彼の性質中の土耳其的ならざる部分は、佛蘭西人の感化を受けしものにして、彼の清白は佛人に於て屢其例を見るべく、又彼の銳利にして巧妙なる諷刺は、佛人の最も得意とする所なり。されど彼は決して土耳其貴族の特色を失はざりき。即ち彼は勇敢にして正直、但し土耳其流の正直なりしも、偉大倨傲の風ありて、公事に腐り細事を顧みざりしのみならず、往々根本の要點をも忽にせり。時には其の經世家たるに耻ぢざる行動に出づることもありたれども、自己の主義を貫徹するには餘に不注意にして、且つ熱情と執着力とを缺けり。されど是等の缺點ありたるに拘らず、彼は竟に埃及政治界の一大中心人物中に數へらるべき人格たるを失はざり

き。  
ムーバー・パレンヤは近時の埃及政治家中の最も興味ある人物にて、特能の點より觀



れば幾多の競争中に在りて宛然鶏群の一鶏なりき。彼は好例の行政家にあらざりし爲め埃及の如き經世家よりも事ろ行政家を要する國にありては充分其眞價を發揮するを得ざりしも、而も彼の經世家的實質は此國にありても決して無用にあらざりき。

モーハーヤレは東方人にして歐洲的教育を受けたるものゝ一人なるが、彼は徒に皮相の文明に眩惑するが如き愚者にあらざりしかば、歐洲文明の美點を捨てて其缺點のみを模倣することなかりき。彼は多くの埃及人を墮落せしめたる歐洲文明の暗黒面を觀察して、自ら次の如き質問を發せり。曰く、敏捷にして不謹慎なる歐人の侵入に對して、此國を保護する方法如何。埃及が歐化せられざるべからずとせば、之を果す最良の方法如何と。

是等の問題に對してモーハーヤレの與へたる解決は、眞に經世家の見たるに耻ぢざるものなりき。彼は先づ人を主とする東方の政治を變じて、法を主とする西方の政治となさざるべからざるを看たり。彼謂へらく、埃及國民は一は治者の抑壓と貪欲とに對し、一は潮の如く寄せ来る歐人に對して、自己を護るの途を尋は

ざるべからず、而して之が爲めには歐洲諸國の政治の今日ある所以に鑑みて、法律を尊重する精神を養成せざるべからずと。此説は何人も思ひ至らざりし卓見とは謂ひ難く、尙必ずしも非常なる苦心の結果と認むる必要もなければ、兎に角自ら之を看破し且つ其實行に努めし者は、埃及人中彼を以て嚆矢となさざるべからず。彼の品性に種々の汚點あり、彼の創設せし司法制度に幾多の缺點ありしとするも、彼が率先して埃及の治者並に被治者に斯かる重要なる思想を普及せしめんと努めたる功績は永く忘るべからざるなり。實に彼は従前横暴なるカブールと不法なる領事とが勢力を以て權利を作りしを非とし、文明社會に於ける善政の基礎は勢力を權利の前に屈せしむるにありとなし、進んで之が實現を企てたるなり。

モーハーヤレは事物を大觀して其内に潜める原理を看取するを得意とし、事能の重大なるに従ひて益能く其能力を發揮せり、而して彼の缺點は、其獲得せる健全なる原理を實地に應用して、十分なる効果を收めざりしにあり。彼は其原理を如何なる手段によりて實際に適用すべしかに就きて、綿密なる注意を拂はざる



もの、如くなりき。尙時には單に原理を闡明するを以て自己の任となし、實際の事業の之に一致するや否やに就きて意を注がざりしことも屬なりき。加之廣き概括的なる方針に對しては、實行の誠意なくして直ちに之を採用することも絶無にわらざりしが如し、但しこは歐人殊に英人が尤らしき概括的議論に依りて宥められ易きを、鋭敏なる彼の看取せしにも因ることなるべし。

ムーハー・パレンは最も應談に長じ、應酬に過ぎざる事柄を變じて完全なる事實と云ひ做すことに於て驚くべき技能を有したり。故に歐人中の教育ある者と雖、彼の眼界の廣くして其意見の大膽なるに一驚を喚せざるなく、彼の意見の誤謬は特に其事實に精通する者の外は之を知る能はざるを常とせり。殊に歐人は彼の典雅なる所作、優美なる言詞、巧妙なる推理、謙讓なる態度等に依りて恍惚たらしむるもの稀なりき。是等は東方の上流社會一般に通ずる特色にはわれど、彼の如きは其顯著なる代表者とも稱するを得ん。されば彼に接する歐人が彼の巧妙なる議論の往々誤れる前提に基けること、從つて其説も内閣の首班に列する人の議論と云ふよりも寧ろ私人の責任なき論談として聞くべきものなることを知覺

するに至るは經驗と反省とを重ねし後にあらざれば能くせざる所なりき。

ムーハー・パレンは敏捷にして變通の才に富み、明白なる矛盾をも蔽はんとする大膽あり、且つ最も辭令の妙を得たれば、人は彼を目して好個の外交家となせり。此批評は固より或る程度まで當を得たるものにて、實際彼が老練なる協商者たるを證せしことも屬なりき。而して彼の最も長せしは、言辭を曖昧にして自己の意圖を明確にせざるに在りしが、此技倆を助けしものは彼の流暢なる佛語なりき。何となれば佛語は思想を精確に發表せんとする場合には、充分其目的を達し得べき言語なれども、一方に於ては曖昧なる語法も甚だ多くして、對手の注意せざる抜け道を作るに最も好都合なればなり。されどムーハー・パレンの此長所は十八世紀の外交家としては甚だ重要なりしも、今や外交は手品と異り、對手の眼中に巧に灰を投ずる者必ずしも成功せざるに至りたれば、此妙技も殆ど用ふるに所なきことゝなれり。即ち文明の進歩と共に何事も總て開放的となり、所謂外交の術も次第に單純なるものと化し去りしなり。之に就きてはヒュムワート公の外交も興つて方ありしならん。ムーハー一派の人士は、之を以て外交術の退化となさ



んも、兎に角國民間の出来事は漸次實務的に處理せらるゝに至り、現今事ら行はるゝは、明白なる質問と明白なる答辯とにて、所謂權謀術數も多少殘存せざるにあらざれども、其効果は甚だ微少なるとなれり、殊に彼が其政治的生涯の後半に於て、事に處すること最も率直なる英人を對手とせざるべからざりしは、彼の不幸なりき、彼曾つて英人を評して曰く、英人は甚だ正直なり、されど彼を以て與し易しとなすは、大なる誤にて、人が彼を得たりと信ずる、利那、彼は俄に身を翻して猛烈なる打撃を與ふべし」と、是に由りて觀れば、彼は英人に對して陰謀を弄する事の無益なるを知れる筈なるに、實際に於ては、竟に此武器を捨つるを得ざりき、彼が文明的政治に熱心にして、且つ英人に敬愛の意を表するを怠らざりしに拘らず、周圍の英人より信用を受けざりしは、一に之に因りしなり、是等の英人は、事る必要以上に彼を疑ひしが、彼は竟に自己の行動の英人に與ふる感觸を了解するを得ざりき、實に彼は死に至るまで、詐欺に近き術策の政治上必要なることを信じて疑はざりしなり。

スーパードンが英軍駐屯の初期に於て懷きし政見は、一種特別のものなりき、彼

は英兵の守備を以て國內の秩序を維持するに缺くべからざる手段となし、屬兵にして退去せば、余は其最後の大隊と共に埃及を去らんと言ひしが、彼の所謂英人の政治的占領には全然反對なりき、即ち彼は己が權力を維持する爲めに十分なる兵力を備ふると共に、政治に關しては何等の束縛を受けずして、自ら其手腕を揮はんことを希望せしなり、されば彼の我陸軍將校を遇するや、感歎至らざるなく、彼等に對しては常に稱讚の聲を絶たざりき、殊に我守備兵に十分なる訓練ありしこと、其將校が勤務の餘暇をポローとクリケットとに費して何等政治的問題に注意せざりしことは、最も彼を喜ばしめたり、武官に對する待遇斯くの如くなりしに反し、余及び政府部内の英人文官に對しては、其最初の首相在職中一八八四年—八八年斷えず反對を試み、彼の計畫は我等の行動と激しく衝突せり、彼の如き智者にして、英國政府が其軍隊を駐屯せしめながら、パシ等の暴政を袖手傍觀し得べしとなせしは、甚だ解し難きことと謂ふべし。

スーパードンにして若し少しく慎重の態度を執らば、久しきに亘りて首相の位置を維持し得たるや必せり、而して彼が其競争者に比して遂に優秀なる才能を



有せしことを思へば、彼に此用意を缺きしは惜みても尙餘あり、彼の一八八四年より八八年に至る在職四年間、余は彼との軋轡を避けしのみならず、屢彼に有力なる援助を興へ、又彼の周圍にて企てられたる幾多の陰謀に對して眼を閉じたり。然るに彼は自己の爲めに形勢不利なる時機に渡英して、サリスマー卿と會見し、埃及に於ける英人官吏一般、特にサー・エドガー・ビンセント並に余に對して激烈なる非難を試みたり。當時余も本會見に列席せしが、彼は斯かる計畫に就きては、余に對して豫め何等の注意をも興へざりき。されど彼の雄辯は、毫もサリスマー卿を動かすを得ずして、却つて彼の殆ど豫期せざりし結果を惹き起す動機となれり。惟ふに彼は此事を國內に喧傳せしめて、埃及人の保護者たる名聲を博し、以て自己と人稱並に宗教を異にする回教徒の信任を得んと欲せしならんも、實際の結果は全く豫想に反し、豫て彼に快からざりし幾多の敵に、彼を非難する好機會を興ふることとなれり。

從來是等の人士は彼の位置の到底動かすべからざるを看て沈黙を守り來りしものなるが、今や彼が英國の同情を失へるを知り、異口同音に彼を攻撃し始めた

り、彼の天與の味方が英人にして、此味方を失ふと同時に其勢力の失墜すべきは、彼の如き智能を有せざる者にて、も認め得たる所なるに、彼は之を慮らざりしも、如し彼が英國の後援を失ひし事實の明白となるや、サー・フランク・パレンは他に口實を得て遂に彼を免職せり。

サー・パレンの此免職に對する余の悲は、恐らくは彼自身よりも一層強かりしならん。彼が感情的にして執着力に乏しく、且つ自ら處理すべき幾多の行政問題の初歩をも解せざりしことは、彼の缺點を更に甚しからしめ、たれども、余は竟に彼を好まざるを得ざりき。彼の如き文明的政治の大體に逼せる眞の智者と事を議するは甚だ快心の事なるが、殊に彼に接する場合には一種説明すべからざる愉快を感じたり。余は未だ彼の如く聽者をして思想上の錯覺を起さしむるに妙を得たる人に遭遇せしことなし。レークスピアは、余の愛する人が自ら誠實の化身なりと誓ふ時、余は欺かるゝを知りつゝも猶之を信ずと言ひたるが、余も亦屢サー・パレンの爲めに欺かるゝを熟知しつゝも、猶半ば其言を信せざるを得ざりき。



余は彼の才能を尊敬し、彼が眞の經世家的資質の一部を具へたることを忘るゝ能はず。彼にして若し人格と聲譽とが世界に容れらるゝ政治家たるに缺くべからざることを覺知したらんには、眞の偉人と稱せらるゝを得しなるべし。

次にリアズ・パンヤを論ずることは余の稍躊躇する所なり。何となれば彼は現に一九〇七年生存せる人にて、且つ余の最も敬重する友人の一人なればなり。されど彼とモーバー・パンヤとが政治並に社會に關する意見の兩極端を代表せしことは、之を斷言するを得べし。後者は歐洲文明を以て唯一の眞文明となし、埃及に於ける諸制度の要點を歐洲化せんと企てし人にして、彼の手段は必ずしも常に其目的に協はざりしも、これ決して彼が其目的を達せし爲めにはあらず。之に反してリアズ・パンヤは回教徒の勲典に必要なものは、總て此宗教と其信徒との内に具はると信じ、信徒にして奮起せば、歐人の援助を俟たずして、再び黄金時代を恢復し得べしとせり。彼は自ら謂つて曰く、此國民を幸福ならしめ得る者唯我々ののみと、惟ふに彼の如く熱心に回教を信じ、誠實に國家を愛する人士をして、回教を基礎とせる社會的並に政治的制度は到底絶滅を免れざることを、又回教國の

司法と行政とは、宗教と密接不離の關係あること、並に埃及人自ら文明的政治を行ひ得るは、遠き將來に於て之を望まざるべからざることを容易く信せしめんとするは、寧ろ望む者の誤にして、彼の意見に對しても相當の同情を表すること、正當のことならぬ。

リアズ・パンヤの政治的生涯は之を四期に分つを得べし。即ち第一期、イヌメール・パンヤの下に大臣として財政審査委員を兼ねたる時代、第二期、ゾー・ク・パンヤの下に總理大臣たりし時代、但し英佛協同干涉時代、第三期、同上、但し英兵駐屯時代、第四期、アハヌ二世の下に總理大臣たりし時代是なり。

彼の最も手腕を發揮せしは其第一期に在りしものゝ如く、當時彼は、イヌメール・パンヤが國家を荒廢に歸せしめしを憤り、一身の安危を顧みずして改革を絶叫せり。彼に爾後如何なる過失ありしとするも、當時國家の爲めに生命財産の危険を冒して其眞意を公にしたる勇氣と識見とは、永く一國の先覺者として記憶せらるゝに足るべし。

第二期の初めに當りても、彼は能く其任を全うせり。當時彼は歐人の助力を要す



ること多きを認めしかば、其干渉を厭ふの念も、之が爲めに動かさず緩和せられたり、例へば當時の紊亂せる財政を整理するに就きても、彼は充分なる専門的智識を有せざりしが故に、歐人をして政府と其債權者との間に立ちて、之を助けしむるの必要を認めたり、然るに此時期の終に近きて、彼は其才能と識見とを以てしては到底解決し難き大問題に遭遇せり、初め彼はアラビ一味の運動の重大なる意義を悟り得ざりしが、事態の愈重大となるや、幾許もなく其職を去らざるべからざるに至れり、第三期はムーハーバレンの後を承けて首相となりし時にて、初めは圓滑に政務を進行せしめたり、元來彼は行政家としては遙にムーハーバレンに優り、且つ彼が敵度なる回教徒なりしことは、多數國民の心を安んずるに與つて力ありき、加之彼は能く其國を知り、殊に彼自身第一流の農業家にて、最も農民の事情に精通せしかば、就職の初期には埃及人官吏に對して大なる勢力を揮ひつゝありき、されど彼は當時の精緻なる政治機關を運轉するには餘に自己中心的にして、時勢の推移が政治組織に及ぼせる變化を顧慮せざりき、即ち彼は正義に就きて大體の概念を有せしに拘らず、法律を尊重する念に乏しく、法律の支配

の下に自己の意志を在ぐべきを知らざりき、實に彼は法律若くは規定が自己の認むる正邪の標準と矛盾する場合には、當然之を破壊すべきものと信じてたり、斯かる特殊の思想と性癖とを有せし結果として、彼は幾許もなく殆ど總ての人と衝突し、行政は著しく圓滑を缺き、遂に其職を去るの已むなきに至れり。

第四期は余が後章に於て述べんとする時期なれば、今は之を略す。

要するにリアズ・パレンは堅實なる回教信者にして、彼の仲間に比すれば智能に於て劣る所なく、品性に於ては健に一頭地を抜ける人なり、殊に彼の何事に處しても泰然自若たる勇氣は、最も稱讃に値す、將來埃及人の中より彼の如き種々の劣點を具ふる幾多の愛國者を輩出するを得ば、此國の爲めに大に慶すべきことならん。

ムスタファ・パレン・フーリの性格は甚だ單純にして、僅に教誨を以て之を説明するを得べし、即ち彼は英人が、ワシントンマンの語を聞きて聯想する性質の總てを具へたる人と云ふを以て足れり、とす、彼が英人と力を協せて忠實に事に處するを以て最上の策と認めしは、經世家の見と謂ふべし、斯くて彼の在職中に埃及は宋



だ會つて見ざる精神的並に物質的發達を遂げたり。

今や政治の機關と之が運轉を託せられたる主要なる人物とに就きて述べ終りたれば、次に其成就せる事業を論ずるは當然の順序と云ふを得ん、されど之に先ちて英人が埃及に於て何をなさんと欲せしかを述ぶるも亦無益にあらざるべし、元來埃及に於ける英人の政策なるものは、門外漢は勿論直接の關係者と雖、其正體を明かにし得ざる怪物なりしが、余は次の數章を以て之を説明せんと欲す、此捕捉し難き政策が消滅して、一層具體的のものゝ之に代はりしは、一九〇四年以後のことなり。

### 第五編 埃及に於ける英國の政策

吾人は帝國の利益を保護し、埃及人民の幸福を増進し、且つ世界の平和と秩序との確立に貢獻せんと欲する者なるが、此事業に對しては何等の困難もなかるべきを確信す。

.....グラッドストーンの下院に於ける演説.....

(二八八二年七月二十七日)



### 第四十四章 政策の衝突

(一八八二年—一八八三年)

英國政府の意圖——守備兵の減少に就きての提案——サー・エドワード・マレットの意見——改革と撤兵との兩者を共に實行するの困難——兵を減じて現部をアレキサンデリアに集中せんとする提案——政府之を容れず、減兵の中止。

人若し、アル・エルクヒリアの戦の爲、グランビル卿に告ぐるに、廿五年の後英兵猶埃及を守備すべく、其内廿二年間は埃及の政治問題が何等の解決を見ざるべきを以てせば、彼は此愚を嘲笑せしならん、何となれば當時英國政府は埃及の秩序を恢復し、重要なる改革を断行して、速に兵を撤せんと企てしを以てなり、此事の困難なるは固より疑を容れざる所なりしも、當時にありては必ずしも不可能と思はれざりき、さればアル・エルクヒリアの砲聲の終ると同時に、グランビル卿がサー・エドワード・マレットに對して、將來の軍事、財政並に行政に關する意見を撤せし時にも、卿は政府が遠からず撤兵を開始する意圖を有する旨を告げたり。

一八八三年の夏英兵の埃及に在る者約七千なりしが、レウソフ・パレハは八月廿五日附を以て、サー・エドワード・マレットに一の覺書を致し、財政の必要上守備兵を二千に減せんことを求めたり、之に就てマレットは固より經濟上の必要を認められたるも、同時に彼は國內の平穩が主として有力なる守備兵の駐屯に基けるにあらざるかを疑ひ、一時に二千以上の減兵を断行するの說に賛同するを得ざりき、グランビル卿が九月六日附を以て余に發送せし文書のカイロに達したるは、恰も余が印度より此地に赴任せしと同時に然りしが、彼は其書中に、マレットの通信を引用して、次の如く書けり、曰く、

「女皇陛下の政府は埃及の秩序の紊れざる限り、其守備兵を減するに異存なし、唯一應貴官の意見を聴取して、後之を實行せんと欲す、サー・エドワードは個人として余に告ぐるに、英兵をカイロより撤するは何等の不利益なきを信する旨を以てせり、假に此說に従ふとするも、カイロ以外の地に留むべき軍隊の兵數と其配置とは周到なる考慮を要すべし、余は貴官が軍事當局者と商議して、之に關する詳細なる報告書を提出せられんことを望む」と。



當時余の之に對する心事は、自己直接の回想と公文並に私信の閱讀とに使ひて、十分之を明かにし得る次第なるが、余は當時英國政府の出兵の意義を重視すると共に、臺閣の諸公が果して此意義を熟知せりや否やに就きて疑なきを得ざりき。彼等は埃及の永久的占領に對して反對の多きを知り、大體に於てパーマーソン卿の政策を執れり。されど之を歴史に徴すれば、文明國が野蠻若くは半開の國に干涉の手を下せる場合には、永く其手を弛めざるを常とし、我政府の埃及に對する關係も、其内政に干涉を試むる以上、内閣諸公の考へし如く爾かく容易に手を引き得ざりしこと明かなりき。急に守備兵を撤する事が國內の安事を漸す虞あるは、マレットの言の如く、此一事は撤兵を論ずるに當り、先づ思を致さるべからざる點なりしも、此外メッソン卿の措きし如き此國百年の大計が、之に因りて如何なる影響を蒙るべきかも、大に考慮を要する點なりき。余が改革と撤兵との全然兩立せざることに就きて、明白なる觀念を得たるは、數年の後なりしが、當時にありても大體に於て之を認むるを得たり。余は埃及の政治組織が根本より擾盪せられしを看て、撤兵の曉には、クワイプをして可なり自由に手腕を揮は

しむるの已むなきこと、殊に公安を破るが如き企圖の防遏に就きては、其政府に十分なる自由行動を許さざるべからざることを認めたり。斯くて余の最も恐れし所は、我政府が初め輿論に動かされて撤兵し、後に至りて埃及官吏が妄に人民を毆打し又は濶濶的手段を以て秩序を維持せんとするを見て、俄に猖獗することなきにありき。されば余は我政府に警告するに、撤兵後埃及一流の秕政に對して起るべき議會と新聞の攻撃を顧みざる決心なくんば、撤兵すべからざる旨を以てせんことを欲したり。

余は右の如き思想に滿されて、十月九日(カイロ)到着後約一月シランベル卿に返信せり。余は先づチャーレンジャー、シヌタフンソンの商議の結果、三千の守備兵をアレキサンドリアに置かば秩序を保持し得べしとの結論に達せし旨を述べ、(全然守備兵を撤し得べき時期に就ては、前日シランベル卿に宛てし私信の内に、其未だ問題となし得ざる旨述べ置けり)進んで此國の事情を稍詳細に説明し、尙後日公に發表する心算にて、干涉の手を弛むる結果を十分明白に指摘せり。

余の報告の倫敦に達するや、官邊に著しき不安を興へたり。諸大臣は結局改革と



撤兵との兩立すべからざるを認めしもの、如きも、彼等は之を公にするを欲せざりしかば、グラウンビル卿は余に打電して、撤兵の結果に就きての意見を本文より分ちて、之を秘密に附すべきを求めたり。

是に於て余は守備兵の減員と其カイローよりの退去とに就きての報告のみを一文となして之を公にし、他は總て秘密の報告とせり。

グラウンビル卿十一月一日附を以て書余に致して曰く、英國政府は守備兵を減じて之をアレキサンドリアに集中することに同意せり、已に兵を首府より撤する以上國內の秩序を維持するは主としてケア、ア政府の責任たるべし、但し此事業の遂行上必要の場合には、英國政府は十分なる援助を與ふべしと。

其後僅に三週間、守備兵未だカイローを去らざるに當り、ヒ、クス軍全滅の報到れり、是に於てグラウンビル卿は、十一月廿二日、余に打電して、サー、ラレアリ、ク、スマア、ンソンとサー、エベリン、ワードとに譲り、ムーメンの現状が埃及の安寧に危害を及ぼす虞なきか、若し之ありとせば如何なる手段を執るべきかに就きて意見を提出すべきを命せり、余は之に對して十一月廿四日次の如く具申せり、曰く「マー、ア、

最近の成功は埃及の平和を感得するものなれば、守備兵の減員とカイローよりの撤兵とは、其に見合はすの外なかるべし、これ我等三人の齊しく認むる所なりと、翌日グラウンビル卿は、返電して、撤兵の準備を延期すべきを命じたり。

此延期は實に今日まで繼續せるものなりとす、而して此間責任を負うて局に處るもの、何れも急遽なる撤兵の不可能なるを認めざるは、なく、問題は唯撤兵の準備として兵を減じてアレキサンドリアに集中するの可否にありき、ヒ、クス軍の慘禍起らずとも、短日月の間に撤兵を究うせしや否やは疑問なれども、兎に角此事ありて後は、當分其望なきに至れり、之に就きて笑止なるは、熱心に撤兵を希望せし政治家が自ら其希望に最後の打撃を加へしことにて、當時グラウンビル卿は、ムーメン事件に干渉せば、撤兵の時期を遅延せしむる虞ありとなし、ヒ、クス軍の遠征を禁止せざりしが、結果は却つて其正反對となりて現れたり。

是より先余は十月廿八日附の私信を以て、再びグラウンビル卿に對して、撤兵と改革との兩立すべからざる所以を論じたり、今其全文を掲載すれば次の如し。

余は赴任以來の觀察に由り、今や此國の事情の大體に通ずるを得たり、余の觀



る所に據れば此國に於ける幾多の難問題は問題其物に就きて考ふれば、大抵皆相當の期間に解決し得べきものなれども、其間に一大障礙物の横はるゝりて、凡ゆる活動を妨げつゝあるなり、所謂一大障礙物とは、何事をなすにも先づ歐洲列國に謀らざるべからざることは是なり。

昨年の債金委員任命の如きは其一例にして、此問題は三四人が半時間も車を圍めば直ちに決定し得べきほど簡單なるものなるに、之が爲めに大部の報告書を作りて各國の政府と文書を往復し、久しきに彌りて決定を見ざりき。

斯かる有様にては我等の計畫の全部を遂行すること殆ど不可能なるべし。一方に於て我等は此國を去るに先ちて、其政治を改善し、將來に於ける善政の基礎を置かざるべからず、即ち將來埃及政府をして、改革を實行する自由を有せざるを以て、惡政に對する口實となさしめざるさう、豫め處置する所なかるべからず、然るに他方に於て我等は歐人の爲め、埃及人の爲め並に英人自身の爲めに、早く此地を去らざるべからず。

現在の事情を觀れば、此兩者は殆ど兩立すべからざるものなり、即ち凡ゆる改

革を實行せんが爲め詳細なる問題を一々各國と商議せば、之が爲めに幾多の歲月を要し、遂には不知不識の間に併合若くは之に類する政策を執らざるべからざるに至るの虞あり、さればとて一切の煩累を切り捨て、此國の政治も經濟も總て成行の儘に放任して此地を去らば、國內の平和は遠からずして破壊せられ、再び干渉の必要を見るに至るべし、余は此間にありて如何なる處置に出づべきかを知らざることを告白す。

撤兵と同時に俄に平和と秩序との破壊せらるゝが如き處なき時期は、近き將來に於て或は之を見るを得ん、されど歐洲列國と我國の輿論とが我等に期待する所は決して之に止まらざるべし、我等にして解決すべき問題の一片にては、其儘に放任せば、他日再び干渉せざるべからざる位置に立つか、然らずんば他國(恐らくは佛國)が我等の完成せざりし事業を引き受くるを傍觀するの外なかるべし。

埃及より退去するは、アフガニスタンより退去するとは大に趣を異にす、アフガニスタンの内政に就きて著しく痛痒を感ずる者はアフガン人のみなりし



を以て、此半開的國民を彼等の半開的治者の手に委するに際しては、何等重大なる困難を感せざりき。嗣つて埃及の事情を視れば、國家の土著たる國民の精神的並に物質的情態は、殆どアッガムンに於て見る所と甲乙なきに拘らず、其上に巨額の外債、歐風の法廷、契約の自由、其他歐洲文明の附屬物、善良なるものもあれども、最悪なるものも少からずの合して成立せる奇怪なる建築物ありて、歐人の支持に依らずんば、何時倒潰するや料るべからざるものあり、而して余は如何なる場合にも、歐洲列國が此大厦の瓦解を傍觀し、甘んじて其餘累を受くべしと信ずる能はず。

我等は苟くも埃及政府の権限内の事に就きては、努めて其改善を圖り、今や其進歩の大に見るべきものあり、例へば監獄の改良、裁判所の發達等の如し。然るに國際的問題、重大なる問題は、大抵皆國際的なり、に關しては、殆ど何事をもなし得ざる有様なり。

我等は凡ゆる努力を辭せざりしも、尙未だ家庭税の問題を落着せしむるを得ず、次に來るは職業税なるが、之にも亦特殊の困難の轉るを見る。

混合裁判所の改革と、領事裁判制度の廢止とに就きては、幾回協商を重ねるも、恐らくは解決の期なからん。

國債償却法を如何にすべきかも重大なる問題にて、之にも幾多政治上の困難の附隨せるを見る。されど余は此法規を變更せざる限り、財政整理の機會なきを恐るゝ者なり、蓋に余は國債整理委員會の承認を経て整理の實を舉げ得べきを信せしも、此手段も亦甚だ困難にして、列國に逼りて法規を變せしむるに劣らざる障礙あり。

農民の負債に關する問題も、列國に訴ふるにあらざれば解決する能はず、何となれば、殆ど何事をなすにも先づ混合裁判所の法規を變更する必要あればなり。

ドイツ、サマー、並にドメインズに關しても、解決を要する種々の問題あり、されど此處にも國際的障碍の其途を遮るを奈何せん。

直接國際的關係を有せざるもの、内にも、間接に列國より妨げらるゝもの、少からず、例へば濠洲に巨額の資本を投ずるは、且下の急務にして、メーデンに體



道を敷設することも亦必要なれども、財政の基礎鞏固となるまでは、是等の費用を得ること甚だ困難なり。

貴下は何故に余が貴下の已に熟知せらるゝことを斯く書き送ぬるかを怪まらるゝならん。余の冀ふ所は、是等の情態に對する救済策に關して、貴下の尊慮を煩はさんとするにあり。試に余の希望を吐露せんか。余の希ふ所は、我政府が列國に通牒を發して、先づ我等の困難なる事情を説明し、次に左の如く述ぶるにあり。曰く、我等は今後瑣々たる問題を一々列國に謀ることを罷り、秩序整頓の曉に其結果を全體として列國の前に提出し、同時に撤兵を斷言すべしと。

余に二千の兵力と英埃兩國政府以外を顧みずして事を決する權能とを與へらるゝを得ば、余は滿一ヶ年以内に埃及全土に英兵の隻影をも見ずして、而も再び埃及問題を惹起する虞殆どなきに至らしめ得べきを保證す。註、此豫想の餘に樂天的なりしは、余も亦之を認む。若し何時までも現在の方法に固着せば外國との關係ある多くの問題を一定の期限内に解決するは、余の到底なし能はざる所なり。尤も純然たる國內の問題は、種々の困難あるに拘らず、其解決は

不可能にわらず、余は此意見を提出するに先ちて大に躊躇せり。余はこの問題が單に埃及の改革のみを眼中に置き、て決せらるべきにわらずして、廣く一般の國際的關係をも考察して決せられざるべからざるを知る、而して此立場よりすれば、右の如き手段を執るは、或は不可能のことならん。されど一應右の事情を陳述して、貴下の參考に供するは不可なかるべし。惟ふに貴下は其豊富なる智識と經驗とに依りて、余の生硬なる意見に優る計畫を案出せらるゝを得んか。

尙余は上述の議論を發展せしめて、新手段を執るの必要を一層切實に表し得べきを信ず。されど斯かる公文を草するは、余に於て之をなすの利益を認めざる限り、勿論不必要なるべし。

之を要するに、余の建言は英國が一時埃及の政治を引受くるに在りしが、十一月九日附を以てシランヒル卿より返信あり、其内に曰く、埃及の現状に就きての貴下の有力にして稍、陰鬱なる意見に對して回答するには、多少熟考の時日を要す。余は貴下の示されたる方法は、餘に激烈に過ぎざるかを恐るゝものなれども、尙